オーナーズマニュアル

HYPERMOTARD

HYPERMOTARD SP

DUCATI

オーナーズマニュアル

日本人

HYPERMOTARD

HYPERMOTARD SP

本取扱説明書はモーターサイクルを構成する一部であり、使用期間はモーターサイクルと共に保管しなければなりません。
所有者が変更される場合は、本取扱説明書も新しい所有者に譲渡されなければなりません。
本取扱説明書は大切に保管しなければなりません。損傷や紛失した場合、速やかにDucatiオフィシャルディーラーまたはサービスセンターに新しい取り扱い説明書を請求してください。

ドゥカティモーターサイクルの品質と安全性はデザイン、装備、アクセサリーの開発に伴い絶えず更新され、したがって本取扱説明書には印刷の時点での最新情報が記載されていますが、Ducatiモーターホールディング社は予告なく、またその義務を負わず、いつでも変更する権利を有します。このため、お客様の実際のモーターサイクルと比較すると、いくつかの図に違いがある可能性があります。

本マニュアルの全て又は一部を複製又は流布することは禁止されています。あらゆる権利はDucatiモーターホールディング社に帰属しており、理由を明記したうえで(書面による)許可の申請をしなければなりません。

楽しいライディングを！

目次

はじめに　7
安全性ガイドライン　7
本取扱説明書で使用されている警告シンボルマーク　8
用途　9
ライダーの義務　9
ドライバーのトレーニング　10
服装　10
安全のための"ベストプラクティス"　12
燃料の補給　14
最大積載時の運転　15
積載容量について　15
危険物 - 注意事項　15
車両識別番号　18
エンジン識別番号　19

インストルメントパネル(ダッシュボード)　20
インストルメントパネル　20
技術用語　23
機能ボタン　25
LCD - メイン機能　26
LCD - パラメータ設定/表示　27
車両速度計　29
エンジン回転数表示(RPM)　30
メニュー1の機能 :　31
メニュー1の機能: オドメーター (TOT)　32
メニュー1の機能: 走行距離(TRIP 1)表示　33
メニュー1の機能: 走行距離(TRIP 2)表示　34
メニュー1の機能: 燃料リザーブトリップメーター(TRIP FUEL)　35
メニュー1の機能: 平均燃費(CONS. AVG)表示　36
メニュー1の機能: 瞬間燃費(CONS.)表示　37
メニュー1の機能: 平均スピード(SPEED AVG)表示　38
メニュー1の機能: トリップタイム(TIME TRIP)表示　39
メニュー2の機能 :　40
メニュー2の機能: エンジンクーラント温度　41

メニュー2の機能: 外気温(AIR)　43
メニュー2の機能: 時計　44
SET UP - "設定ライディングモード"表示　45
SERVICE機能 - メンテナンス作業　46
ERROR機能ON/OFF表示　49
"LAP"機能ON/OFF表示　50
"ライディングモード"SET UP機能　51
エラー表示(ERRORS)　55
設定メニュー　60
ライディングモードのパーソナライズ　62
DTCセットアップ　66
ABSセットアップ　71
ENGINEセットアップ　75
ALL DEFAULT（すべてのライディングモードのデフォルトパラメーターの修復）　77
DEFAULT（各ライディングモードのデフォルトパラメーターの修復）　79
インストルメントパネルのバックライト調整(B.LIGHT)　81
LAP機能: LAP ON/OFF機能　83
LAP機能: LAPの記録　85
ラップタイム機能（LAP）: 記録済み LAP の表示　87
時計の調整機能(CLOCK)　91
バッテリーテンション機能（BATTERY）　93
エンジン回転数のデジタル表示(RPM)　94
イモビライザー暗証番号(PIN CODE)　95
イモビライザーシステム　103
キー　104
車両解除用のための暗証番号(PIN CODE)の入力　105
作業　108
キーの複製　109
ランプコントロール　110
単位の変更機能(UNITS)　113
その他の機能　123

運転時に必要なコマンド　125
コマンド類の配置　125
イグニッションスイッチ / ステアリングロック　126
左側スイッチ　127
クラッチコントロールレバー　128
右側スイッチ　131
スロットルグリップ　132
フロントブレーキレバー　133
リアブレーキペダル　134
ギアチェンジペダル　135
ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの配置調整　136

主要構成部品 / 装備　138
車両上の配置　138
燃料フィラープラグ　139
シートロック　140
ヘルメットホルダーケーブル　142
サイドスタンド　144
フロントフォーク調整　145
リアショックアブソーバー調節　147

運転のしかた　149
慣らし運転の方法　149
走行前の点検事項　151
ABS装置　153
車両の起動　154
車両の発進　156
ブレーキ操作　157
車両の停止　159
パーキング　160
燃料の補給　161
付属アクセサリー　162

主な整備作業とメンテナンス　163
クーラントレベルの点検および補充　163
ブレーキフルードレベルの点検　164
ブレーキパッドの摩耗点検　166
バッテリーの充電　167
トランスミッションチェーン張力の点検　171
チェーンの潤滑　173
ヘッドライトの電球の交換　174
ターンインジケーターランプの交換　177
ナンバープレートランプ　178
ヘッドランプの光軸調整　179
リアビューミラーの調整　181
チューブレスタイヤ　182
エンジンオイルレベル点検　184
スパークプラグの清掃と交換　186
車両の清掃　187
長期間の保管　188
重要注意事項　188

メンテナンスプログラム　189
メンテナンスプログラム：ディーラーで行うメンテナンス　189
メンテナンスプログラム：お客様が行うメンテナンス　192

テクニカルデータ　193
重量　193

寸法　194
給油　195
エンジン　196
タイミングシステム　197
性能データ　198
スパークプラグ　198
燃料供給　198
ブレーキ　198
トランスミッション　199
フレーム　200
ホイール　200
タイヤ　200
サスペンション　200
エキゾーストシステム　201
カラーバリエーション　201
エレクトリカルシステム　202

定期点検メモ　208
定期点検メモ　208

はじめに

安全性ガイドライン

この度はDucati製品をお買い上げ頂きありがとうございます。貴方をドゥカティストの仲間としてお迎えできるのは、私達にとって何よりの喜びです。この新しいバイクでは日常的に利用されるだけではなく、ロングツーリングも楽しまれることと思います。Ducati Motor Holding S.p.A.は、そのライディングが常に快適で楽しいものであるよう願っています。

お客様のモーターサイクルはDucatiモーターホールディング社の絶え間ない研究と開発から得られたものであり、メンテナンスプログラムに従い、オリジナルスペアパーツを使用することで品質を維持することが重要です。本取扱説明書には簡単なメンテナンス作業の実施方法が記載されています。より重要なメンテナンス作業は、Ducatiオフィシャルディーラーまたはサービスセンターに配備されているディーラーマニュアルに記載されています。
あなた自身のため、また製品の安全性及び信頼性を保証するために、定期メンテナンスプログラムで行うあらゆる作業は、Ducatiオフィシャルディーラーまたはサービスセンターにご依頼頂くよう強くお薦めします（ページ 189参照）。

Ducatiオフィシャルディーラーの熟練したスタッフが、どのような整備作業にも対応できる専用器具と適切な工具、完璧な交換可能性、円滑な作動、ロングライフを保証するDucatiオリジナルパーツのみを使用し、最善のサービスを提供致します。

全てのDucatiモーターサイクルには保証書が付属しています。
車両を競技やそれに類する目的に使用する場合は保証の対象外となります。
車両や部品の一部でも交換したり、改造したり、変更した場合、保証は適用されません。メンテナンスが正しく行われなかったり、不十分だったり、オリジナルでない又はDucatiに承認されていないスペアパーツが使用されている場合、車両に損傷を招いたり、期待される性能が得られないばかりでなく、保証が適用されなくなることがあります。

お客様とその他の人の安全性は非常に重要です。
Ducatiモーターホールディング社はお客様にモーターサイクルを責任をもって使用されることをお願いします。
お客様のモーターサイクルをはじめてご使用になる前に、本取扱説明書を最初から最後まで注意深くお読みになり、記載されているガイドラインに忠実に

従ってください。正しい使用法とメンテナンスに関するすべての情報を得ることができます。車両について不明な点、さらに詳しくお知りになりたい点がある場合は、ご購入先のオフィシャルディーラーにお問い合わせ下さい。

本取扱説明書で使用されている警告シンボルマーク

お客様又はその他の人に負わす可能性のある危険について、以下のような異なる形式で記載されています。

- モーターサイクルの安全性に関するラベル
- 注意シンボル、及び警告又は重要シンボルのうちの一つで表わされる安全性に関するメッセージ。

警告
この説明を遵守しなかった場合、ライダー又はその他の人が重度の負傷および死亡に至る危険性があります。

重要
車両や車両構成部品に損傷を与える可能性があります。

参考
作業上の追加注意事項。

文中の「右」、「左」の表記は進行方向を見たときのを方向です。

用途

舗装されていない道路やオフロードでこのモーターサイクルを使用することができます。

警告

本モーターサイクルでのトレーラーのけん引やサイドカーの取り付けは行わないでください。車両のコントロールを失い、事故を招くおそれがあります。

このモーターサイクルにはライダーが乗り、パッセンジャーを乗せることができます。

警告

ライダー、パッセンジャー、荷物、アクセサリーを含めた走行時の総重量は、406kg/895 lbを越えてはいけません。

ライダーの義務

すべてのライダーは運転免許証を所持していなければなりません。

警告

無免許運転は違法です。こうした行為は法律で罰せられます。モーターサイクルを運転する前に、運転免許証を携帯していることを必ず確認してください。経験の浅い運転者や運転免許証を有しない人に運転をさせないようにしてください。

飲酒後や麻薬の使用後には運転しないでください。

警告

アルコールや薬物の影響が残っている状態で運転するのは違法です。こうした行為は法律で罰せられます。

薬の副作用に関する情報をかかりつけの医師から説明を受けていない場合は、運転前の薬の服用は避けてください。

警告

薬によっては眠気やその他の症状を引き起こすことがあります。運転者が思うようにモーターサイクルを操縦できず、制御不能に陥り事故を招くおそれがあります。

保険の加入を義務付けている国があります。

警告
現地の法律をご確認ください。保険に加入し、保険証明書はモーターサイクルの他の書類と一緒に大切に保管してください。

ドライバー及び必要に応じてパッセンジャーの安全を守るため、規格に適合したヘルメットの着用を法律で義務付けている国があります。

警告
現地の法律をご確認ください。ヘルメットを着用せずに運転すると罰則が科せられることがあります。

警告
事故が起こったときヘルメットを着用していないと、重大な傷害を受ける危険性が高くなり、最悪の場合死に至ることがあります。

警告
ヘルメットが安全規格に適合していること、十分な視野が取れていること、頭に合ったサイズであること、ご使用になる国の基準適合マークが貼付されてることを確認してください。道路交通法は各国で異なります。モーターサイクルを運転する前に現地の法律を確認し、必ずそれに従ってください。

ドライバーのトレーニング

多くの事故は経験不足のために起こります。運転、操作、ブレーキは他の車両とは違う方法で行わなければなりません。

警告
ライダーの経験不足や車両の不適切な使用は、コントロールを失い、死や重大な破損の原因になる可能性があります。

服装

モーターサイクル使用時の服装は安全性の面で非常に重要です。モーターサイクルは衝撃に対して車のように人を保護することができません。

適切な服装とは、ヘルメット、目を保護するゴーグル、手袋、ブーツ、長袖ジャケット、長ズボンです。

- ヘルメットはページ 9に記載されている要件を満たしていなければなりません。バイザーの付いていないモデルのヘルメットを使用する場合には、適切なメガネを使用してください。
- 手袋は革製又は摩耗に耐える素材のもので、5本指のものでなければなりません。
- 運転用ブーツ又は靴は、滑り止めソール及び足首のプロテクションが付いていなければなりません。
- ジャケット及びズボン、又は防護スーツは、革製又は摩耗に耐える素材のもので、非常に目立つ色でなければなりません。

重要
車両の部品に巻き込まれるおそれがあるような、ゆったりとした衣類やアクセサリーの着用は避けてください。

重要
安全のために夏冬季節に関係なく適切な装備を着用してください。

重要
パッセンジャーも安全のため、適切な服を着用してください。

安全のための"ベストプラクティス"

使用前、使用中、使用後、人の安全性の確保に非常に重要な簡単な作業及びモーターサイクルの有効なメンテナンスを忘れずに行ってください。

重要

慣らし運転期間中は、本冊子の "使用規定" の章に記載されている指示に従ってください。
この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

警告

運転する上で必要なコマンド類について十分な知識がない状態で運転を行わないでください。

起動前には本取扱説明書に記載されている点検を行ってください （ページ 154参照）。

警告

これらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーに重大な傷害を招くおそれがあります。

警告

エンジンの始動は必ず換気の良い適切な場所で行ってください。閉めきった場所では絶対にエンジンを始動しないでください。
排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。
走行中は適切な姿勢を保ち、パッセンジャーも同様に正しい姿勢で乗車していることを確認してください。

重要

ライダーはハンドルから絶対に手を離さないでください。

重要

走行中、ライダーおよびパッセンジャーは必ず足をペダルに乗せてください。

重要

パッセンジャーはシート下のフレームの所定のハンドルバーを常に両手で握ってください。

重要
私有地や駐車場からの出口、または高速道路の出口などでの交差点では十分に注意してください。

重要
相手から良く見えるように心がけ、前方車両の死角に入って走行することは避けてください。

重要
右左折や走行車線を変更する際は、常に十分な余裕を持ってターンインジケーターで意思表示を行ってください。

重要
モーターサイクルはサイドスタンドを使用して、他の邪魔にならないように駐車してください。路面の悪い場所や柔らかい場所には駐車しないでください。モーターサイクルが転倒する危険があります。

重要
タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。
トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

警告
エンジン停止後でもエンジン、エキゾーストパイプ、サイレンサーは高温な状態が続きます。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

警告
モーターサイクルの傍から離れる際は、必ずイグニッションキーを抜き取り、他人が勝手に使用できない場所にキーを保管してください。

燃料の補給

燃料の補給は屋外で、エンジンが停止している状態で行います。
給油時には絶対に喫煙せず、火気を近付けないでください。
エンジン及びエキゾーストチューブに燃料がかからないように注意してください。
給油中、燃料タンクを完全に満タンにしないでください。燃料レベルは燃料タンクの給油口より低くなければなりません。
給油中、燃料の蒸気をできるだけ吸いこまないようにし、目、皮膚、服に触れないようにしてください。

警告
この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料（E10）のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

警告
燃料の蒸気を長時間吸い込み気分が悪くなった場合には、屋外にとどまり、医師に相談してください。目に入った場合は大量の水で洗い流し、皮膚に触れた場合は速やかに石鹸水で洗ってください。

警告
燃料は非常に引火しやすいので、過って衣服に付着した場合には着替えてください。

最大積載時の運転

このバイクは最大積載時でも長距離を安全に走行できるように設計されています。
重量をバランス良く配分することは、通常の安全走行に必要な注意事項です。凸凹な道を走行したり、急な進路変更を必要とする際のトラブルを避けるために非常に重要です。

警告
サイドバッグおよびトップケースを取り付けた場合の最高許容速度は180 Km/hを超えてはならず、いずれの場合も法定速度を遵守しなければなりません。

警告
最大許容重量を超えないようにしてください。また以下に記載されている車両への積載に関する注意事項をよくお読みください。

積載容量について

重要
積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置してください。

重要
車両が不安定になりますので、ステアリングヘッドやフロントマッドガード部に体積や重量のかさむものを固定しないでください。

重要
バッグなどの荷物は車体にしっかり固定してください。確実に固定されていないと、運転が不安定になる危険があります。

重要
車両の可動部分の妨げになるおそれがありますので、フレームのすき間に絶対に物を挟まないでください。

警告
タイヤの空気圧が適正であり、コンディションが良好であることを確認してください。

ページ 182の"タイヤ"の章を参照してください。

危険物 - 注意事項

使用済みエンジンオイル

警告
使用済みエンジンオイルが長期間わたり繰り返し表皮に触れると、上皮がんの原因になる場合があります。日常的に使用済みエンジンオイルを使用する場合、作業後すぐに水と石鹸で手を十分に洗ってください。お子様の手の届かないところに保管してください。

ブレーキダスト

ブレーキユニットを清掃する際、圧縮空気のジェットやドライブラシは絶対に使用しないでください。

ブレーキフルード

警告
車両のプラスチック、ゴム製部品、塗装された部品にブレーキフルードがかかると、部品が破損する原因になる場合があります。作業をおこなう場合は、毎回システムのメンテナンスを実施する前にきれいな布をこれらの部品の上にかけてください。お子様の手の届かないところに保管してください。

警告
ブレーキフルードは腐食性があります。万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

クーラント

特定の条件下ではエンジンクーラントに含まれるエチレングリコールが発火し、その炎は目に見えません。エチレングリコールが発火するとその炎は目に見えず、重大なやけどの原因になることがあります。

警告
エンジンクーラントがエキゾーストシステムやエンジン部品にかからないようにしてください。

これらの部位は高温のためクーラントを発火させる危険があり、見えない炎で焦げてしまいます。クーラント(エチレングリコール)は皮膚の炎症の原因になることがあり、飲み込むと有毒です。子供の手の届かない場所に保管してください。エンジンがまだ熱いときにはラジエーターのキャップを取り外さないでください。クーラントは圧力がかかっており、やけどの原因になることがあります。
クーリングファンは自動的に作動するので手や衣服を近付けないでください。

バッテリー

警告
バッテリーは爆発性ガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

車両識別番号

参考
これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのフレーム番号（図 1）を控えておくことをお勧めします。

フレーム　N.

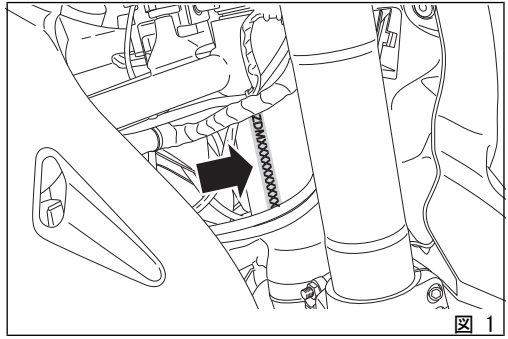


図 1

エンジン識別番号

参考
これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのエンジン番号（図 2）を控えておくことをお勧めします。

エンジン　N.

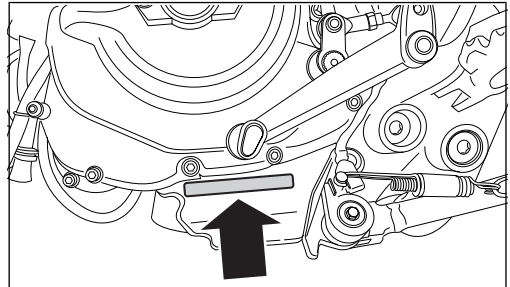


図 2

インストルメントパネル(ダッシュボード)

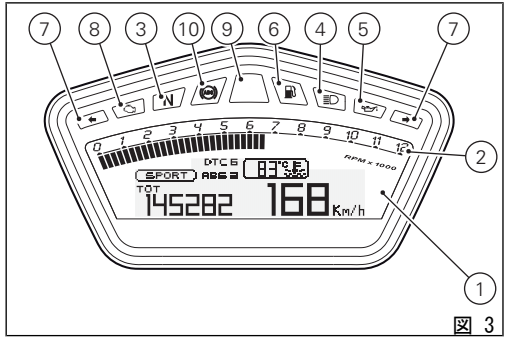


図 3

インストルメントパネル

1) LCD Dot-Matrix.

2) タコメーター (rpm)。
1分間のエンジン回転数を表示します。

3) ニュートラルランプN (緑)。
ギアポジションがニュートラルの時に点灯します。

4) ハイビーム表示灯 ≡D (青)。
ハイビーム点灯時に表示します。

5) エンジンオイル圧警告灯 (赤)。
エンジンオイルのプレッシャーが低すぎる時に点灯します。"Key-on" で点灯しますが、エンジン起動後、数秒の停止が必要です。エンジン温度が高い時に、場合によって数秒間点灯することがありますが、回転数が上がると消灯します。

重要
エンジンオイルランプが点灯し続ける場合は、エンジンが破損するおそれがありますので車両を使用しないでください。

6) リザーブ燃料警告灯　⛽ (琥珀色)。
燃料レベルがリザーブ状態になると点灯します。この際、燃料残量は約4リットルです。
7) ターンインジケーター表示灯　⇔ (緑)。
ターンインジケーターをONにすると点灯し、点滅します。ハザードランプを起動させると、両方のターンインジケーターが点滅します。
8) "エンジン/車両診断- EOBD"ランプ　(琥珀色)。
エンジンおよび車両、またはその一方にエラーが出ると同時に点灯しますが、場合によっては、エンジンブロックにつながることもあります。
9) リミッターランプ "OVER REV" / トラクションコントロールランプ "DTC" (赤)。

	Over revランプ
続行	停止
第一起点 - リミッターに達するRPM数 (*)	On - 無点滅
リミッター(外部回転切断) (*)	On - 点滅

(*) それぞれのエンジンコントロールユニットの口径測定は、モデルにより、リミッターの限界とリミッターそのもの次第で異なる設定になる場合があります。

	DTC干渉ランプ
干渉なし	停止
アドバンサーなし	On - 無点滅
インジェクションなし	On - 無点滅

参考
OVER REV 作動ランプと DTC 介入ランプが同時に点灯する状態にある場合、インストルメントパネルは OVER REV 作動ランプを優先させます。

10) ABSランプ (ABS)（琥珀色）（図 3)。

エンジン停止 /走行速度5 Km/h以下		
ランプOFF	**点滅**	**点灯**
–	メニューの機能を介してABS が解除されている(**)	ABS 機能はまだ発動していない
エンジン起動 /走行速度5 Km/h以下		
ランプOFF	**点滅**	**点灯**
–	メニューの機能を介してABS が解除されている	ABS 機能はまだ発動していない
エンジン起動 /走行速度5 Km/h以上		
ランプOFF	**点滅**	**点灯**
ABS機能は起動中	メニューの機能を介してABS が解除されている	問題発生のため、ABS は解除され作動していない

(**) エンジン起動後もランプが点滅する時のみ、 ABS が実際に解除されたことを示します。

技術用語

本マニュアルで使用されている頭字語及び略語

ABS
アンチロックブレーキシステム
BBS
ブラックボックスシステム
CAN
コントローラーエリアネットワーク
DDA
ドゥカティデータアナライザー
DSB
インストルメントパネル
DTC
ドゥカティトラクションコントロール
ECU
エンジンコントロールユニット

ライディングモード

ライダーは3つの初期設定(ライディングモード)からドライビングスタイルや道路の状態に最も合っているものを選択することができます。ライディングモードではエンジンの出力と排出量(ENGINE)、ブレーキコントロールレベル(ABS)、トラクションコントロールの干渉レベル(DTC)を瞬時に変更することができます。

可能な設定は次のとおりです。
Sport、Touring、Urban (Hypermotardおよび Hyperstrada)
Race、Sport、Wet (Hypermotard SP)
ライダーはそれぞれのライディングモードの初期設定を変更することができます。

ドゥカティトラクションコントロール(DTC)

ドゥカティトラクションコントロール(DTC)はリアホイールのスリップ制御を行い、8つの干渉レベルを基に機能します。それぞれリアホイールのスリップに対し異なる許容値がプログラムされています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された干渉レベルが割り当てられています。レベル8はごくわずかなスリップを検知しただけでシステムが作動し、一方、熟練ライダー向けのレベル1は許容値が高いのが特徴で、システムの干渉が最小限に抑えられます。

アンチロックブレーキシステム(ABS)

Hypermotard に搭載されているABSはデュアルチャンネルの次世代システムで、リアホイールのリフティングを制御することでインテグラルブレーキを行い、停止距離を短くするだけでなく、ブレーキ動作における高い安定性を確保します。ABSには異なる干渉レ

ベルがあり、それぞれひとつのライディングモードに関連付けられています。

ライドバイワイヤ(RbW)

ライドバイワイヤシステムは燃料供給スロットル開閉の電子制御装置です。ガスグリップとスロットルボディが機械的に接続されていなくても、スロットルの開度に作用し、エンジンコントロールユニットが出力を調整できるようにするものです。
ライドバイワイヤは選択したライディングモードに合わせて出力と排出量を変更(Engine)し、リアホイールのスリップの制御にも関与します(DTC)。

機能ボタン

1) コントロールボタン
インストルメントパネル" ▲ "上のパラメーター設定および表示に使用するボタン。
2) コントロールボタン
インストルメントパネル" ▼ "上のパラメーター設定および表示に使用するボタン。
3) フラッシャーランプボタン
フラッシャーランプ機能ボタンはLAP機能に使用する場合もあります。
4) ターンインジケーター解除ボタン
このボタンは通常ターンインジケーターの起動および解除に使用しますが、メニューの検索およびライディングモードの起動にも使用します。
このボタンを左側に3秒間押すと、ハザード機能が起動します(すべてのターンインジケーターランプ点滅)。

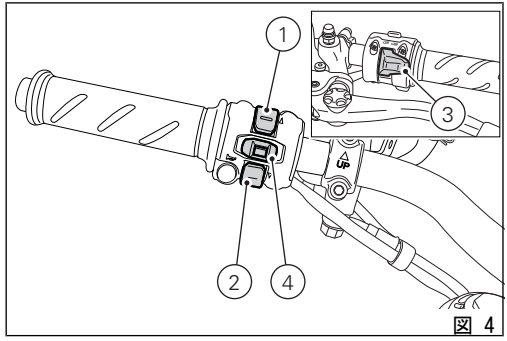


図 4

LCD - メイン機能

警告
インストルメントパネルでの操作は必ず車両が停止している時に行なってください。走行中にインストルメントパネルの操作は絶対に行わないでください。

メインスクリーンに表示可能な情報は以下のものです。
1) エンジン回転数表示
2) 車両速度表示
3) MENU 1（オドメーター、Trip 1、Trip 2、Trip Fuel、平均燃費、瞬間燃費、平均速度、走行時間）- UP-MAPメニューおよびライディングモードのセットアップ
4) MENU 2（クーラント温度、外気温、時計）
5) 設定されているライディングモードの名前
6) ライディングモードのDTCおよびABSの設定。

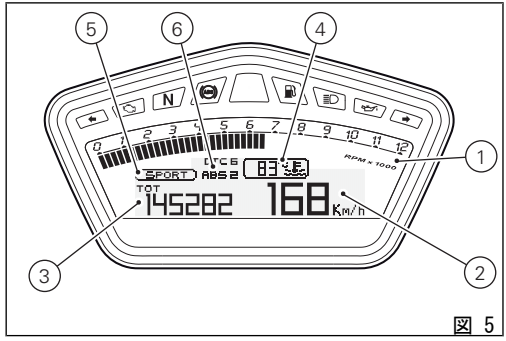


図 5

重要
温度が最高値に達した時は、エンジンが破損するおそれがありますので車両を使用しないでください。

LCD - パラメータ設定/表示

始動時、インストルメントパネルはタコメーターを起動し、0から11000間で増加し、0に戻ります。Dot-Matrixでは"DUCATI HYPERMOTARD"の文字がスクロール表示されます。ランプは外側から内側に向かって順に点灯します。

チェックが完了すると、インストルメントには常にオドメーター(TOT)、クーラント温度、"ライディングスタイル"の"メイン"表示が表れます。

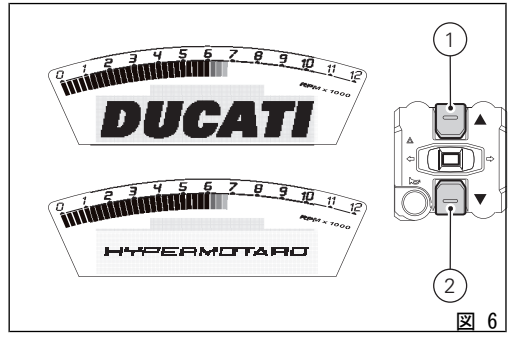


図 6

初期チェックが終了すると、インストルメントは必ず"メイン"表示に移り、次の情報が表示されます。

- MENU 1 (3): TOT - オドメーター
- MENU 2 (4): エンジンクーラント温度表示
- SET UP -ライディングスタイル設定表示(5)
- エンジン回転数表示(RPM) (7)
- 走行速度表示 (8)
- "SERVICE" 表示 (起動の場合)。

ボタン (2) でMENU 1 をスクロールし、次の機能に移ることができます。

- TRIP 1 - トリップメーター1
- TRIP 2 - トリップメーター2
- TRIP FUEL - 燃料リザーブトリップ メーター(起動している場合のみ)
- CONS. AVG - 平均燃費
- CONS. -瞬間燃費
- SPEED.AVG - 平均速度
- TRIP TIME - トリップタイム。

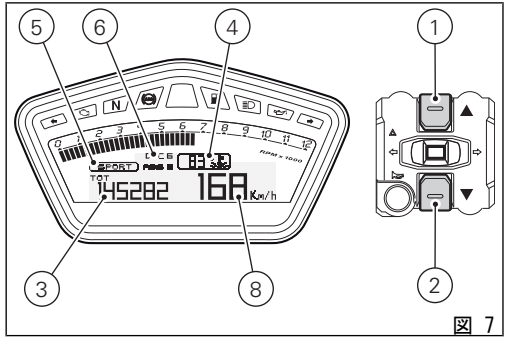


図 7

ボタン (1) でMENU 2 をスクロールし、次の機能に移ることができます。

- AIR - 気温
- 時計。

車両速度計

この機能は走行速度（Km/hまたはmphの選択が可能）を表示します。
インストルメントパネルは実際の速度(km/h)情報を5%増大させたデータを表示します。
表示可能最高速度は299 km/h (186 mph)です。
299 Km/h (186 mph)以上の場合、″－－－″(連続表示)が表示されます。

参考

インストルメントパネルがデータを受信していない場合、 “－－－” （点灯）が表示されます。

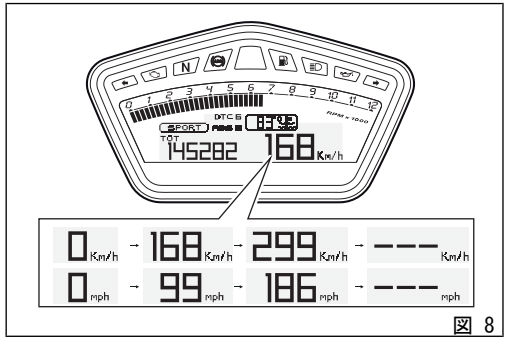


図 8

エンジン回転数表示(RPM)

この機能によりエンジン回転数が表示されます。
インストルメントパネルにはエンジン回転データが表示されます。
左から右に見えるデータは回転数を表します。

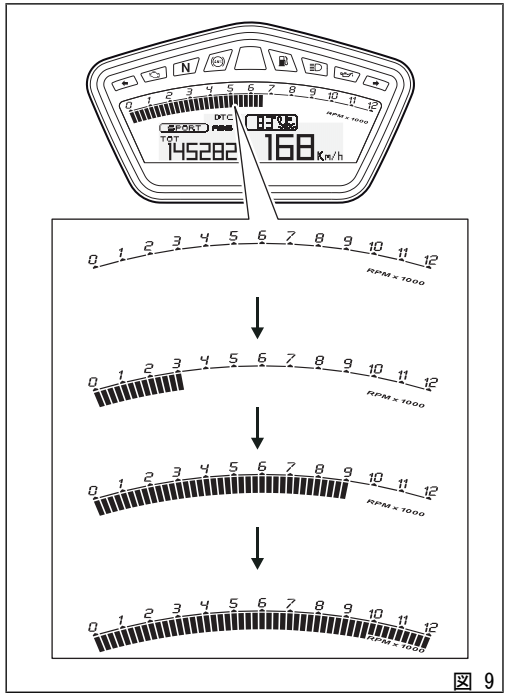


図 9

メニュー1の機能 :

MENU 1の機能は次のとおりです。

- オドメーター(TOT)
- トリップメーター1 (TRIP1)
- トリップメーター2 (TRIP2)
- 燃料リザーブトリップ メーター(TRIP FUEL)
- 平均燃費(CONS. AVG)
- 瞬間燃費(CONS.)
- 平均速度(SPEED AVG)
- トリップタイム(TRIP TIME)

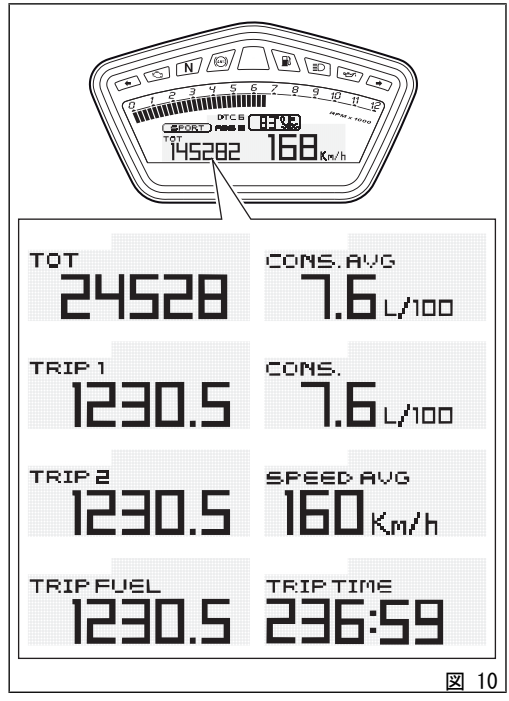


図 10

メニュー1の機能: オドメーター (TOT)

この機能では総走行距離を表示します(kmまたはマイル、ご使用のアプリケーションによって異なります)。
キーオンでシステムは自動的にこの機能に入ります。
数値は永久保存され、ゼロクリアすることはできません。
数値が199999 Km(または199999マイル)を越えると、表示は"199999"のまま残ります。

参考
電源の供給が中断 (バッテリー OFF) してもデータは消去されません。

参考
オドメーター機能で点線 " ----- " が点滅表示される場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

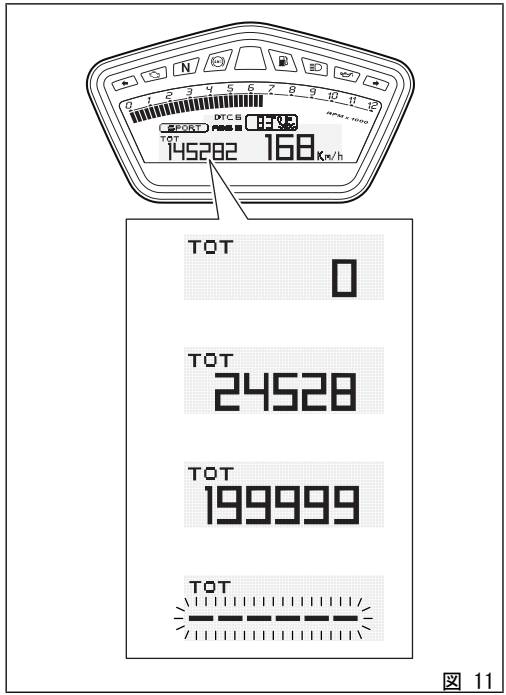


図 11

メニュー1の機能: 走行距離(TRIP 1)表示

この機能では部分的走行距離を表示します(kmまたはマイル、ご使用のアプリケーションによって異なります)。
この機能が表示されている時にボタン(1)を3秒間押すと、データはリセットされます。数値が 9999.9 を超えると、トリップメーターはリセットされて、自動的に再びゼロからカウントされます。システムの測定単位を変更もしくは供給中断 (Battery off) が発生した場合は、その時点でこの機能はリセットされ、0からカウントが始まります (新しく設定された単位で)。

参考
このデータがリセットされると、"平均燃費"、"平均速度"、"走行時間" 機能もリセットされます。

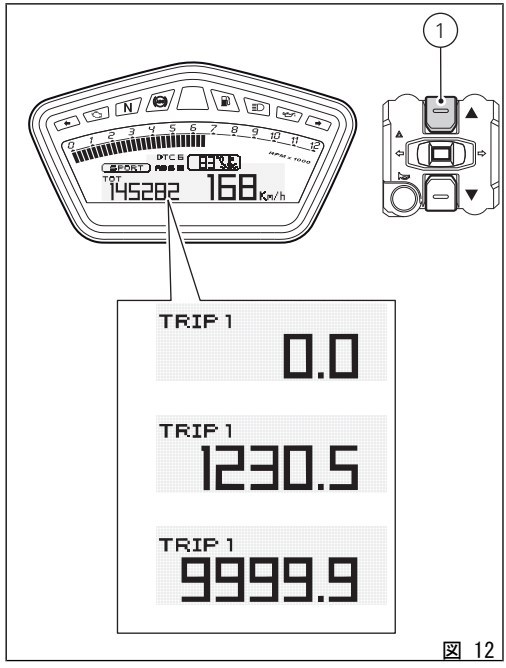


図 12

メニュー1の機能: 走行距離(TRIP 2)表示

この機能では部分的走行距離を表示します(kmまたはマイル、ご使用のアプリケーションによって異なります)。

この機能が表示されている時にボタン(1)を3秒間押すと、データはリセットされます。数値が 9999.9 を超えると、トリップメーターはリセットされて、自動的に再びゼロからカウントされます。システムの測定単位を変更もしくは供給中断 (Battery off) が発生した場合は、その時点でこの機能はリセットされ、0からカウントが始まります (新しく設定された単位で)。

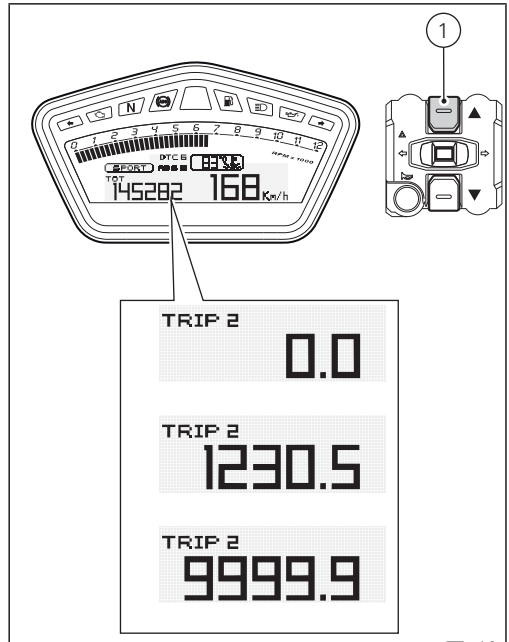


図 13

メニュー1の機能: 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)

この機能はリザーブに入ってからの走行距離を表示します(kmまたはマイル、ご使用のアプリケーションによって異なります)。リザーブランプが点灯した時点で、どの機能が表示されている場合でも、自動的にフューエルトリップ表示に変わります。その後、ボタン(2)でメニュー1の他の機能をスクロール表示することができます。

リザーブタンク使用の状態が続く場合は、値は キーオフ後もメモリに記憶されます。カウンターは給油後、リザーブ状態ではなくなった時点で自動的に中断します。数値が 9999.9 を超えると、カウンターはリセットされて、自動的に再びゼロからカウントされます。

TRIP FUEL機能が起動していない場合、メニュー1の対応するページは使用できません。

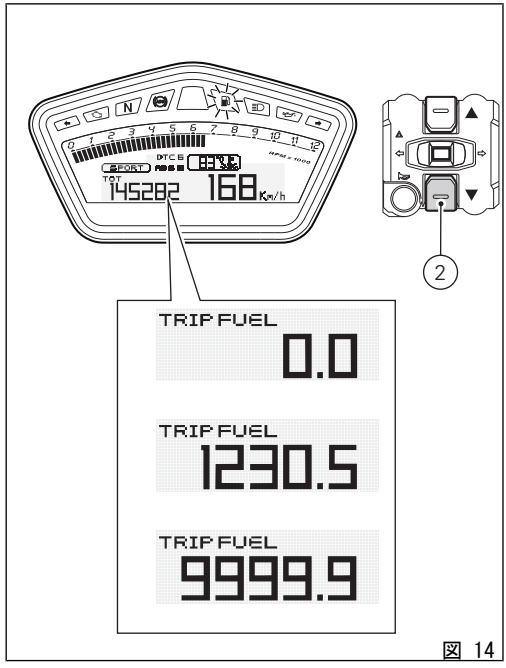


図 14

メニュー1の機能: 平均燃費(CONS. AVG)表示

この表示は車両の平均燃費を表します。使用燃料の量及びTrip1の最後のリセット以降の走行距離から計算されます。TRIP 1がリセットされると、データがリセットされ、最初のデータはリセットから10秒後に表示されます。数値がディスプレイされない最初の10秒間は “- -.-” が表示されます。ヨーロッパ、日本バージョンでは、 データは"L / 100” (リットル/ 100 Km)で表示されます。"特殊設定"機能で単位を “Km / L” (キロ/リットル)に変更することができます。UKバージョンでは、データは “mpg UK” (UKガロンあたりのマイル数)で表示されます。
車体停止、エンジン作動中も計算されます(エンジン停止中のギアの中断は考慮されません)。

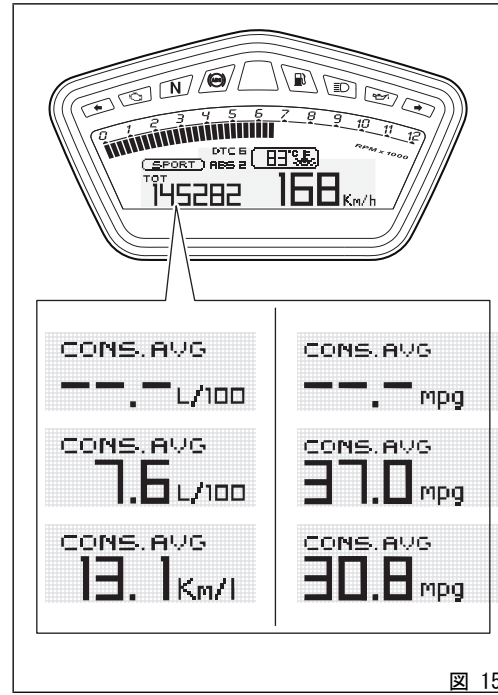


図 15

メニュー1の機能: 瞬間燃費(CONS.)表示

この表示は車両の瞬間燃費を表します。数値は消費燃料の量と最終秒の走行距離から算出されます。ヨーロッパ、日本バージョンでは、 データは"L / 100" (リットル/ 100 Km)で表示されます。"特殊設定"機能で単位を“Km / L” (キロ/リットル)に変更することができます。UKバージョンでは、データは“mpg UK” (UKガロンあたりのマイル数)で表示されます。

数値はエンジン起動中かつ車両が動いている時に算出されます(車両停止中もしくはエンジン停止中のギア中断はお勧めできません)。算出がされない場合、ディスプレイ上に “- -.-”が表示されます。

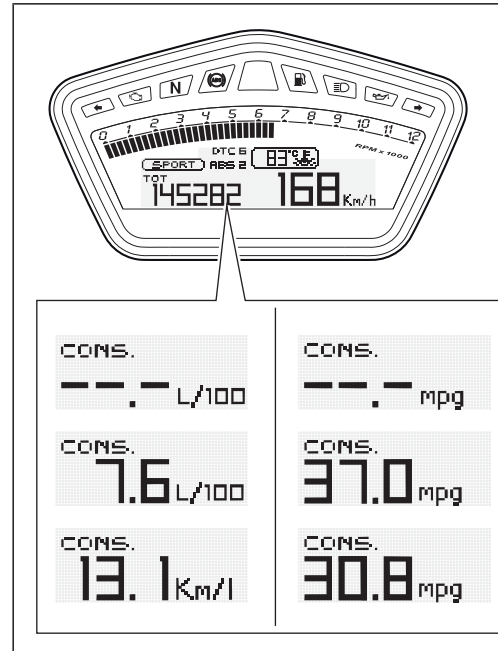


図 16

メニュー1の機能: 平均スピード(SPEED AVG)表示

車両の平均速度が表示されます。
TRIP 1の最後のリセット以降の走行距離及び時間から計算されます。TRIP 1がリセットされると、データがリセットされ、最初のデータはリセットから10秒後に表示されます。
数値がディスプレイされない最初の10秒間は “--.-” が表示されます。車体停止、エンジン作動中も計算されます(エンジン停止中のギアの中断は考慮されません)。
表示車両速度を5%増大させたデータを表示します。

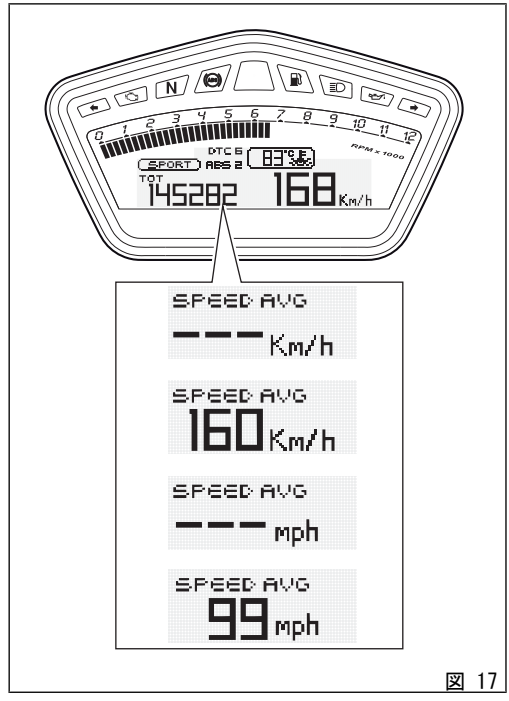


図 17

メニュー1の機能: トリップタイム(TIME TRIP)表示

この機能は車両の走行時間を表示します。
TRIP 1の最後のリセット以降の走行時間から計算されます。Trip1がリセットされると、データもリセットされます。
車体停止、エンジン作動中も計算されます（エンジン停止中のギアの中断で、時間は自動的に止まり、計算が始まると自動的に時間測定も始まります)。

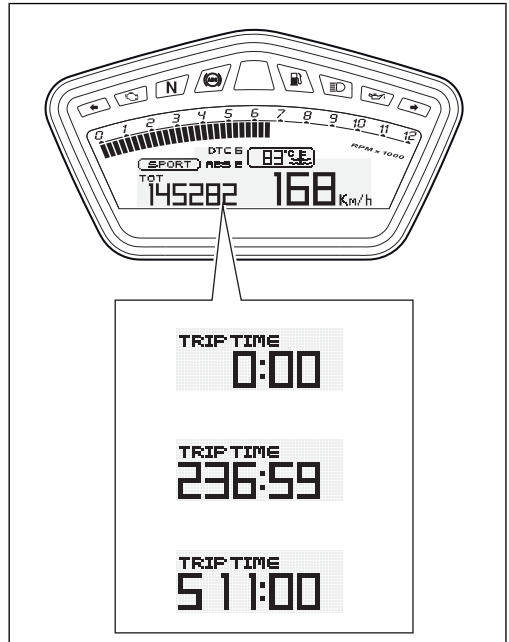


図 18

メニュー2の機能 :

MENU 2の機能は次のとおりです。

- エンジンクーラント温度
- 外気温 (AIR)
- 時計

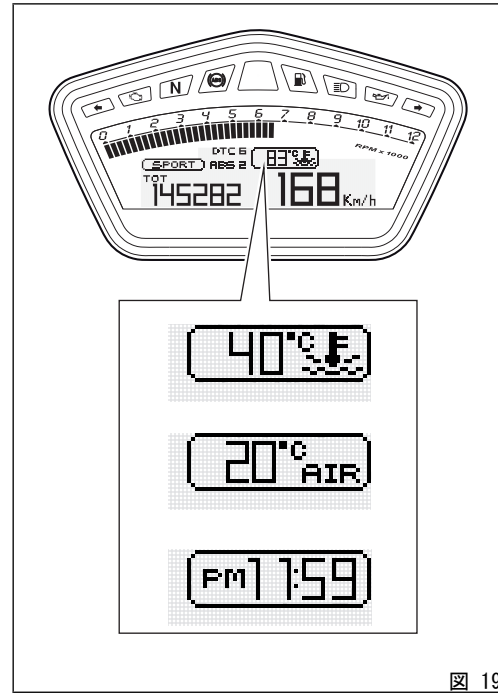


図 19

メニュー2の機能: エンジンクーラント温度

この機能ではクーラント温度を表示します（° Cまたは° F、ご使用のアプリケーションによって異なります)。
インストルメントパネルは温度の情報を受信し、それを表示します。
以下のとおり、データが表示されます:

- データが- 39° C から +39° Cの場合、インストルメントパネルには無点滅で “LO” と表示されます。
- データが- +40° C から +120° Cの場合、インストルメントパネルには無点滅で表示されます。
- データが+121 ° C (° F)以上の場合、ディスプレイ上には"HI"が点滅表示されます。

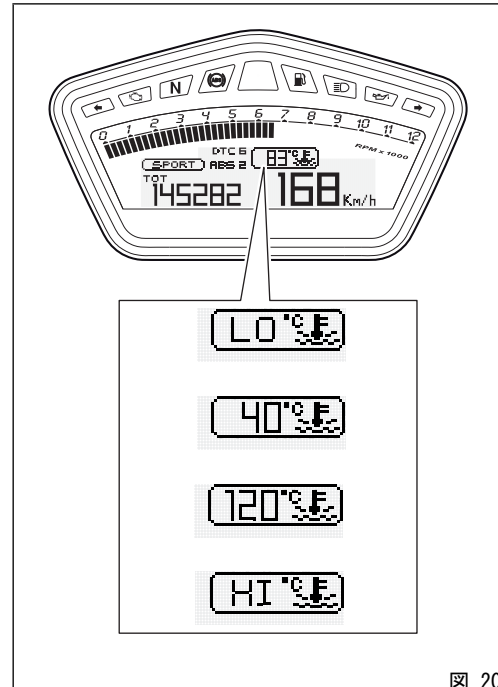


図 20

参考

センサー"エラー"の場合は "---"が点滅表示され、同時にエンジン/車両診断ランプ-EOBDが点灯します。

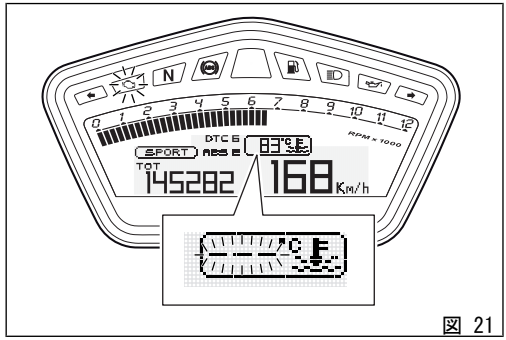


図 21

メニュー2の機能: 外気温(AIR)

この機能では外気温を表示します。
インストルメントパネルはセンサーから直接温度を検出し、ディスプレイに表示します。

参考
エンジンの熱が停車中の車両の温度表示に影響を与える場合があります。

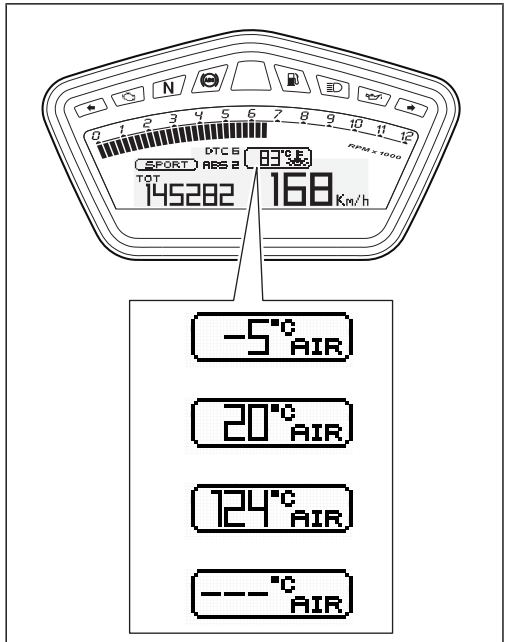


図 22

メニュー2の機能: 時計

この機能では時刻を表示します。
時刻は常に以下のように表示されます :

- AM 0:00 から11:59
- PM 12:00 から11:59

バッテリー電源が中断された場合(Batt-OFF)、電源の確保および次の起動時(Key-On)に時計はリセットされ、自動的に “0:00” から再開します。

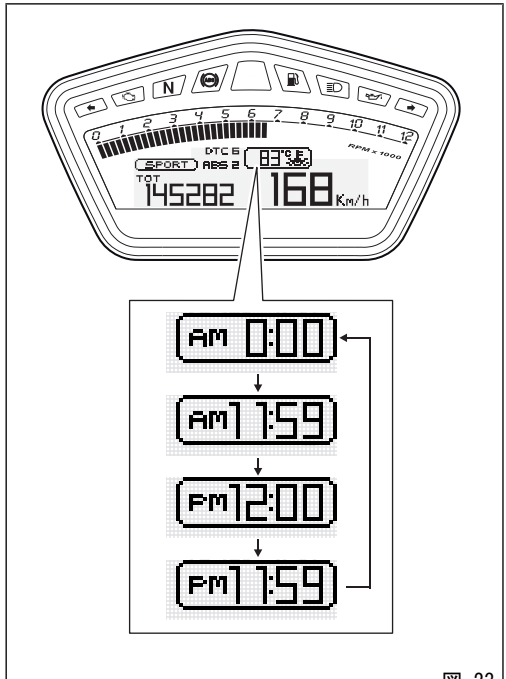


図 23

SET UP – "設定ライディングモード"表示

この機能は車両に設定されたライディングスタイルを表示します。
それぞれのライディングスタイルを Riding Mode 機能によって変更するができます。
設定されたライディングスタイル、トラクションコントロール(DTC)レベル、それに対応するABSレベルが表示されます。
設定可能なライディングスタイルはSPORT、TOURING、URBANの3種類です。

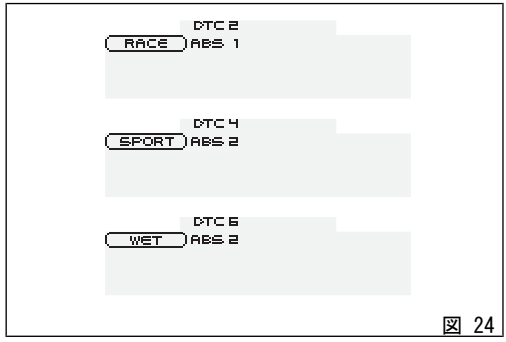


図 24

SERVICE機能 - メンテナンス作業

この機能により、Ducati オフィシャルサービスセンターにて車両の定期メンテナンス(定期点検)が必要であることを表示します。
すべてのメンテナンス表示のリセットは、メンテナンスを行うDucati オフィシャルサービスセンターのみがおこなうことができます。

最初の表示 : OIL SERVICE (1000 Km)

メンテナンスの最初の表示は"OIL SERVICE"で、オドメーターが最初の1000km(600マイル)に達すると起動します。"OIL SERVICE"がKey-On毎に5秒間点滅表示されます。OIL SERVICEのシンボルはディスプレイに表示されたままになります。オフィシャルサービスセンターが"リセット"をおこなうまでこれらは表示されたままになります。

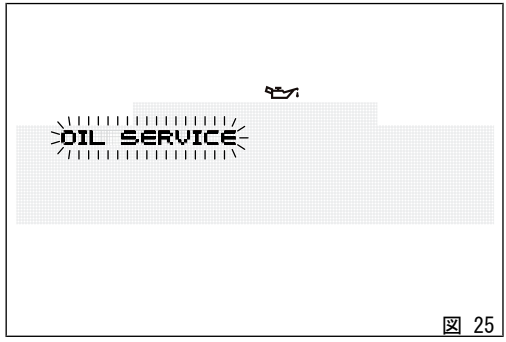


図 25

残走行距離 - OIL SERVICEまたはDESMO SERVICE(カウントダウン)

(1000km)の"OIL SERVICE"表示の最初のリセットが行われた後、key-On毎にインストルメントパネルは次の定期点検の種類(OIL SERVICE又はDESMO SERVICE)と、残りの走行距離を表示します。
"OIL SERVICE"または"DESMO SERVICE"の表示、それらのシンボル、および残りの走行距離は、Key-On 毎に2秒間"固定"表示されます。
次の定期点検までの残りの走行距離が1000 km以下になると、key-On時の表示が2秒ではなく5秒になります。
オフィシャルサービスセンターが"リセット"をおこなうまでこれらは表示されたままになります。

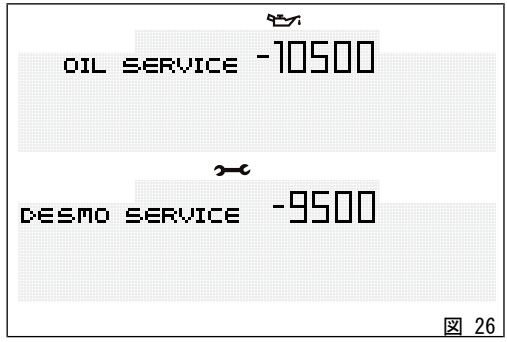


図 26

OIL SERVICE又はDESMO SERVICE表示（走行距離到達）

メンテナンスをおこなう走行距離に達すると、key-On毎に"OIL SERVICE"又は"DESMO SERVICE"のうち、必要なメンテナンスの種類が表示されます。
"OIL SERVICE"または"DESMO SERVICE"がKey-On毎に5秒間点滅表示されます。OIL SERVICEまたはDESMO SERVICEのシンボルがディスプレイに表示されたままになります。
オフィシャルサービスセンターが"リセット"をおこなうまでこれらは表示されたままになります。

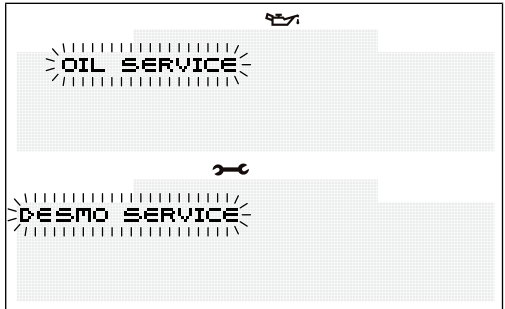


図 27

ERROR機能ON/OFF表示

この機能ではひとつ以上のエラーがあることを表示します。
ERRORS機能で設定メニューからどのようなエラーがいくつあるかを見ることができます。"ERRORS"の文字が消えている場合、エラーはありません。

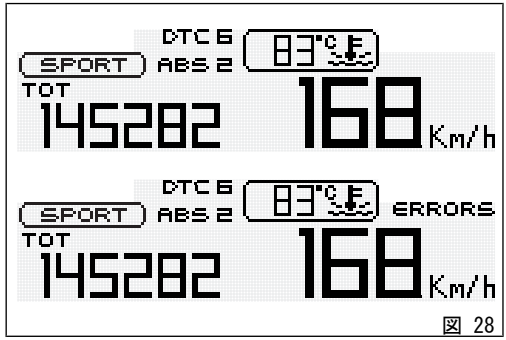


図 28

"LAP"機能ON/OFF表示

この機能はLAP(ラップタイム)機能 がONの状態の時のみ表示されます。
"LAP"の文字が消えている場合は、OFF状態を表します。

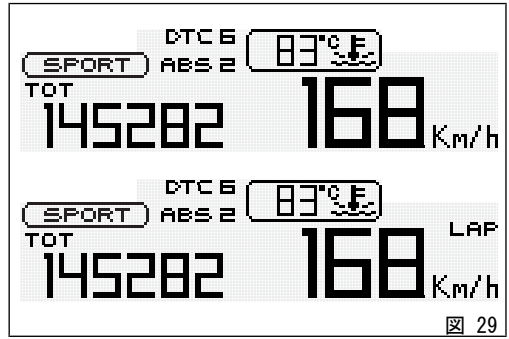


図 29

"ライディングモード"SET UP機能

この機能で車両のライディングスタイルの変更が可能です。それぞれのライディングスタイルは各自のトラクションコントロール (DTC - Ducati Traction Control)、ブレーキコントロール(ABS - Antilock Braking System)、エンジン排気量と出力(Engine)を兼ね備えています。車両のライディングスタイル変更は、ボタン(4)を一度だけ押し、ディスプレイ上にメニューが表示されます。ライディングスタイルを変更すると、 次の内容も変更されます。

- トラクションコントロール干渉レベル"DTC" (1、2、3、4、5、6、7、8、off)
- スロットル作動を変更するエンジン出力"Engine" (HIGH、MEDIUM、LOW)
- ABSシステムの許容値 (1、2、3、off)。

ボタン(4)を押すたびにインストルメントパネルにすべてのライディングスタイルがひとつずつスクロール表示されます。

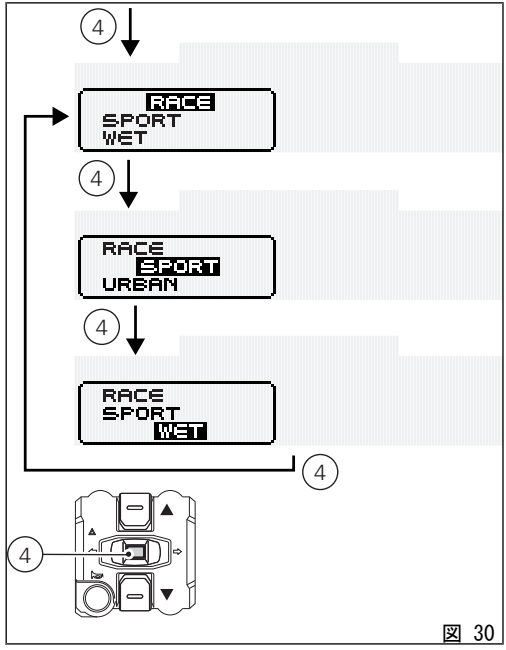


図 30

ボタン(4)を3秒間押して希望のライディングスタイルを強調表示すると、インストルメントパネルはガスグリップポジション、フロントブレーキおよびリアブレーキの圧力を確認します。

- ガスグリップが閉じており、ブレーキがかかっていない、または車両が停止している場合、インストルメントパネルは選択したライディングスタイルを承認し(*)、"スタンダードスクリーン"の表示に戻ります。
- ガスグリップが開いている、あるいはブレーキがかかっており、車両が動いている場合、インストルメントパネルはディスプレイに"CLOSE THROTTLE AND RELEASE BRAKES"(スロットルを閉じてブレーキを放してください)と表示します。すべての条件が確認された場合にのみ(ガスグリップが閉じており、ブレーキがかかっていないか車両が停止している)、インストルメントパネルは選択したライディングスタイルを承認し(*)、"スタンダードスクリーン"に戻ります。

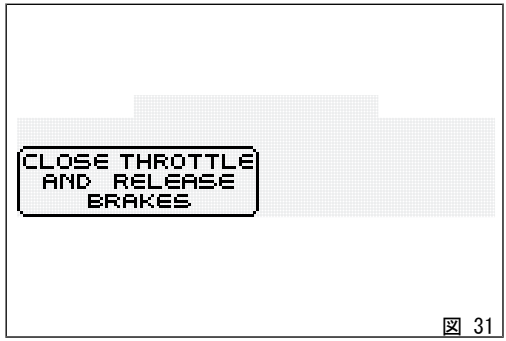


図 31

参考

(*) ライディングモードの変更の際に ABS システム状態の ON/OFF または OFF/ON を切り替えた場合、ライディングモード選択を決定する時、インストルメントパネルは "ABS 起動/解除手続き" を実行します。

"CLOSE THROTTLE AND RELEASE BRAKES""(スロットルを閉じてブレーキを放してください)の表示から5秒以内にガスグリップが閉じられない、ブレーキが放されない、車両の走行速度がゼロにならない場合、"ライディングモード"の変更はおこなわれず、

インストルメントパネルは設定を一切変更せずに"ス
タンダードスクリーン"に戻ります。

“SET UP”メニューが表示され、ボタン(4)を10秒連続で押さなければ、 インストルメントパネルは無変更のまま、自動的に表示が消えます。

警告
ライディングモードの変更は車両停止時に行うことをお勧めします。運転中にライディングモードの変更を行なう場合は十分にご注意ください（低速での変更をお勧めします)。

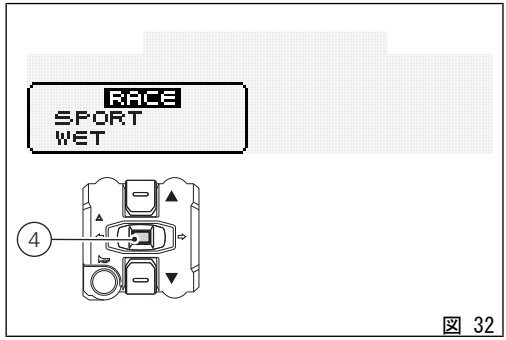


図 32

エラー表示(ERRORS)

この機能は車両の異常を点検します。
インストルメントパネルは、あらゆる車両異常（エラー）を即時に表示します。
起動中に"エラー"が検知された場合、ディスプレイの右側に"ERRORS"が表示されます。
ひとつ以上のエラーが発生すると、必ず"EOBD"ランプが点灯します。
エラーリストを表示するには、設定メニューから"ERRORS"ページに入ります。このページはひとつ以上のエラーがないと表示することができません。

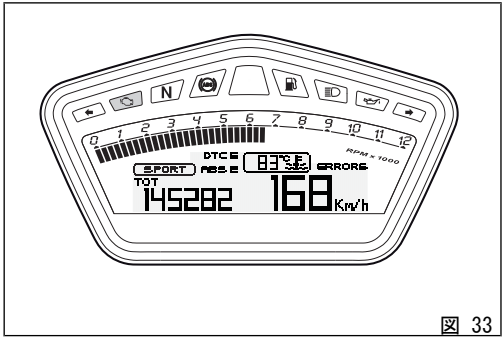


図 33

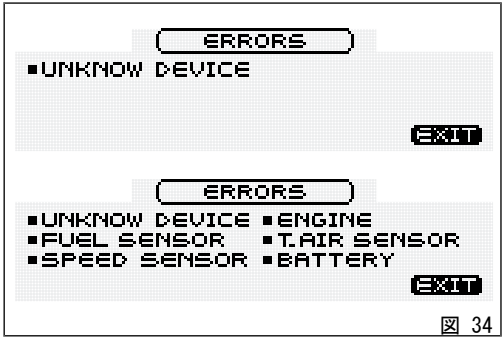


図 34

複数のエラーがある場合、自動的に"NEXT"および"PREVIEW"の文字が表示され、別のページを表示することができます。
別のページを表示するには、ボタン(1)および(2)で"NEXT"および"PREVIEW"を選択し、ボタン(4)を押します。
ボタン(4)で強調表示されている"EXIT"を選択すると、いつでもそのページを終了し、設定メニューに戻ることができます。

警告
ひとつ以上のエラーが表示される場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

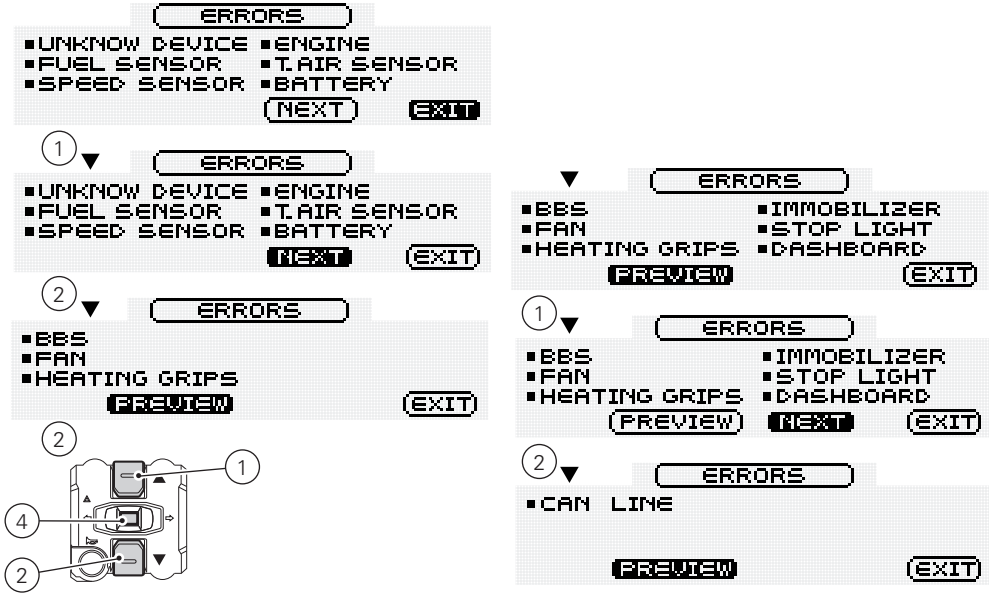

ERRORS
▪UNKNOW DEVICE
▪FUEL SENSOR
▪SPEED SENSOR
▪ENGINE
▪T.AIR SENSOR
▪BATTERY
NEXT
EXIT
1
ERRORS
▪UNKNOW DEVICE
▪FUEL SENSOR
▪SPEED SENSOR
▪ENGINE
▪T.AIR SENSOR
▪BATTERY
NEXT
EXIT
2
ERRORS
▪BBS
▪FAN
▪HEATING GRIPS
PREVIEW
EXIT
2
1
4
2
ERRORS
▪BBS
▪FAN
▪HEATING GRIPS
▪IMMOBILIZER
▪STOP LIGHT
▪DASHBOARD
PREVIEW
EXIT
1
ERRORS
▪BBS
▪FAN
▪HEATING GRIPS
▪IMMOBILIZER
▪STOP LIGHT
▪DASHBOARD
PREVIEW
NEXT
EXIT
2
ERRORS
▪CAN LINE
PREVIEW
EXIT

図 35

以下は表示されるエラー一覧表です。

エラー表示	説明
CAN LINE	"BUS Off" CANライン(様々なコントロールユニットの通信ライン)
UNKNOWN DEVICE	コントロールユニットがシステムに認識されません - SWエラー
ABS(アンチロックブレーキシステム)	ABSコントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません
BBS(ブラックボックスシステム)	BBSコントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません
	BBSコントロールユニット機能の一般不具合
	エキゾーストバルブモーターEXVL機能の不具合
インストルメントパネル	DSBコントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません
イモビライザー	キーなし
	キーが認識されていない
	アンテナが機能していない
ENGINE	ECUコントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません
	ECUコントロールユニットの一般不具合
	スロットルポジションセンサー不具合
	リレーおよびスロットルモーター、またはその一方の不具合
	圧力センサー不具合

エラー表示	説明
	エンジンクーラント温度センサー不具合
	インテークダクト温度センサー不具合
	インジェクションリレー不具合
	イグニションコイル不具合
	インジェクター不具合
	エンジン回転センサー不具合
	ラムダセンサー又はラムダセンサーヒーター不具合
	車両スターターリレー不具合
	セカンダリエアセンサー不具合
FUEL SENSOR	NTCリザーブセンサー機能の不具合
SPEED SENSOR	フロント及び/又はリアスピードセンサー機能の不具合
BATTERY	バッテリー電圧が高すぎる、又は、低すぎる
STOP LIGHT	ストップライトが機能していない
FAN	エレクトリッククーリングファンの不具合
T_AIR SENSOR	外気温センサー不具合
H.GRIPS	ヒートグリップの一方または両方の不具合

設定メニュー

このメニュはいくつかの車両機能の設定および使用を可能にします。
設定メニューに入るにはボタン(2)を2秒間押します。
このメニューが表示されている場合、ディスプレイに機能をスクロール表示させることはできません。

重要

安全上の理由から、車両スピードが 20 Km/h 以下の時のみ設定メニューに入ることができます。
このメニュー内にいる時に車両スピードが 20 Km/h を超えると、インストルメントパネルは自動的に"メイン" 画面に戻ります。

設定メニューの項目は次の通りです。

- ライディングモードのパーソナライズ (R.MODE)
- 画面表示バックライトの調整(B.LIGHT)
- ラップタイムの起動および表示 (LAP)
- PIN CODEの起動および変更 (PIN)
- 時計の調整 (CLOCK)
- 単位の設定 (UNITS)
- バッテリー圧力表示(BATT)
- エンジン回転数表示(RPM)
- エラー表示、 ひとつ以上のエラーがある場合のみ起動 (ERRORS)
- EXIT

設定メニューを終了するには、ボタン(1)または(2)で“EXIT”の文字を強調表示させ、ボタン(4)を押します。

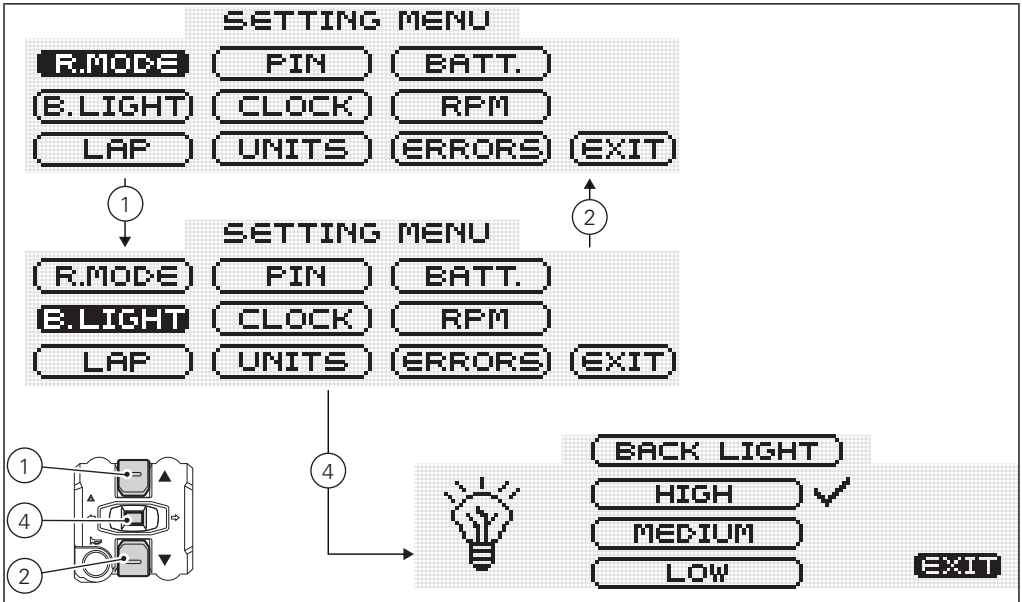

SETTING MENU
R.MODE
PIN
BATT.
B.LIGHT
CLOCK
RPM
LAP
UNITS
ERRORS
EXIT
1
2
SETTING MENU
R.MODE
PIN
BATT.
B.LIGHT
CLOCK
RPM
LAP
UNITS
ERRORS
EXIT
1
4
2
4
BACK LIGHT
HIGH
MEDIUM
LOW
EXIT

図 36

ライディングモードのパーソナライズ

この機能でそれぞれのライディングスタイルの設定が可能になります。
機能を表示するには、"設定"メニューから"R.MODE"のページに入ります。
ディスプレイの機能の入り口に、RACE、SPORT、WETの3つのライディングスタイルが表示されます。
さらに、すべてのライディングスタイルをDucatiの初期設定に戻すことが可能なALL DEFAULT機能が表示されます。
ボタン(1)および(2)で変更を希望するライディングスタイル、またはALL DEFAULT機能を選択することができます。

参考

ALL DEFAULTの文字の右側に記号がある場合、デフォルト設定であることを意味し、したがってパラメーターはドゥカティが設定したものです。

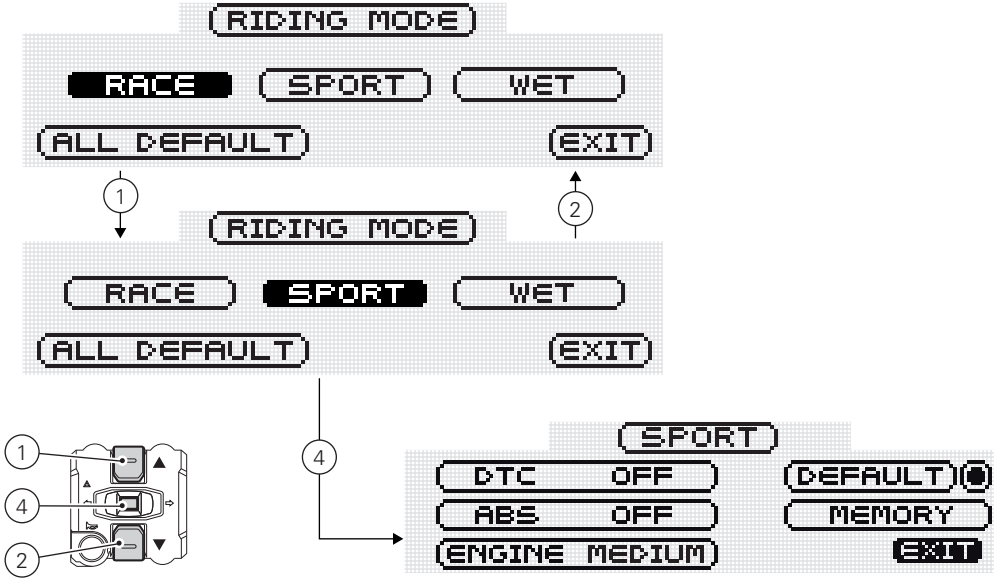

RIDING MODE
RACE
SPORT
WET
ALL DEFAULT
EXIT
1
2
RIDING MODE
RACE
SPORT
WET
ALL DEFAULT
EXIT
1
4
2
4
SPORT
DTC OFF
ABS OFF
ENGINE MEDIUM
DEFAULT
MEMORY
EXIT

図 37

パラメーターをパーソナライズするには、変更を希望するライディングスタイルを選択し、ボタン(4)を押します。
パーソナライズ可能なパラメーターは、DTC (Ducati Traction Control)、ABS (Antilock Braking System)、ENGINE (エンジン出力)です。
ボタン (1) および (2) でパーソナライズを希望するパラメーターを選択することができます。
更新した(パーソナライズした)パラメーターはBattery-Off後もメモリー消去されません。
DEFAULT機能により、各ライディングスタイルのパラメーターを回復させることも可能です。

参考
DEFAULTの文字の右側に記号がある場合、デフォルト設定であることを意味し、したがってパラメーターはドゥカティが設定したものです。

警告
パラメーター変更は、車両のセットアップに充分慣れている方のみにお勧めします。意図せず変更してしまった場合は、"DEFAULT" 機能を使用してパラメーターを修復してください。

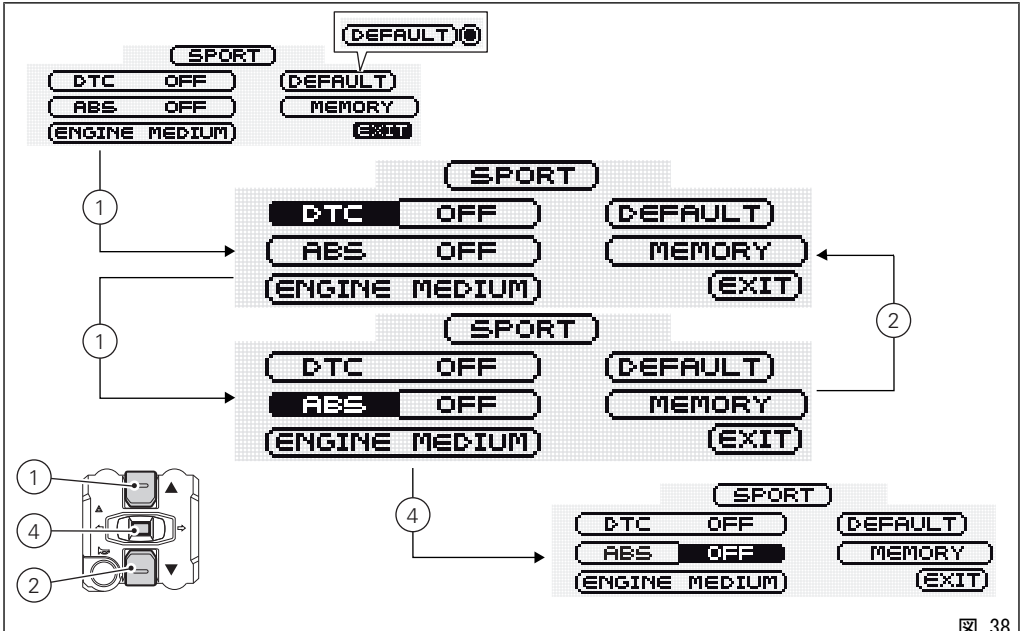


図 38

DTCセットアップ

この機能ではDTC (Ducati Traction Control)をパーソナライズし、必要に応じて解除することができます。
機能を表示するには、"設定"メニューから"R.MODE"のページに入ります。
ボタン(1)および(2)で希望のライディングスタイルを選択し、ボタン(4)を押します。
ボタン (1) および (2) でDTC表示を選択し、ボタン(4)を押して設定メニューに入ります。
ここで、ボタン(1)および(2)でDTCレベルを上げるか下げることができます。ボタン(4)を押して新しく設定したレベルを決定します。
可能な設定レベルは01から08、およびOFFです。

参考

OFFを選択すると、DTCは解除されます。

新しい設定を選択したら、ボタン(4)を押します。
インストルメントパネルは自動的に"MEMORY"を強調表示します。新しい設定をメモリーするには、ボタン(4)を3秒間押します。3秒過ぎると、インストルメントパネルは2秒間"MEMORIZED"と表示し、変更を確認します。
自動的に"EXIT"が強調表示されます。ボタン(4)を押して終了し、設定メニューに戻ります。

参考

DEFAULTの文字の右側に記号がある場合、デフォルト設定であることを意味し、したがってパラメーターはドゥカティが設定したものです。

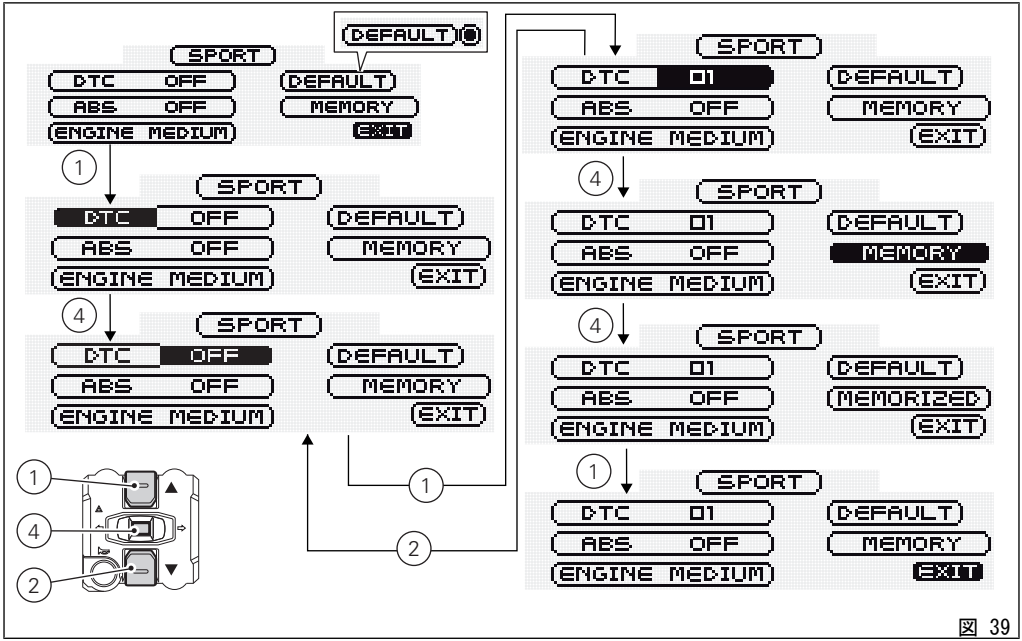

SPORT
DTC OFF
ABS OFF
ENGINE MEDIUM
DEFAULT
MEMORY
EXIT
1
4
2
DTC 01
MEMORIZED

図 39

下記の表は、各タイプのライディングに適したDTCレベルで、"RIDING MODE"のデフォルトで設定されているものです。

DTCレベル	ライディングモード	使用	DEFAULT?
1	TRACKプロフェッショナル	非常に熟練したライダー向けサーキットでの使用。スキッドします。	NO
2	TRACK	(熟練ライダー向け)サーキット（及びストリート)での使用。	ライディングモードRACEのデフォルトレベル
3	SPORT	路上およびサーキット上で、スポーティライディング。	SPORTデフォルト
4	TOURING	郊外でのツーリング。	NO
5	CRUISE	長距離ツーリング。	NO
6	URBAN	市街地でのライディング。	NO
7	RAIN	濡れた、あるいは湿った道路。	ライディングモードWETのデフォルトレベル
8	HEAVY RAIN	強い雨で濡れた道路、あるいは非常に滑りやすいアスファルト。	NO

レベルの選択に際しての注意事項

警告

お客様の車両の DTC システムの 8 レベル調整は、車両に装着されている標準タイヤ（メーカー、モデル、サイズなどの特徴）によって決定されています。標準装備のタイヤと異なるサイズのタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を及ぼす可能性があります。

車両の標準装備に使用されるタイヤ：(フロント 120/70ZR17 - リア180/55ZR17)。

- Pirelli Diablo Supercorsa SP
- Pirelli Diablo Rosso II
- Pirelli Scorpion Trail。

標準装備のタイヤとモデルやメーカーが違うが、サイズクラスが同じ(リア＝180/55-17、フロント＝120/70-17)など、少し違うだけのタイヤを使用する場合、 システムの機能を最適化するには、選択可能なレベルのうち、より適切なレベルを選択することでカバーできるでしょう。サイズクラスの違うタイヤ、またはサイズが少しだけ違うタイヤを使用する場合、システム機能は設定可能な8レベルのどれでも納得するものにはならないでしょう。この場合、システムは解除する事をお勧めします。レベル8を選択すると、DTCコントロールユニットはリアタイヤのわずかなスピンにも対応します。レベル8とレベル1の間には、その他に8つのレベルが存在します。DTCの介入度はレベル8から1に向かい減少します。レベル1、2ではDTCコントロールユニットはリアタイヤにカーブ出口でのスピンおよびスリップをさせることができます。これらのレベルはサーキット内での使用および熟練者の使用時に設定することを推奨します。

正しいレベルの選択は、3つの観点から行います：

1) 接地(タイヤのタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)
2) レイアウト/行程(同じような、または全く異なったスピードでのカーブ)
3) ライディングスタイル(より"丸く"又は"鋭く")。

接地状態からのレベル選択

正しいレベルの選択はレイアウト/行程中の定着状況に関連します(後述のサーキットおよび一般道での使用時のアドバイス参照)。

レイアウトタイプからのレベル選択

レイアウト/行程に均等な速度で走行するカーブがある場合、カーブごとに満足できる介入レベルを見つけることはとても簡単です。その反対に、よりゆるいカーブがある場合、より譲歩した介入レベルが必

要です(ゆるいカーブ時、DTCはその他のカーブよりもより介入しようとします)。

ライディングスタイルからのレベル選択
DTCは"丸く"操縦する人にはバイクを倒し、"鋭く"操縦する人には車体を上げて、カーブからより早く抜けれるよう介入します。

サーキットでの使用時のアドバイス

タイヤを温める間の数周は、システムとの接触を良くするため、レベル6に設定して走行することをお勧めします。その後、レベルを5、4、とDTCの最適なレベルに達するまで調整します(タイヤを温めるため、ひとつのレベルごとに数周する)。
1つか2つのゆるいカーブ以外は納得のできるレベルの場合、違うレベルに設定しようと調整するよりは、ゆるいカーブでのライディングスタイルを少し"鋭く"し、カーブ出口での車体角度をより早く上げて走行するとよいでしょう。

一般道での使用時のアドバイス

DTCを起動し、DTC 6 を選択します。車両を各自のスタイルに合わせて運転します。DTCの介入が大きすぎる場合には、DTC 5を試してください。このライディングモードでも介入が大きすぎる場合には、DTC 4を試してください。どのレベルでも満足できない場合、好みの介入レベルが見つかるまで上記の表の指示に従い、レベルを選択することが可能です。
定着状況や行程の種類、ライディングスタイルを変更し、設定レベルでは満足できない場合は、次のレベルに設定します。この方法で最も快適なレベルに調整します(例：レベル7ではDTCが介入しすぎると感じる場合はレベル6に、レベル7では全くDTCの介入がないと感じる場合はレベル8に)。

ABSセットアップ

この機能はABS(Antilock Braking System)の介入レベルをパーソナライズしたり、必要に応じて解除したりすることができます。機能を表示するには、"設定"メニューから"R.MODE"のページに入ります。
ボタン(1)および(2)で希望のライディングスタイルを選択し、ボタン(4)を押します。ボタン (1) および (2) でABS表示を選択し、ボタン(4)を押して設定メニューに入ります。ここで、ボタン(1)および(2)でABSレベルを上げるか下げることができます。ボタン(4)を押して新しく設定したレベルを決定します。可能な設定レベルは01、02、03、OFFです。

参考
OFFを選択すると、ABSは解除され、ABSランプが点滅します。

新しい設定を選択したら、ボタン(4)を押します。インストルメントパネルは自動的に"MEMORY"を強調表示します。新しい設定をメモリーするには、ボタン(4)を3秒間押します。
3秒過ぎると、インストルメントパネルは2秒間"MEMORIZED"と表示し、変更を確認します。自動的に"EXIT"が強調表示されます。ボタン(4)を押して終了し、設定メニューに戻ります。

参考
ABSをOFFにしてメモリーする場合、運転およびブレーキングに細心の注意を払うようにしてください。

参考
DEFAULTの文字の右側に記号がある場合、デフォルト設定であることを意味し、したがってパラメーターはドゥカティが設定したものです。

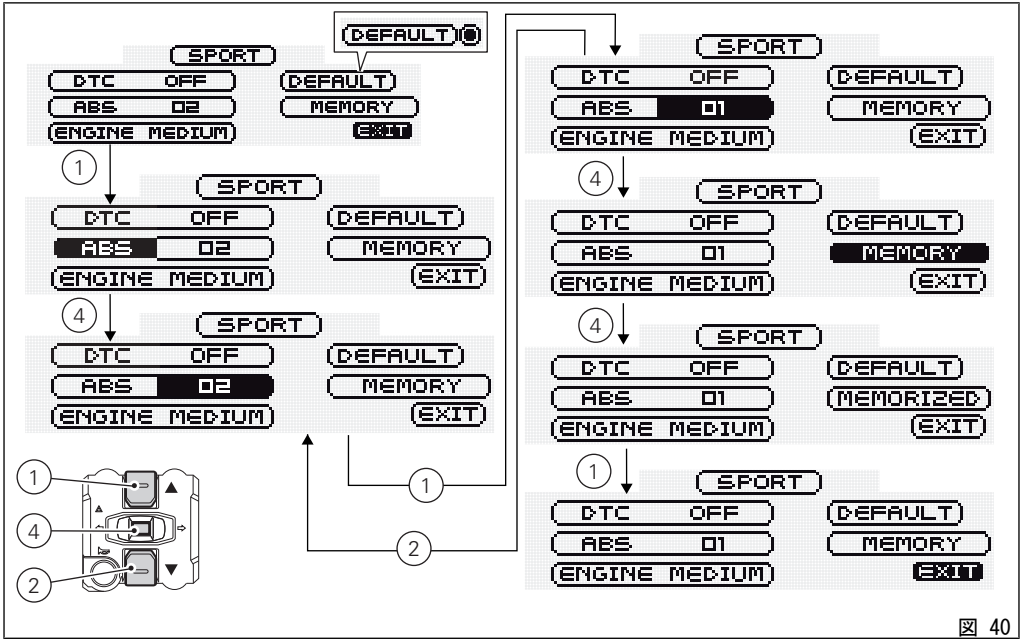

DEFAULT
SPORT
DTC OFF
ABS 02
ENGINE MEDIUM
DEFAULT
MEMORY
EXIT
1
SPORT
DTC OFF
ABS 02
ENGINE MEDIUM
DEFAULT
MEMORY
EXIT
4
SPORT
DTC OFF
ABS 02
ENGINE MEDIUM
DEFAULT
MEMORY
EXIT
1
2
4
SPORT
DTC OFF
ABS 01
ENGINE MEDIUM
DEFAULT
MEMORY
EXIT
4
SPORT
DTC OFF
ABS 01
ENGINE MEDIUM
DEFAULT
MEMORY
EXIT
4
SPORT
DTC OFF
ABS 01
ENGINE MEDIUM
DEFAULT
MEMORIZED
EXIT
1
SPORT
DTC OFF
ABS 01
ENGINE MEDIUM
DEFAULT
MEMORY
EXIT
1
4
2

図 40

下記の表は、各タイプのライディングに適したABSレベル、及び、ユーザーが選択できる"ライディングモード"のうちどのレベルがデフォルト設定かを表示します。

レベル	スタイル	使用	DEFAULT?
停止		ABSシステム解除。	NO
1	RACE	熟練ライダー向けサーキットでの使用のみ(ストリートでの使用は推奨しません)。 このモードではABSはフロントホイールにのみ機能すると同時に、ブロックを防止し、できるだけ高いパフォーマンスを保証します。一方でリアホイールは一切制御されません。リフトアップ制御は作動しません。	ライディングモードRACEのデフォルトレベル。
2	SPORT	高い定着性のある条件でのストリートでの使用向け。このモードでは、ABSは両方のホイールに作用します。アンチリフトアップ制御が起動します。この調整はブレーキ時の高い安定レベルとリフトアップ制御*を同時に維持しながら、ブレーキを優先させます。	ライディングモード"SPORT"のデフォルトレベル。
3	WET	あらゆる状況での運転向け。このモードでは、ABSは両方のホイールに作用します。この調整では車両の安定性およびリフトアップの防止を優先し、同時に高いレベルの減速性能を保証します。	ライディングモード"WET"のデフォルトレベル。

＊ 最大限即時のリアホイールの持ち上がり

レベルの選択に際しての注意事項

警告

お客様の車両の ABS システムのレベル調整は、車両に装着されている標準タイヤで実施されたものです。
標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。お客様の車両に適合したタイヤとは異なるサイズのタイヤの使用は推奨されません。

車両の標準装備に使用されるタイヤ：(フロント 120/70ZR17 - リア180/55ZR17)。

- Pirelli Diablo Supercorsa SP
- Pirelli Diablo Rosso II
- Pirelli Scorpion Trail。

レベル3を選択すると、ABSシステムは非常に安定したブレーキ動作、リフトアップの高い制御と防止を行い、車両は全てのブレーキにおいて高い安定性を維持します。レベル3からレベル2に変更すると、安定性の制御およびリフトアップ制御は起動していますが、ブレーキ性能が優先されます。レベル1はサーキット使用専用に開発されました。リフトアップ防止制御は起動せず、リアブレーキはABS制御されません。
正しいレベルを選択すると主に以下のパラメーターが機能します。

1) タイヤ/路面に関連する安定性(タイヤのタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)。
2) ライダーの経験及び感覚。

(1の)悪条件および経験の浅いライダー、またはその一方の場合、レベル3の使用が推奨されます。

ENGINEセットアップ

この機能でエンジン出力と排出量をパーソナライズします。
機能を表示するには、"設定"メニューから"R.MODE"のページに入ります。ボタン(1)および(2)で希望のライディングスタイルを選択し、ボタン(4)を押します。
ボタン (1) および (2) で"ENGINE"表示を選択し、ボタン(4)を押して設定メニューに入ります。
ここで、ボタン(1)および(2)でENGINEレベルを上げるか下げることができます。ボタン(4)を押して新しく設定したレベルを決定します。
可能な設定レベルはHIGH、MEDIUM、LOWです。新しい設定を選択したら、ボタン(4)を押します。インストルメントパネルは自動的に"MEMORY"を強調表示します。新しい設定をメモリーするには、ボタン(4)を3秒間押します。
3秒過ぎると、インストルメントパネルは2秒間"MEMORIZED"と表示し、変更を確認します。自動的に"EXIT"が強調表示されます。ボタン(4)を押して終了し、設定メニューに戻ります。

参考

DEFAULTの文字の右側に記号がある場合、デフォルト設定であることを意味し、したがってパラメーターはドゥカティが設定したものです。

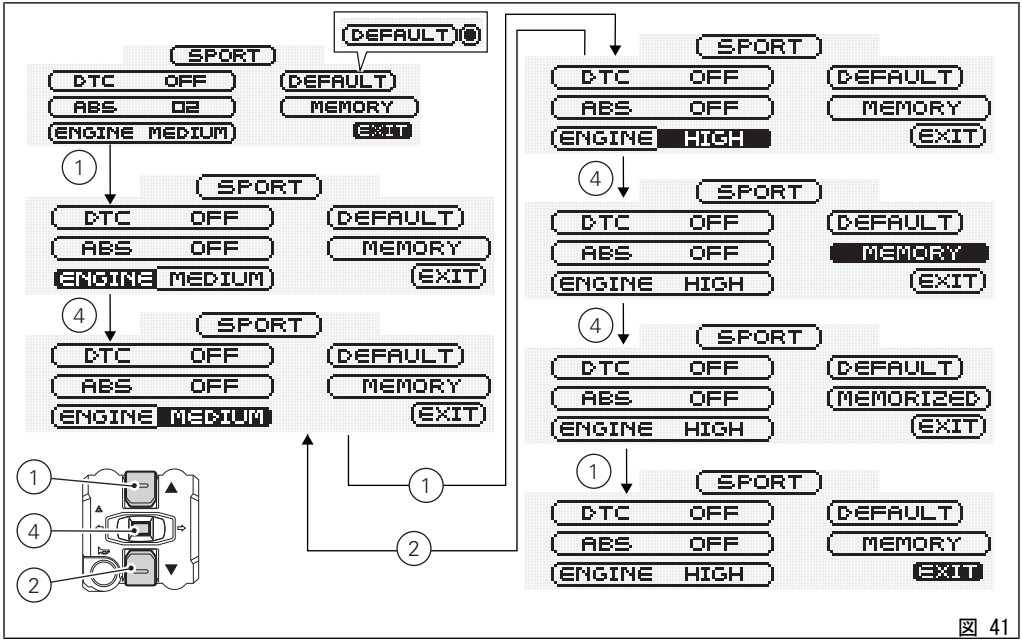

SPORT
DTC OFF
ABS 02
ENGINE MEDIUM
DEFAULT
MEMORY
EXIT
1
SPORT
DTC OFF
ABS OFF
ENGINE MEDIUM
DEFAULT
MEMORY
EXIT
4
SPORT
DTC OFF
ABS OFF
ENGINE MEDIUM
DEFAULT
MEMORY
EXIT
1
2
SPORT
DTC OFF
ABS OFF
ENGINE HIGH
DEFAULT
MEMORY
EXIT
4
SPORT
DTC OFF
ABS OFF
ENGINE HIGH
DEFAULT
MEMORY
EXIT
4
SPORT
DTC OFF
ABS OFF
ENGINE HIGH
DEFAULT
MEMORIZED
EXIT
1
SPORT
DTC OFF
ABS OFF
ENGINE HIGH
DEFAULT
MEMORY
EXIT

図 41

ALL DEFAULT（すべてのライディングモードのデフォルトパラメーターの修復）

この機能では、RACE、SPORT、WETのライディングモードのすべてのパラメーターをDucati社が設定した値に回復させることができます。
機能を表示するには、"設定"メニューから"R.MODE"のページに入ります。
ボタン (1) および (2) で"ALL DEFAULT"表示を選択し、ボタン(4)を3秒間押します。
この時点で"ALL DEFAULT"の文字に代わり"PLEASE WAIT…"の表示が3秒間表れ、インストルメントパネルは全てのライディングモードのパラメーターをデフォルトの値に回復させます。
3秒後、自動的に"EXIT"が強調表示されます。ボタン(4)を押して終了し、設定メニューに戻ります。

参考

ALL DEFAULTの文字の右側に記号がある場合、デフォルト設定であることを意味し、したがってパラメーターはドゥカティが設定したものです。

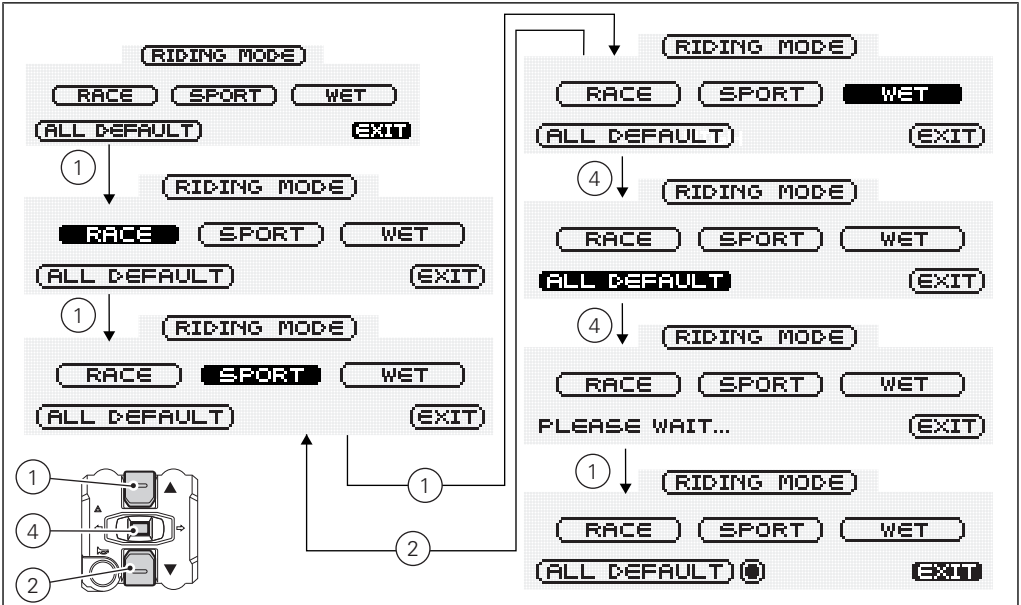


図 42

DEFAULT（各ライディングモードのデフォルトパラメーターの修復）

この機能では、各ライディングモードのパラメーターをDucati社が設定した値に回復させることができます。
機能を表示するには、"設定"メニューから"R.MODE"のページに入ります。
ボタン(1)および(2)でパラメーターをデフォルトの値に回復させたいライディングスタイルを選択し、ボタン(4)を押します。ボタン（1）および（2）で"DEFAULT"表示を選択し、ボタン(4)を3秒間押します。
この時点で"DEFAULT"の文字に代わり"PLEASE WAIT…"の表示が3秒間表れ、インストルメントパネルは選択したライディングモードのパラメーターをデフォルトの値に回復させます。
3秒後、自動的に"EXIT"が強調表示されます。ボタン(4)を押して終了し、設定メニューに戻ります。

参考

設定がデフォルトの場合、DEFAULT表示の右側に記号(丸に点)が常に表示されます。

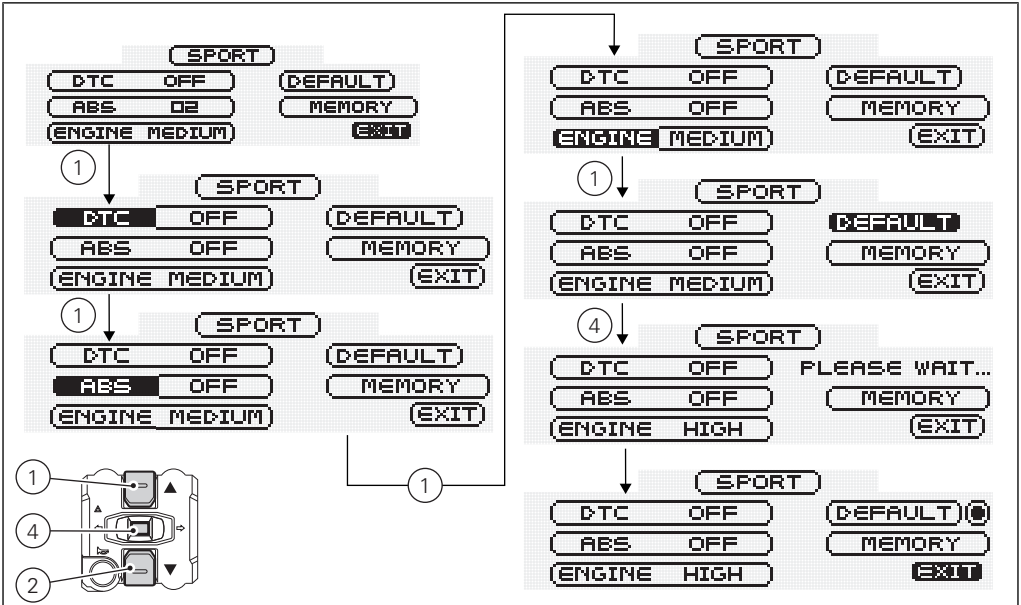

SPORT
DTC OFF
ABS 02
ENGINE MEDIUM
DEFAULT
MEMORY
EXIT
1
SPORT
DTC OFF
ABS OFF
ENGINE MEDIUM
DEFAULT
MEMORY
EXIT
1
SPORT
DTC OFF
ABS OFF
ENGINE MEDIUM
DEFAULT
MEMORY
EXIT
1
SPORT
DTC OFF
ABS OFF
ENGINE MEDIUM
DEFAULT
MEMORY
EXIT
1
SPORT
DTC OFF
ABS OFF
ENGINE MEDIUM
DEFAULT
MEMORY
EXIT
4
SPORT
DTC OFF
ABS OFF
ENGINE HIGH
PLEASE WAIT...
MEMORY
EXIT
SPORT
DTC OFF
ABS OFF
ENGINE HIGH
DEFAULT
MEMORY
EXIT
1
4
2

図 43

インストルメントパネルのバックライト調整(B.LIGHT)

この機能ではインストルメントパネル画面上の光の調整を行います。
この機能を表示するには、"設定"メニュー ページから"B.LIGHT"のページに入ります。

ディスプレイ上には以下の項目が表示されます。

- チェック印 (V) は現在使用中の設定を表します。
- ボタン(1)および(2)で新しいレベルを強調表示できます。
- 新しい設定をメモリーさせるには、 ボタン(4)を押します。チェック印 (V) がメモリーされた設定に移動します。

終了するには“EXIT”の文字を選択し、ボタン(4)を押してください。

1) HIGH調整：この設定ではバックランプは一番明るい状態です。
2) MEDIUM調整：この設定ではバックランプはMAXより30%減の明るさです。
3) LOW調整：この設定ではバックランプはMAXより70%減の明るさです。

参考

バッテリーが中断された場合(Batt-OFF)、電源の確保および次のKey-On時に画面の光調整もリセットされ、いつも最大レベルにセットされます。

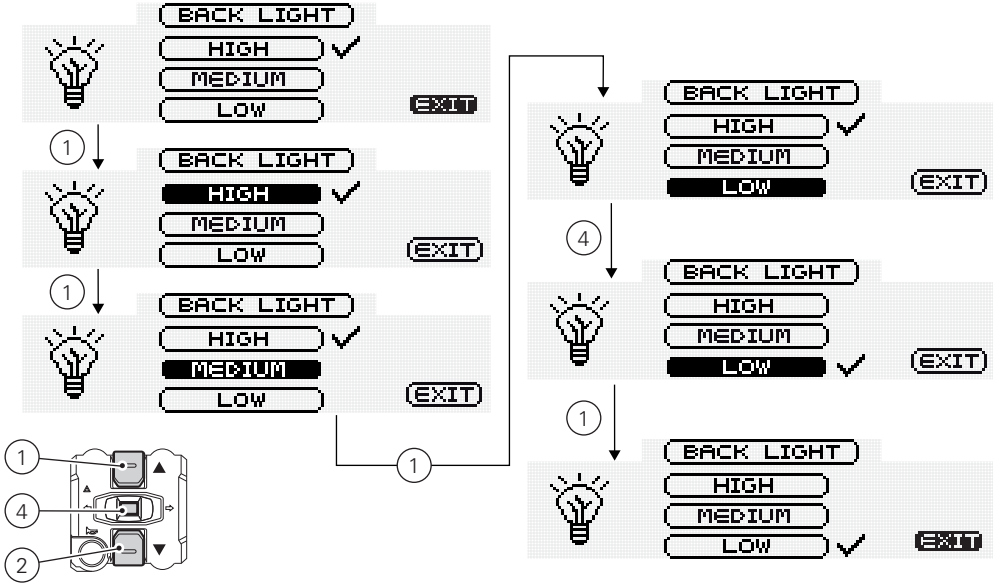


図 44

LAP機能: LAP ON/OFF機能

この機能でLAP（ラップタイム)の起動/解除が可能です。
機能を表示するには、"設定"メニューから"LAP"のページに入ります。

ディスプレイ上には以下の項目が表示されます。

- チェック印（V）は現在使用中の設定を表します。
- ボタン(1)および(2)で新しい設定を強調表示できます。
- 新しい設定をメモリーさせるには、 ボタン(4)を押します。チェック印（V）がメモリーされた設定に移動します。

終了するには“EXIT”の文字を選択し、ボタン(4)を押します。“OFF”設定にすると、LAP機能は解除されます。
“ON”設定にすると、LAP機能が起動します。

参考

LAP機能が起動中、ボタン（3）は、ハイビーム機能の Flashとラップタイム機能のStart / Stopの両方に使用されます。

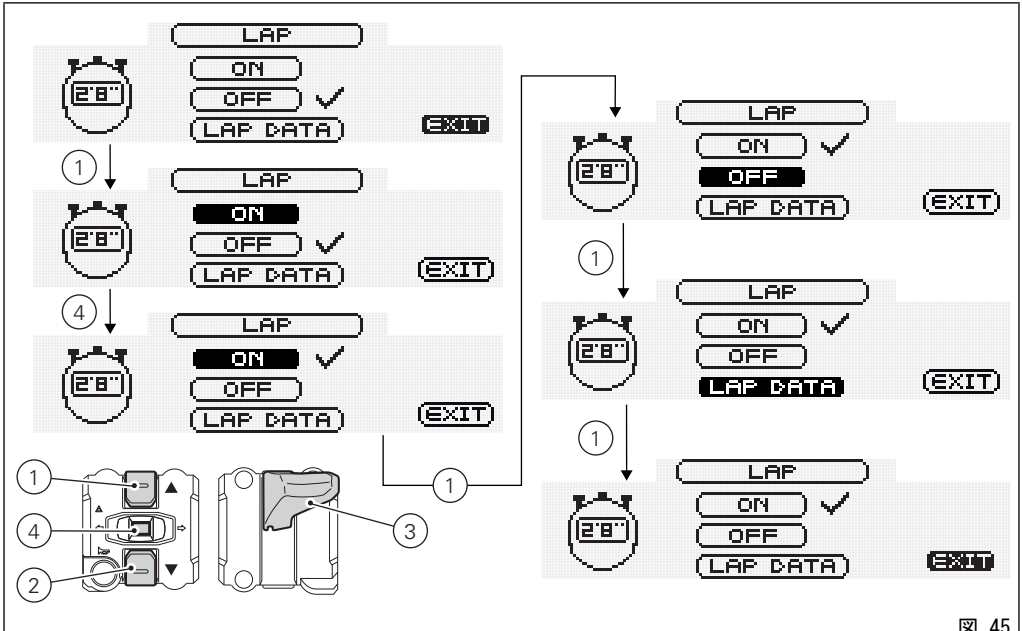


図 45

LAP機能: LAPの記録

この機能ではLAPの記録方法を説明します。
機能が起動している場合、次の方法でLAPを記録することができます。

- ボタン(3)を一度押すと、クロノメーターが最初のラップをとりはじめ、“START LAP”が4秒間点滅し、その後元の表示に戻ります。
- 以後、ボタン(3)を押すたびに、インストルメントパネル上にはラップタイムが自動的に10秒間固定表示され、その後元の表示に戻ります。

30回までラップタイムを記録することができます。メモリーがフルの場合、メモリーがリセットされるまでは、ボタン（3）を押してもラップタイムは記録されず、ディスプレイ上に4秒間"LAP MEM. FULL"の表示が点滅します。
LAP機能をOFFにした場合、そのラップは記録されません。LAP機能使用中に突然エンジンが止まった場合(キーOFF)、LAP機能は自動的にOFFになります(クロノメーターが作動していても、ラップタイムは記憶されません)。
ラップタイムの"STOP"指示が出されなかった場合、9分59秒99の時点でクロノメーターは0に戻り、ストップ指示が出されるまでラップタイムを測定し続けます。

LAP機能がONになり、"メモリー"がリセットされず、記憶されている周回数が30未満（例えば18周分メモリーされている）の場合、インストルメントパネルはメモリーがいっぱいになるまで記憶します（この場合はさらに12周分記憶可能)。

この機能では、記録中のラップタイムの表示のみが設定されています。ラップメモリー表示機能の全データを完全に表示するために、 他のデータ（最高速度、エンジン最高回転数、最高値に達した場合リミッター）も同様に記録されます(メモリーされたLAPの表示)。

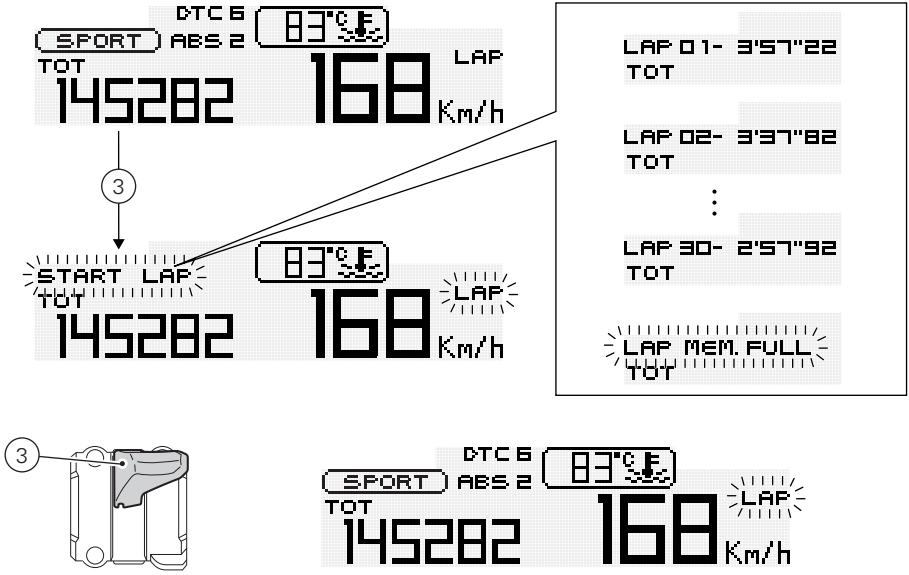

DTC 6
SPORT
ABS 2
83°C
LAP
TOT
145282
168
Km/h
3
START LAP
TOT
LAP
LAP 01- 3'57"22
TOT
LAP 02- 3'37"82
TOT
LAP 30- 2'57"92
TOT
LAP MEM. FULL
TOT

図 46

ラップタイム機能（LAP）：記録済み LAP の表示

この機能でLAP記録表示をします。機能を表示するには、"設定"メニューから"LAP"のページに入ります。ボタン(1)および(2)でこのページの"LAP DATA"を選択し、ボタン(4)を押します。
インストルメントパネル上には以下の項目が表示されます。

- 周回数表示（例：N.1）
- 次のLAP表示に移るときに使用するNEXTの文字
- 記録されている全てのラップタイムを消去する時に使用するERASEの文字
- TIME: ラップタイムの表示（例：1’ 50’ ’ 97）
- RPM MAX: 記録されているLAPで出した最高エンジン回転数(RPM)
- SPEED MAX: 記録されているLAPで出した最高速度。

終了するには“EXIT”の文字を選択し、ボタン(4)を押します。

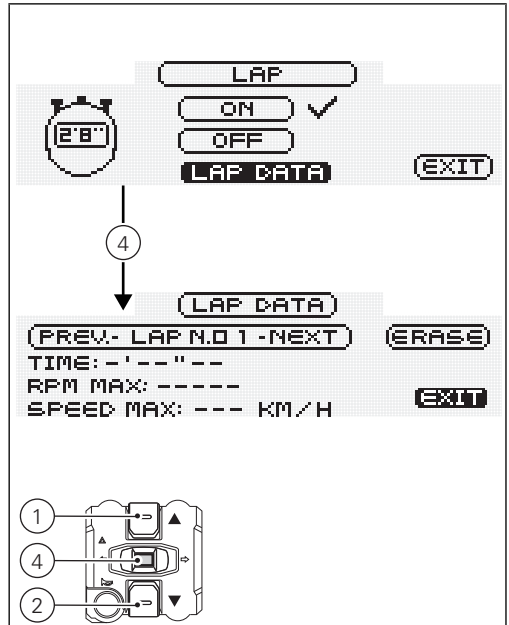


図 47

参考
記録最高スピードはラップ中に到達した速度です（5 % 増大させたもの）。

参考
データ取得中に最高速度が299km/h(186 mph)を超えた場合、到達した速度のデータが表示されます(例：316 Km/h)。

参考
メモリーにデータが記録されていない場合、30のラップタイムが0’ 00’’ 00と表示されるクロノメーター、MAX rpm=0、および最高速度=0と共に表示されます。

参考
ラップタイム記録中に、エンジンがリミッター限界に達した場合、記録タイム表示時にOver Revランプが点灯します。

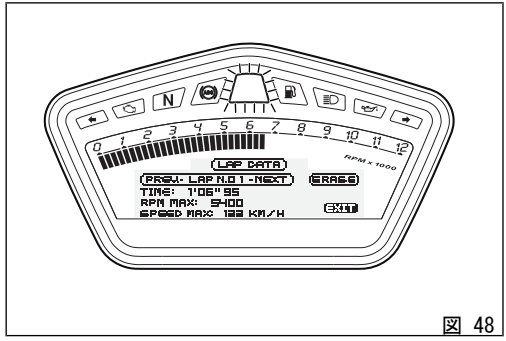


図 48

別の記録された周回を表示するには、ボタン(1)および(2)で NEXT(またはPREV)の文字を強調表示し、ボタン(4)を押します。ボタン(4)を押すたびに、その次の周回が表示されます。
全ての記録タイムを消去するには、ERASEの文字を強調表示し、ボタン(4)を3秒間押します。

参考
記録タイムが消去されると、LAP機能が起動中でも自動的にOFFになります。

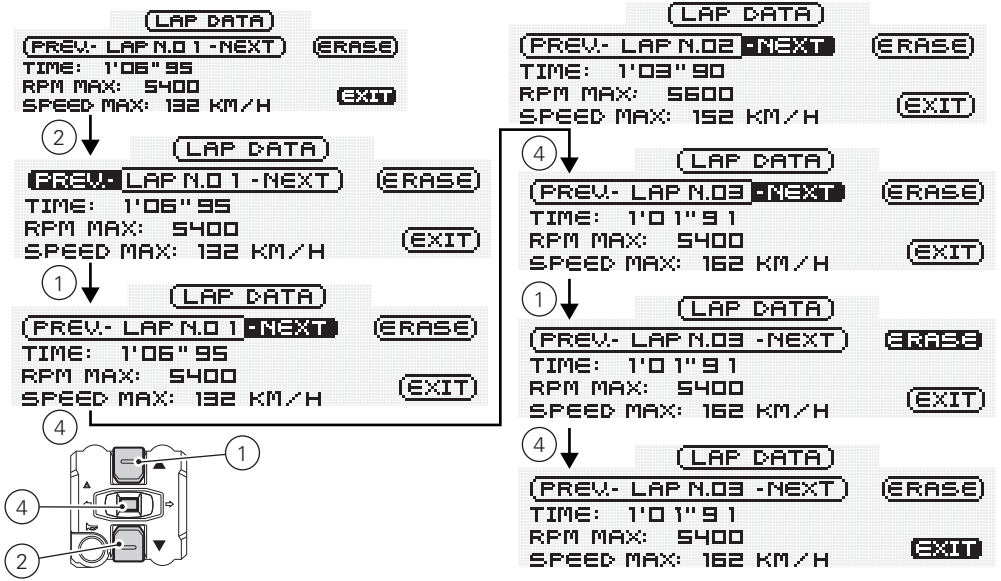

LAP DATA
PREV.- LAP N.01 -NEXT
ERASE
TIME: 1'06"95
RPM MAX: 5400
SPEED MAX: 132 KM/H
EXIT
2
LAP DATA
PREV. LAP N.01 -NEXT
ERASE
TIME: 1'06"95
RPM MAX: 5400
SPEED MAX: 132 KM/H
EXIT
1
LAP DATA
PREV.- LAP N.01 -NEXT
ERASE
TIME: 1'06"95
RPM MAX: 5400
SPEED MAX: 132 KM/H
EXIT
4
LAP DATA
PREV.- LAP N.02 -NEXT
ERASE
TIME: 1'03"90
RPM MAX: 5600
SPEED MAX: 152 KM/H
EXIT
4
LAP DATA
PREV.- LAP N.03 -NEXT
ERASE
TIME: 1'01"91
RPM MAX: 5400
SPEED MAX: 162 KM/H
EXIT
1
LAP DATA
PREV.- LAP N.03 -NEXT
ERASE
TIME: 1'01"91
RPM MAX: 5400
SPEED MAX: 162 KM/H
EXIT
4
LAP DATA
PREV.- LAP N.03 -NEXT
ERASE
TIME: 1'01"91
RPM MAX: 5400
SPEED MAX: 162 KM/H
EXIT
1
4
2

図 49

時計の調整機能(CLOCK)

この機能は時計の調整設定をします。機能を表示するには、"CLOCK"のページの設定メニューに入ります。実際の調整をおこなうにはボタン(4)を3秒間押します。3秒後、"SETTING…."の文字が表示され、設定メニューに入ります。
この機能に入ると最初にAMの表示が点滅します。

- ボタン(2)を押すと、PM が点滅表示します。
- ボタン(2)を押すと、ひとつ前のステップに戻ります(時間が00:00の場合は、AMからPMへ移ると12:00が表示されます)。

ボタン(4)を押すと、時間表示が点滅し始め、時間の設定に入ります。

- ボタン(2)を押すたびに、1時間進みます。
- ボタン(2)を押し続けると、1秒につき1 時間ずつ進みます(ボタンを押し続けている間、時間表示は点滅しません)。

ボタン(4)を押すと、分が点滅し始め、分の設定に入ります。

- ボタン(2)を押すたびに、1分進みます。
- ボタン(2)を押し続けると、1秒につき1分ずつ進みます。
- ボタン(2)を5秒以上押し続けると、100msにつき1分の割合で数字が増します(ボタン(2)を押している間、数字は点滅しません)。

新しい時間設定を決定（メモリー）する場合は、ボタン(4)を押します。自動的に"EXIT"が強調表示されます。ボタン(4)を押して終了し、設定メニューに戻ります。

参考

バッテリーが中断された場合、電源回復後のKey-ON 時に時計はリセットされます(自動的に 00:00から再開します)。

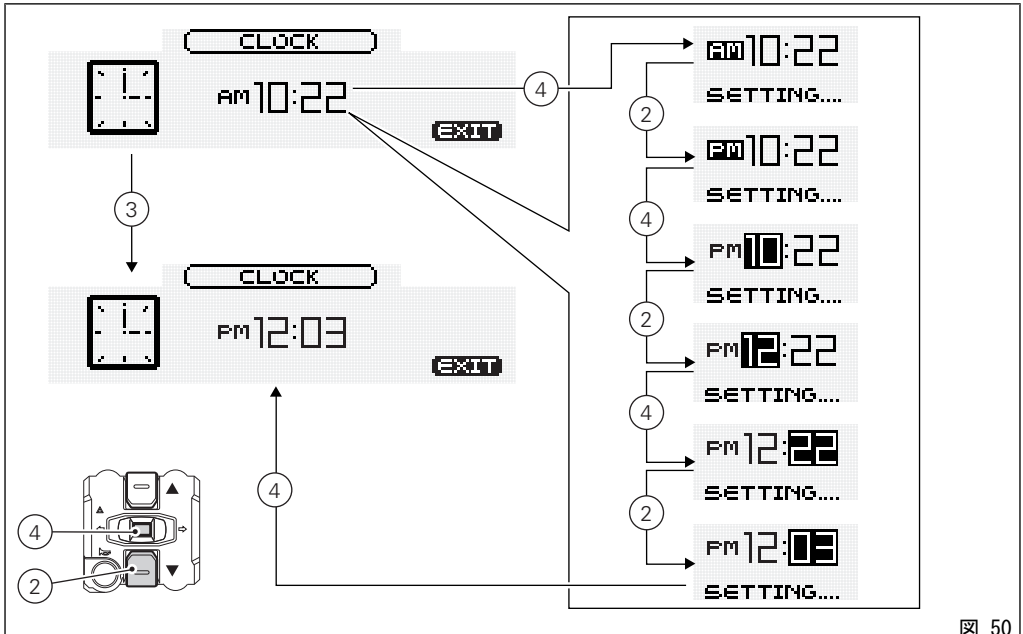

CLOCK
AM 10:22
EXIT
3
CLOCK
PM 12:03
EXIT
4
2
4
2
4
2
4
AM 10:22
SETTING....
PM 10:22
SETTING....
PM 10:22
SETTING....
PM 12:22
SETTING....
PM 12:22
SETTING....
PM 12:03
SETTING....
4
2

図 50

バッテリーテンション機能 (BATTERY)

この機能では車両のバッテリーの状態を確認することができます。機能を表示するには、"設定"メニューから"BATT"のページに入ります。
ディスプレイ上には以下の項目が表示されます。

- バッテリーテンションが11.8 から14.9 Voltの場合、固定表示になります。
- バッテリーテンションが11.0 から11.7 Voltの場合、点滅表示になります。
- バッテリーテンションが15.0 から16.0 Voltの場合、点滅表示になります。
- バッテリー電圧が10.9 Volt以下の場合、"LOW"の文字が点滅します。
- バッテリー電圧が16.1 Volt以上の場合、"HIGH"の文字が点滅します。

参考
データが出力できない時は "- - -" が表示されます。

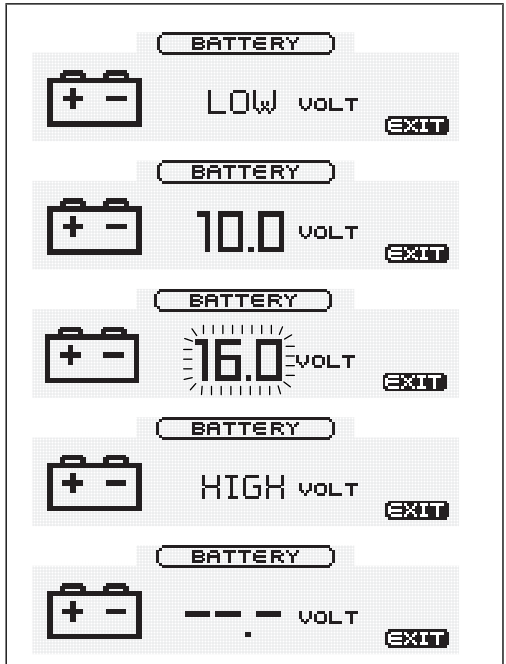


図 51

エンジン回転数のデジタル表示(RPM)

この機能はより正確なエンジン回転数(RPM)を表示します。
機能を表示するには、"設定"メニューから"RPM"のページに入ります。
ディスプレイにはエンジン回転情報が50 rpmから正確に表示されます。

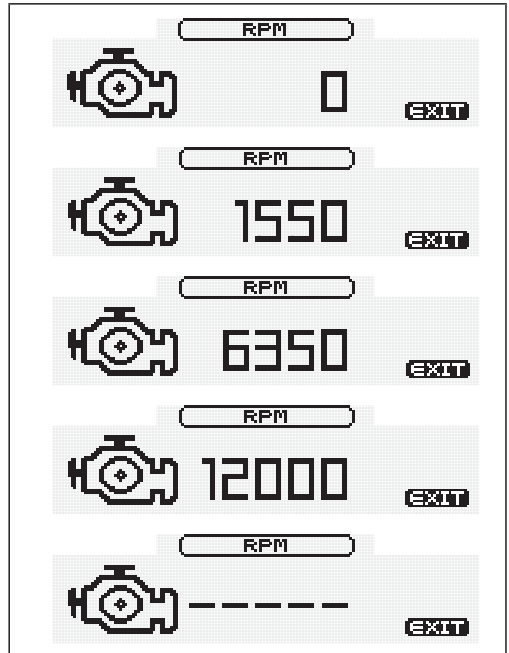


図 52

イモビライザー暗証番号(PIN CODE)

この機能では、イモビライザーシステムに不具合が生じた場合、車両を一時起動させることができます。

参考

不具合が生じた際に車両を一時起動するためには、予め 4 桁の PIN をインストルメントパネルに入力して PIN CODE 機能を有効にしていなければなりません。

機能を表示するには、ボタン(4)を押して"設定"メニューから"PIN"のページに入ります。

- PIN CODEをまだ入力していない場合、"PINの有効化 (INSERT NEW PIN)"機能が表示されます。
- PIN CODEがすでに入力された場合、"PINの変更 (MODIFY PIN CODE)"機能が表示されます。

イモビライザーシステムに不具合が発生した場合の車両の一時起動については、"車両解除用PINの入力 ページ 105"機能を参照してください。

警告

PIN CODE は車両の所有者が設定 (登録) しなければなりません。PIN がすでに設定されている場合には、Ducati 正規ディーラーに機能の "リセット" を依頼してください。その際 Ducati 正規ディーラーは、車両の所有者確認をさせていただくことがあります。

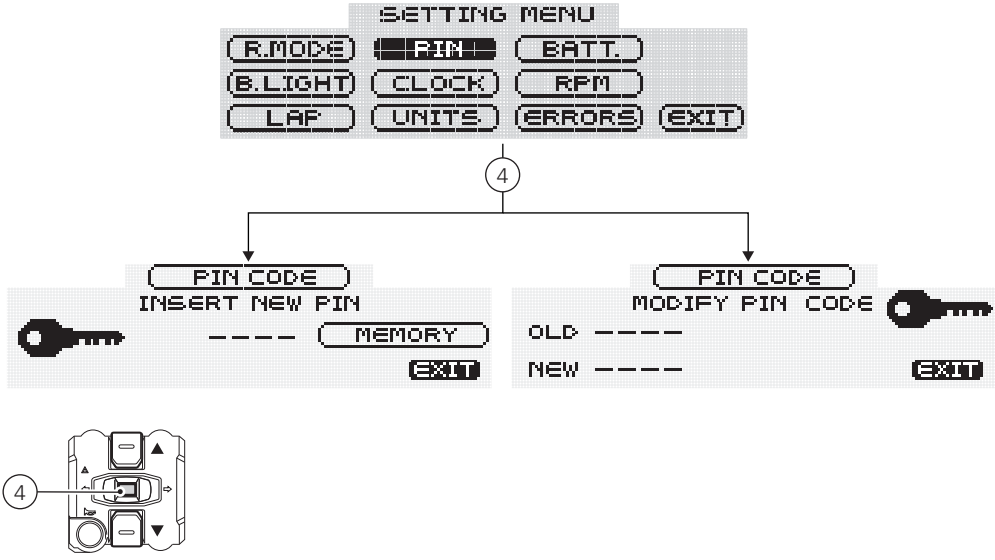

SETTING MENU
R.MODE
PIN
BATT.
B.LIGHT
CLOCK
RPM
LAP
UNITS
ERRORS
EXIT
4
PIN CODE
INSERT NEW PIN
---- MEMORY
EXIT
PIN CODE
MODIFY PIN CODE
OLD ----
NEW ----
EXIT
4

図 53

PINの有効化

この機能では、イモビライザーシステムに不具合が発生した場合に車両を一時起動させるためのPIN CODEを有効化することができます。
機能を表示するには、"設定"メニューから"PIN"のページに入ります。

参考
この時点で"MODIFY PIN CODE"の表示が出た場合は、PINがすでに存在し機能していることを表します。

ディスプレイの機能の入り口には "INSERT NEW PIN"の文字と4本の点線"- - - -"が表示されます。ここで4桁の暗証番号を入力します。

暗証番号の入力：

- ボタン(2)を押すごとに、表示数値は0から9まで移動し、また0に戻ります。ボタン(4)を押して数字を決定します。
- 同じ方法で4桁すべてを入力します。
- 新たにボタン(4)を押し、決定します。

暗証番号を入力すると、自動的に"MEMORY"の文字が強調表示されます。

入力したPINをメモリーさせるには、ボタン(4)を3秒間押します。
ディスプレイに"MEMORIZED"の文字が表示され、PINがメモリーされたことを確認します。
以後、新たにPIN CODE機能に入ると、“MODIFY PIN CODE” が表示され、PINの再設定が可能になります。

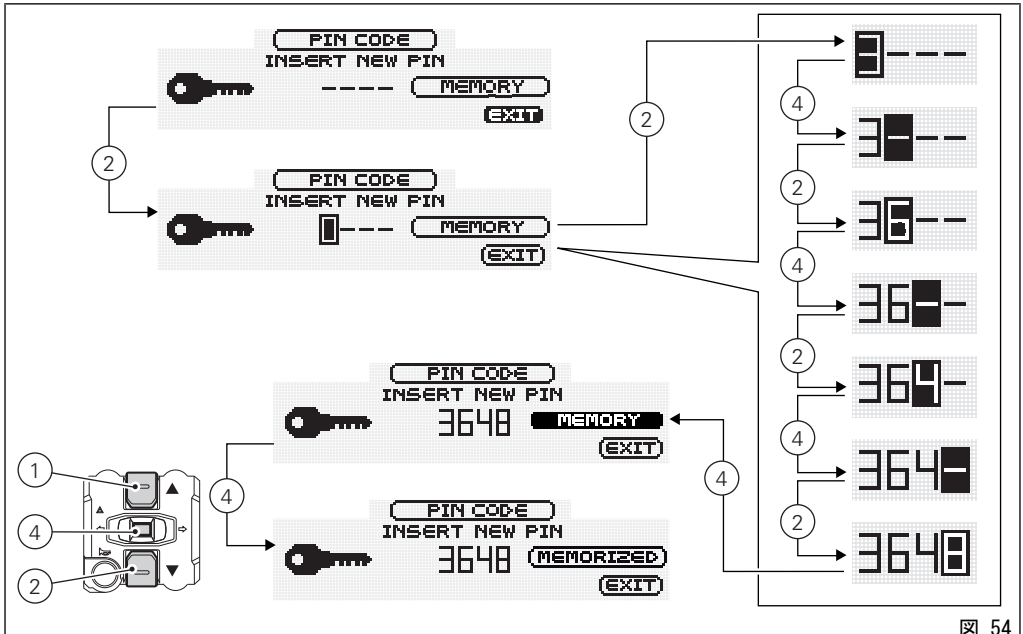

PIN CODE
INSERT NEW PIN
MEMORY
EXIT
PIN CODE
INSERT NEW PIN
MEMORY
EXIT
PIN CODE
INSERT NEW PIN
3648
MEMORY
EXIT
PIN CODE
INSERT NEW PIN
3648
MEMORIZED
EXIT
1
2
4
2
4
2
4
2
4
2

図 54

PIN CODEの変更

この機能で4桁のPIN CODEの変更が可能となります。機能を表示するには、"設定"メニューから"PIN"のページに入ります。

参考
"INSERT NEW PIN CODE" および点線 "- - - -" が直ちに表示された場合は、PIN CODE が入力されていないため機能していないことを示します。"PIN CODE 起動" 機能で PIN を入力してください。

ディスプレイの機能の入り口には "MODIFY PIN CODE" の文字が表示されます。ボタン(1)または(2)を押してPINを変更します。

参考
PIN を変更するには、現在設定されている PIN を知っていなければなりません。

この機能の入り口ではディスプレイに"OLD"の表示および4本の点線"- - - -"が表れます。ここで前にメモリーされている4桁の古い暗証番号を入力します。

旧PIN (OLD PIN)の入力:

- ボタン(2)を押すごとに、表示数値は0から9まで移動し、また0に戻ります。ボタン(4)を押して数字を決定します。
- 同じ方法で4桁すべてを入力します。
- 新たにボタン(4)を押し、決定します。

旧暗証番号入力を間違えた場合、ディスプレイに“ERROR”(旧暗証番号エラー)が3秒間表示され、その後インストルメントパネル上には、“EXIT”が表示されます。
暗証番号が正しく入力された場合、ディスプレイに"CORRECT"が表示されます。4桁の新暗証番号入力のため、自動的にその下の最初の点線が強調表示されます。

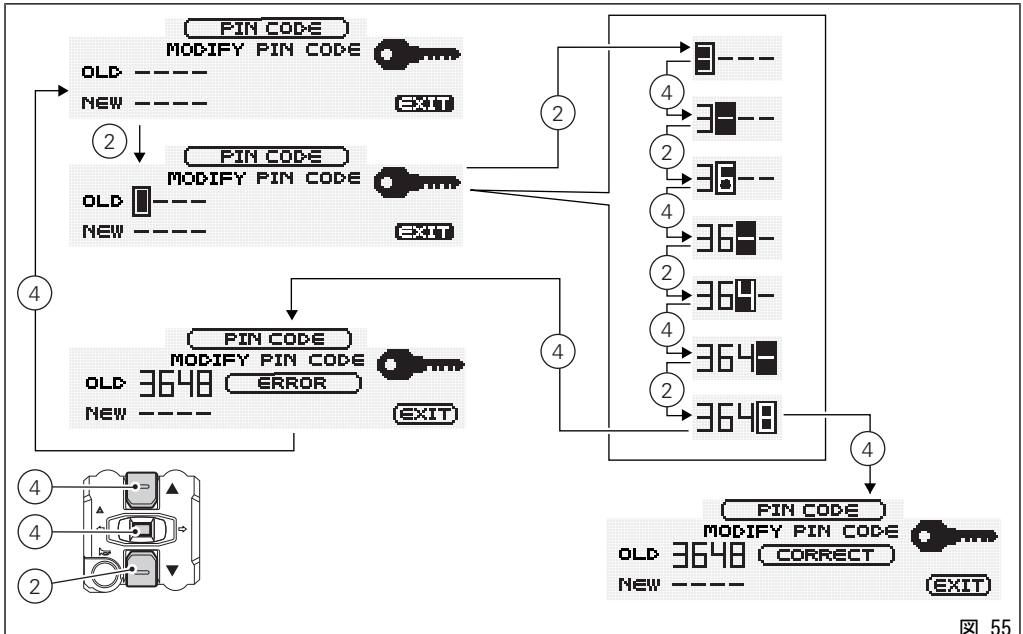

PIN CODE
MODIFY PIN CODE
OLD ----
NEW ----
EXIT
PIN CODE
MODIFY PIN CODE
OLD ----
NEW ----
EXIT
PIN CODE
MODIFY PIN CODE
OLD 3648
ERROR
NEW ----
EXIT
PIN CODE
MODIFY PIN CODE
OLD 3648
CORRECT
NEW ----
EXIT
2
4

図 55

新PIN (NEW PIN)の入力:

- ボタン(2)を押すごとに、表示数値は0から9まで移動し、また0に戻ります。ボタン(4)を押して数字を決定します。
- 同じ方法で4桁すべてを入力します。
- 新たにボタン(4)を押し、決定します。

4桁目の入力が終了すると、自動的に"MEMORY"の文字が強調表示されます。

入力した新PINをメモリーさせるには、ボタン(4)を3秒間押します。
ディスプレイに"MEMORIZED"の文字が表示され、PINがメモリーされたことを表します。その後、"EXIT"の文字が強調表示されます。
ボタン(4)を押して設定メニューに戻ります。
PIN CODE 変更はこれで終了です。

参考
PIN CODE の設定は何度でも可能です。

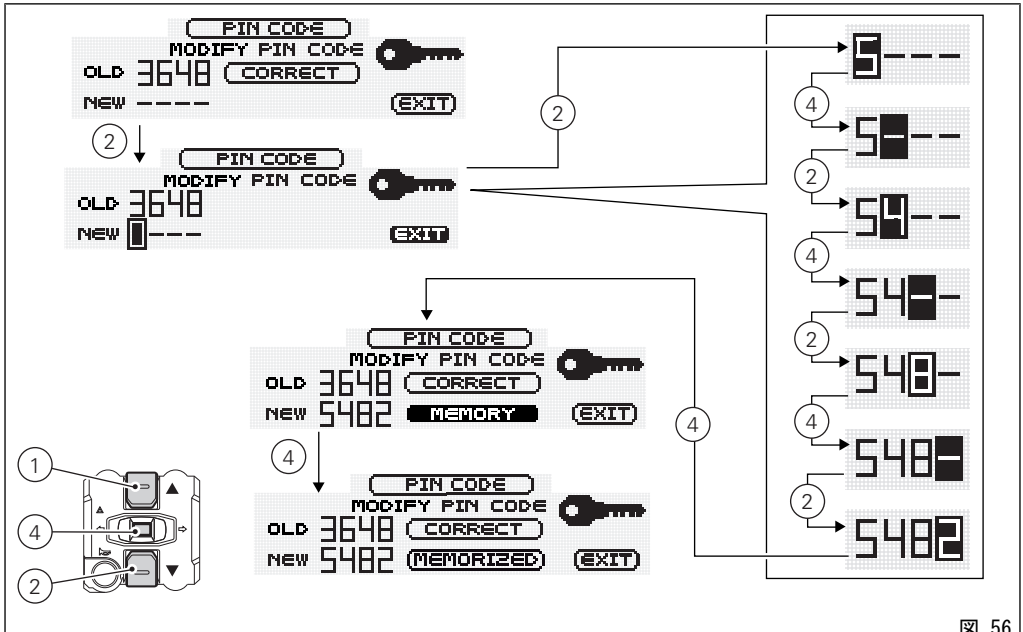

PIN CODE
MODIFY PIN CODE
OLD 3648 CORRECT
NEW ----
EXIT
2
PIN CODE
MODIFY PIN CODE
OLD 3648
NEW
EXIT
PIN CODE
MODIFY PIN CODE
OLD 3648 CORRECT
NEW 5482 MEMORY
EXIT
4
PIN CODE
MODIFY PIN CODE
OLD 3648 CORRECT
NEW 5482 MEMORIZED
EXIT
1
4
2
4
2
4
2
4
2

図 56

イモビライザーシステム

この車両には電子制御でエンジンをブロックする盗難防止システム(イモビライザー)が搭載されています。イモビライザーは、毎回エンジンを停止する度に自動的に作動します。
各キーのボディにはトランスポンダーが内蔵されています。トランスポンダーからの信号は、イグニッションスイッチ部に組み込まれたアンテナを介してコントロールユニットに送られます。
この信号はパスワードの役割を果たし、イグニッションキーがスイッチに差し込まれる度に変更し、CPUがその“パスワード”によってキーを認識した時にのみエンジンが始動します。

キー

車両には、キーB（黒）2本が付属しています。
キーには"イモビライザーシステムコード"が内蔵されています。

黒いキー(B)は通常のイグニッションキーで、以下の場合に使用されます：

- エンジンの始動
- フューエルプラグの開閉
- シートロックの解除

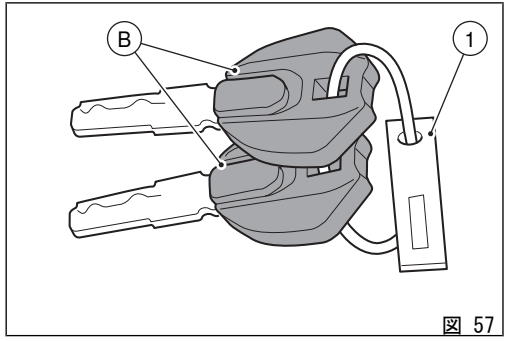


図 57

警告
キーは別々に保管し、車両を使用する際は 2 本ある黒色キーのどちらか一方を使用してください。

車両解除用のための暗証番号(PIN CODE)の入力

この機能では、イモビライザーシステムに不具合が発生し、エンジンがブロックした場合に車両を一時起動させることができます。
Key-On時にイモビライザーにエラーがある場合、インストルメントパネルは自動的にPINを入力できるようにします。

暗証番号の入力：

- ボタン(2)を押すごとに、表示数値は0から9まで移動し、また0に戻ります。ボタン(4)を押して数字を決定します。
- 同じ方法で4桁すべてを入力します。
- 新たにボタン(4)を押し、決定します。

暗証番号が正しくない場合、インストルメントパネルは"WRONG"の文字を2秒間表示します。最初の指示画面に戻り、暗証番号を再入力しなければなりません。
暗証番号を正しく入力した場合、インストルメントパネルには"CORRECT"の文字を2秒間表示します。
2 秒後、ディスプレイ全体が通常表示にもどります。

参考

暗証番号の入力は何度でも繰り返しておこなうことができます。ただし、暗証番号入力の120 秒後、"TIME OUT"の文字が2秒間表示されてメイン画面に戻り、インストルメントパネルは自動的に消えます。

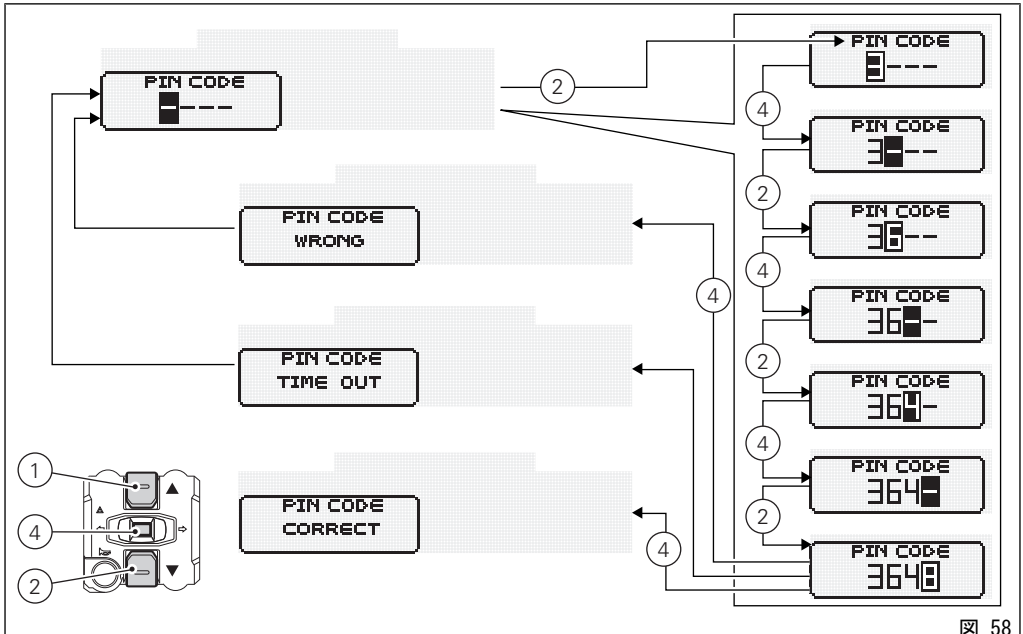

PIN CODE
PIN CODE
WRONG
PIN CODE
TIME OUT
PIN CODE
CORRECT
PIN CODE
PIN CODE
PIN CODE
PIN CODE
PIN CODE
PIN CODE
1
2
4
2
4
2
4
2
4
2
4

図 58

この時点でボタン(5)を使用して車両を起動させることができます。

参考
車両を停止 (Key-OFF) するまで、起動することができます。次の起動時に問題がまだ解消されていない場合、車両を "一時的" に起動するにはこの手順を最初から繰り返す必要があります。

重要
起動するために上記のプロセスを踏まなければならない時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

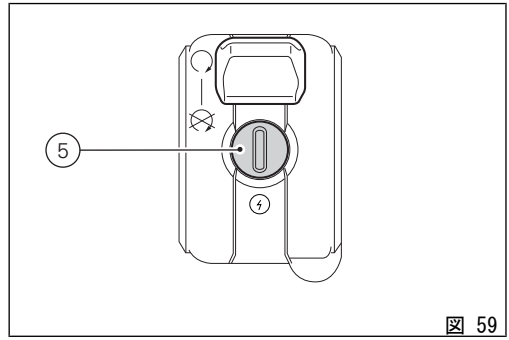


図 59

作業

イグニッションキーをONからOFFの位置に回す度に、システムはエンジンブロックを作動します。
エンジンの始動には、キーをOFFからONにして下さい：

1) 暗証番号が承認されると、システムはエンジンブロックを解除します。STARTボタン(5)を押すと、エンジンが始動します。
2) 暗証番号が識別されない場合、インストルメントパネルは自動的にPINを入力できるようにします。車両ブロック解除のためのPIN入力方法を参照してください。この方法でもまだブロックが解除されない場合は、Ducatiサービスセンターに御連絡下さい。

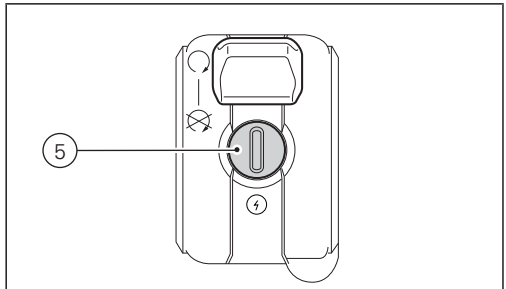


図 60

警告
強い衝撃を受けるとキー内部の電子部品が破損するおそれがあります。作業中は常に同じキーを使用してください。異なるキーを使用した場合、挿入したキーの暗号をシステムが識別できない場合があります。

キーの複製

追加のキーが必要な場合は、お持ちのキー全てを持ってDucatiサービスセンターにご依頼下さい。
Ducatiサービスセンターは新しいキー、およびお手持ちのキーを再プログラミングします。
Ducatiアシスタントサービスは、お客様が車両のオーナーである証明の提示を求めることがありますので、必要書類をご持参下さい。
この作業時に再メモリーされなかったキーのメモリーは削除されて無効となるため、紛失したキーが後でみつかってもエンジン始動に使用することはできません。

参考

車両の所有者を変更した場合は、必ず新規所有者にすべてのキーを譲渡してください。

ランプコントロール
ヘッドランプコントロール

ヘッドランプが自動的にOFFとなり、バッテリーの消費量を抑えます。
Key-Onにすると、ハイビームおよびロービームはOFFの状態です。エンジンを起動すると、自動的にロービームランプが点灯します。それ以降"通常の"機能が起動し、ポジション(V)のボタン(3)でロービームランプおよびハイビームランプをつけたり消したり、あるいはポジション(O)のボタン(3)で" FLASH"を実行することができます。Key-Onにした後もエンジンを始動させない場合も、左側スイッチでロー/ハイビームを点灯することができます(ポジション(V)のボタン(3))。
"最初に"押すとロービームランプが点灯します。この時点から、同じボタンを利用してハイビームランプをつけたり消したりすることができます。60秒以内にエンジンが始動されない場合は、点灯しているロービームまたはハイビームは消灯します(OFF)。

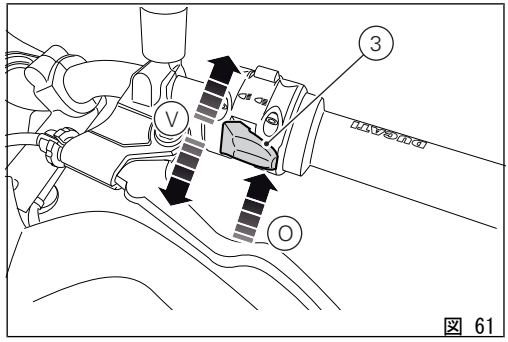


図 61

上記の手順でエンジンを始動する前にビームを点灯した場合、車両を始動させる際、自動的に一旦消灯し、エンジンが完全に始動した時点で点灯します。

ターンインジケーター（自動リターン機能）

インストルメントパネルはターンインジケーターの自動リターンを行います。
2つのうち、どちらかのターンインジケーターを点けた後リセットボタン(4)で解除することができます。
手動リセットしなかった場合、500m(または0.3マイル)走行後、インストルメントパネルはインジケーターを自動的に解除します。
自動解除の際、走行距離のカウントは80 Km/h (50 mph)以下で行なわれます。
走行距離カウントは自動解除が完了した後、80 km/h (50 mph)以上で可能です。また、前述の速度を下回った場合、カウントは解除され、再開します。

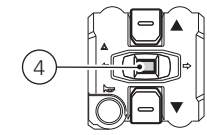


図 62

ハザード(ターンインジケーターすべて点灯)

緊急装置としてターンインジケーターを点灯させることができます。
ハザード機能を起動するには、通常なら左のターンインジケーターを起動させるボタン(ポジション(6)のボタン(4))を3秒間押します。
ハザード機能はKey-Onの状態でのみ起動させることができます(Key-Offでは不可)。
ハザード機能が起動しているとき、インストルメントの両方のランプ(7)が同時に点滅します。
左ターンインジケーターを起動させるボタン(ポジション(6)のボタン(4))、またはターンインジケーターを解除するボタン(真ん中のボタン(4))を一度押すだけでハザード機能を解除する(4つのターンインジケーターを消す)ことができます。
ハザード機能はKey-Offの状態でも解除することができますが、左ターンインジケーターを起動させるボタン(ポジション(6)のボタン(4))でのみ可能です。

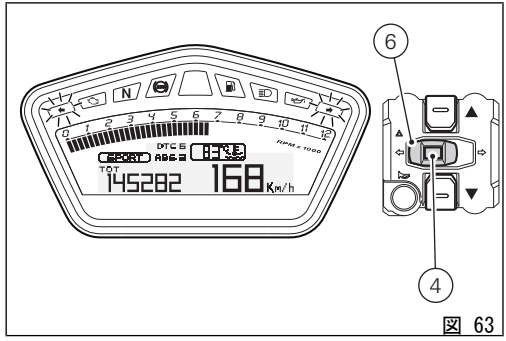


図 63

ハザード機能が起動した後、キースイッチをOnからOffにすると、4つのターンインジケーターランプは起動したままになり、自動カウントダウンを中止する手動消灯をおこなわない限り、120分(2時間)後自動的に消えます。

単位の変更機能(UNITS)

この機能では表示単位の変更が可能です。
機能を表示するには、"設定"メニューから"UNITS"のページに入ります。
インストルメントパネルには変更できる項目(速度、温度、燃費)が表示されます。ボタン(1)と(2)で、希望する表示を選択し、もう一度ボタン(4)を押して決定します。

参考

設定がデフォルトの場合、DEFAULT表示の右側に記号(丸に点)が常に表示されます。

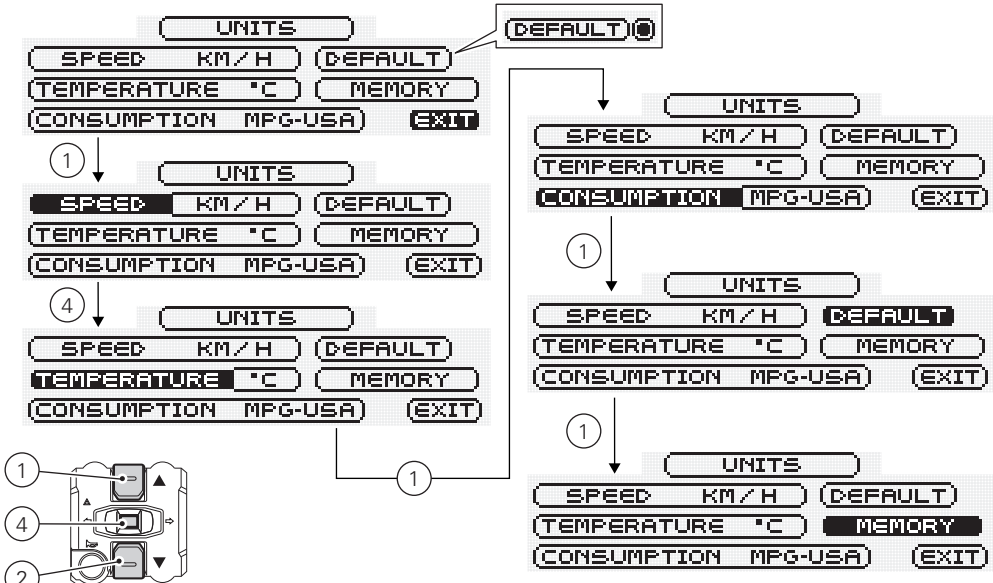

UNITS
SPEED KM/H
TEMPERATURE °C
CONSUMPTION MPG-USA
DEFAULT
MEMORY
EXIT
1
4
2

図 64

設定(SPEED)

この機能では次の表示の単位を変更することができます。車両速度、オドメーター、TRIP 1、TRIP2、TRIP FUEL(起動している場合)、平均速度。
"SPEED"の文字を選択し、ボタン(4)を押します。
この時点でインストルメントパネルは現在使用している単位を強調表示します。ボタン(1)または(2)を押して設定可能な単位(Km/hおよびmph)をスクロール表示させることができます。. 設定を希望する単位を選択したら、再度ボタン(4)を押します。インストルメントパネルは自動的に"MEMORY"を強調表示します。新しい単位をメモリーするには、ボタン(4)を3秒間押します。
3秒過ぎると、インストルメントパネルは2秒間"MEMORIZED"と表示し、変更を確認します。
自動的に"EXIT"が強調表示されます。ボタン(4)を押して終了し、設定メニューに戻ります。

KM/H: この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します:

- TOT、TRIP1、TRIP2、TRIP FUEL: Km
- 車両速度およびSPEED AVG: Km/h

MPH:この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します:

- TOT、TRIP1、TRIP2、TRIP FUEL: マイル
- 車両速度およびSPEED AVG: mph

参考
設定がデフォルトの場合、DEFAULT表示の右側に記号(丸に点)が常に表示されます。

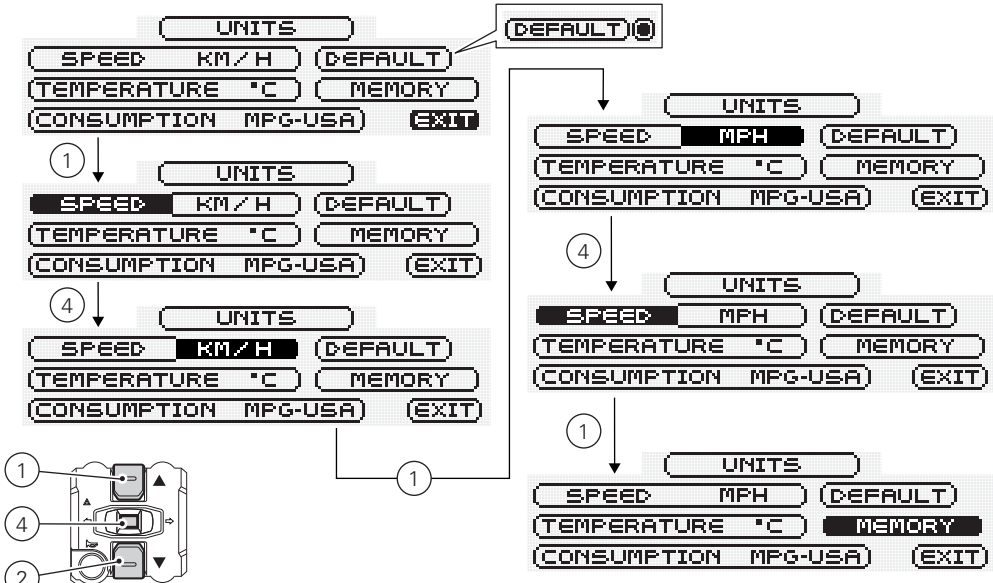

UNITS
SPEED KM/H
TEMPERATURE °C
CONSUMPTION MPG-USA
DEFAULT
MEMORY
EXIT
1
4
2

図 65

設定 (TEMPERATURE)

この機能ではクーラント温度および外気温の表示の単位を変更することができます。
"TEMPERATURE"の文字を選択し、ボタン(4)を押します。この時点でインストルメントパネルは現在使用している単位を強調表示します。
ボタン(1)または(2)を押して設定可能な単位(° Cおよび° F)をスクロール表示させることができます。.
設定を希望する単位を選択したら、再度ボタン(4)を押します。
インストルメントパネルは自動的に"MEMORY"を強調表示します。新しい単位をメモリーするには、ボタン(4)を3秒間押します。3秒過ぎると、インストルメントパネルは2秒間"MEMORIZED"と表示し、変更を確認します。
自動的に"EXIT"が強調表示されます。ボタン(4)を押して終了し、設定メニューに戻ります。

° C : この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します。

- クーラントおよびT_AIR温度 : ° C

° F : この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します。

- クーラントおよびT_AIR温度 : ° F

参考
設定がデフォルトの場合、DEFAULT表示の右側に記号(丸に点)が常に表示されます。

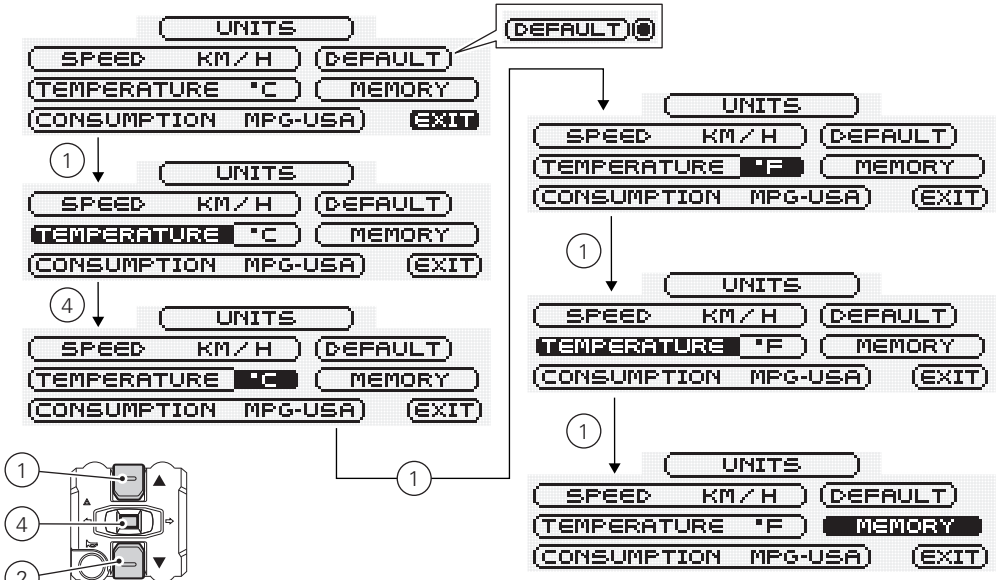

UNITS
SPEED KM/H
TEMPERATURE °C
CONSUMPTION MPG-USA
DEFAULT
MEMORY
EXIT
1
4
2

図 66

設定 (CONSUMPTION)

この機能では平均燃費および瞬間燃費の表示の単位を変更することができます。
"CONSUMPTION"の文字を選択し、ボタン(4)を押します。この時点でインストルメントパネルは現在使用している単位を強調表示します。ボタン(1)または(2)を押して設定可能な単位(L/100、KM/L、MPG-UK、MPG-USA)をスクロール表示させることができます。.設定を希望する単位を選択したら、再度ボタン(4)を押します。インストルメントパネルは自動的に"MEMORY"を強調表示します。新しい単位をメモリーするには、ボタン(4)を3秒間押します。3秒過ぎると、インストルメントパネルは2秒間"MEMORIZED"と表示し、変更を確認します。自動的に"EXIT"が強調表示されます。ボタン(4)を押して終了し、設定メニューに戻ります。

Km/L: この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します。

- CONS.及びCONS. AVG: Km/L

L/100: この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します。

- CONS.及びCONS. AVG: L/100

MPG UK : この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します。

- CONS.及びCONS. AVG: mpgal UK

MPG USA : この設定を選択すると、以下の項目がこの単位を使用します。

- CONS.及びCONS. AVG: mpgal USA

参考
設定がデフォルトの場合、DEFAULT表示の右側に記号(丸に点)が常に表示されます。

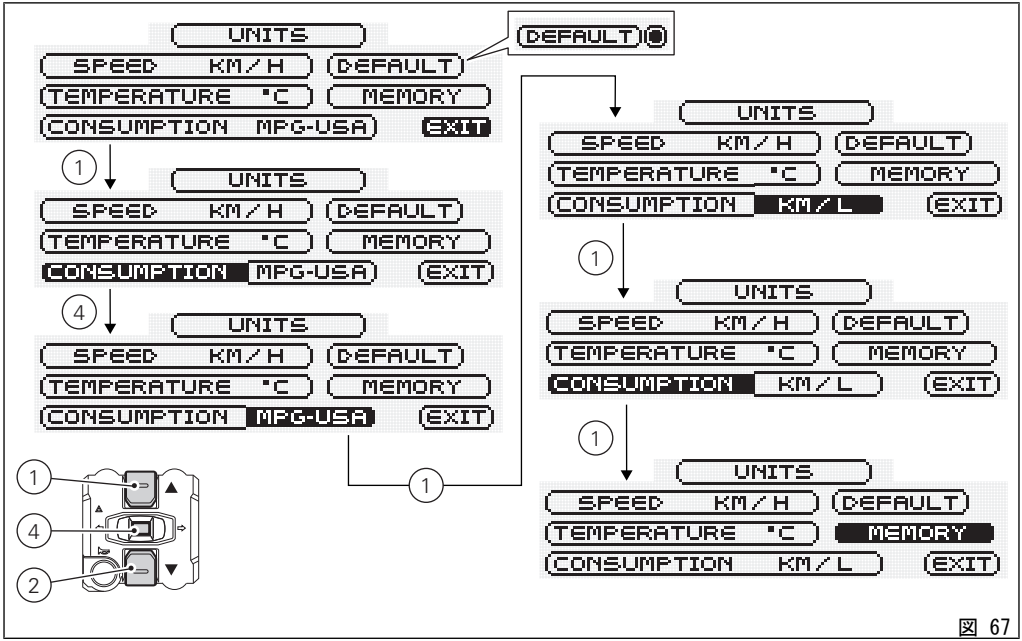

UNITS
SPEED KM/H
DEFAULT
TEMPERATURE °C
MEMORY
CONSUMPTION MPG-USA
EXIT
1
4
2
DEFAULT
CONSUMPTION KM/L
CONSUMPTION MEMORY

図 67

設定 (DEFAULT)

この機能では車両バージョンの"DEFAULT"の単位に変更することができます。ボタン (1) および (2) で"DEFAULT"表示を選択し、ボタン(4)を3秒間押します。この時点で"ALL DEFAULT"の文字に代わり"PLEASE WAIT…"の表示が3秒間表れ、インストルメントパネルはデフォルトの単位に回復させます。3秒後、指定された全ての単位が更新され、自動的に"EXIT"が強調表示されます。ボタン(4)を押して終了し、設定メニューに戻ります。

参考
設定がデフォルトの場合、DEFAULT表示の右側に記号(丸に点)が常に表示されます。

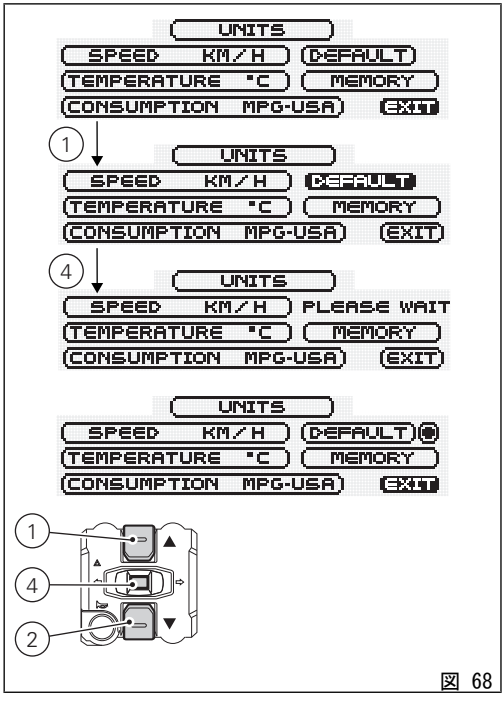


図 68

車両バージョンにより異なるDEFAULT

	TOT、TRIP1、TRIP2、TRIP FUEL	速度、平均速度	T_ENGINE T_AIR	瞬間燃費及び平均燃費
ヨーロッパ	Km	km/h	° C	l/100km
UK	miles	mph	° C	mpg UK
USA	miles	mph	° F	mgp USA
カナダ	km	km/h	° C	l/100km
フランス	km	km/h	° C	l/100km
日本	km	km/h	° C	l/100km
ブラジル	km	km/h	° C	l/100km
台湾	km	km/h	° C	l/100km
中国	km	km/h	° C	l/100km

その他の機能

ヒートグリップ制御機能(アクセサリー)

この機能ではヒートグリップの起動および調整が可能です。ヒートグリップの"H.GRIPS"制御メニューを起動させるには、右スイッチのボタン(5)を押します。コマンドボタン（5）（スタートボタン）はエンジンが起動しているときのみ、ヒートグリップを制御します。メニュー起動後、このボタンを何度か押して希望の項目を選択することができます(OFF、LOW、MEDIUM、HIGHのいずれかの文字を強調表示)。OFFを選択した場合、ヒートグリップは起動しません。LOWを選択すると、ヒートグリップは低温に設定されます。MEDIUMを選択すると、中程度の温度に設定されます。HIGHを選択すると高温に設定されます。

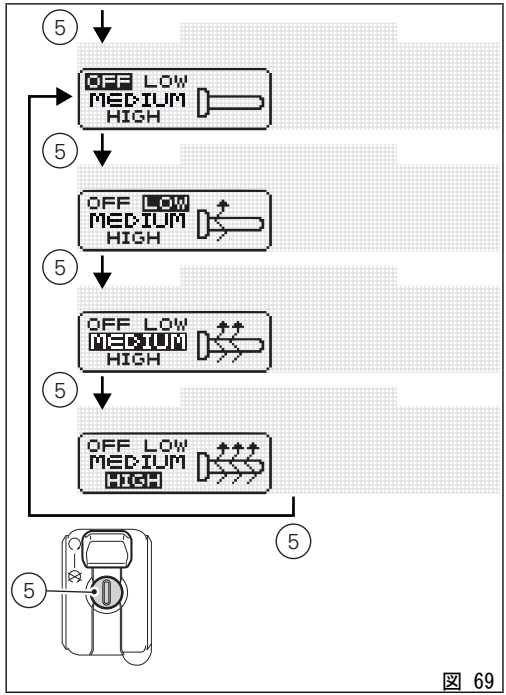


図 69

希望の温度設定を選択後、ボタン(5)は押さないでください。一切の変更をおこなわず3秒が経過すると、最後にメモリーさせた条件を維持してインストルメントパネルは自動的に終了します。

参考

ヒートグリップは実際に起動します。要するにエンジン起動、RPM(エンジン回転数)2000以上で熱を発生させます。
ヒートグリップが起動し、その後エンジンが停止した場合、ヒートグリップは一時的に解除されます。エンジンの再起動時にヒートグリップも自動的に再起動します。

ヒートグリップは多くの電力を使用するため、エンジン回転数が低いとバッテリーがダウンするおそれがあります。

バッテリーが十分に充電されていない場合(電圧が11.0 V未満)、エンジン起動能力を維持するためヒートグリップは解除されます。バッテリー電圧が上記の値を超えると、ヒートグリップは自動的に再起動します。

警告

外気温が15° ～20° C以上でヒートグリップを使用すると、過熱によるグリップの破損を防止するため温度が自動的に下がります(外気温に比例して)。

運転時に必要なコマンド

コマンド類の配置

警告
この章では車両を運転する上で必要なすべてのコマンド機能と配置を詳しく説明しています。コマンドを使用する前によくお読みください。

1) インストルメントパネル
2) イグニッションスイッチ / ステアリングロック
3) 左側スイッチ
4) クラッチコントロールレバー
5) リアブレーキペダル
6) 右側スイッチ
7) スロットルグリップ
8) フロントブレーキレバー
9) ギアチェンジペダル

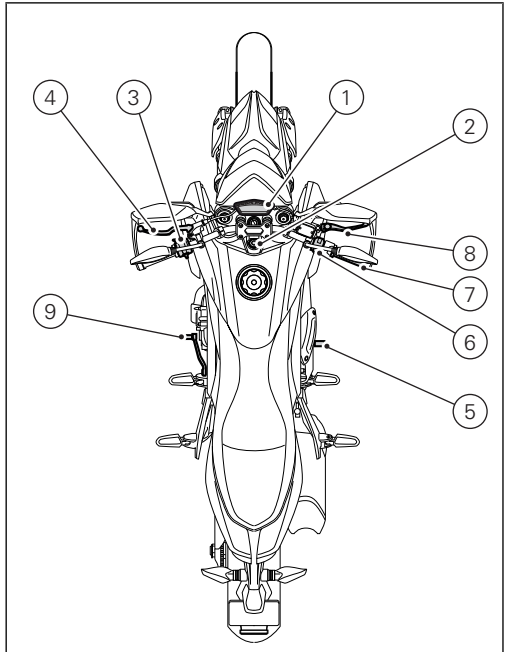


図 70

イグニッションスイッチ / ステアリングロック

燃料タンクの前にあり、4つのポジションがあります：

A) ON：エンジンおよびランプをON
B) OFF：エンジンおよびランプをOFF
C) LOCK：ステアリングロック状態
D) P：パーキングランプ点灯、ステアリングロック状態。

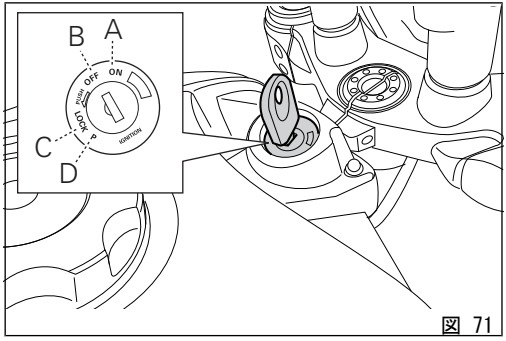


図 71

参考

キーを上記の（C）および（D）の位置に合わせるには、キーを押してから回してください。(B)、(C)、(D) の位置でキーを引き抜くことができます。

左側スイッチ

1) ディマースイッチ、ビームの選択、2ポジション：
   ポジション = ロービームON(A)
   ポジション =ハイビームON(B)
   ボタン = フラッシャー(FLASH) およびインストルメントパネルコントロール(C)。
2) ボタン = ターンインジケーター、3ポジション：
   中央 = OFF
   ポジション = 左折
   ポジション = 右折。
   ターンインジケーターを消すにはいったん中央部に戻してから操作レバーを押します。
3) ボタン = 警告ホーン。
4) インストルメントパネルポジション" ▲ "コントロールボタン
5) インストルメントパネルポジション" ▼ "コントロールボタン

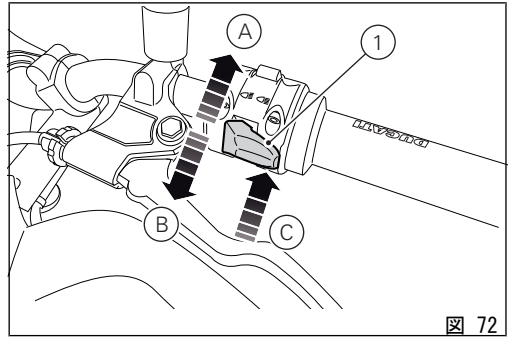


図 72

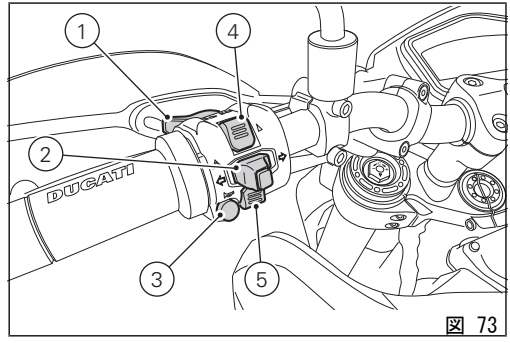


図 73

クラッチコントロールレバー

レバー(1) でクラッチの接続を操作します。レバー(1)を操作すると、エンジンの回転がトランスミッションおよび駆動輪に伝わらなくなります。クラッチの適切な操作は、スムーズなライディング、特に発進時に重要です。

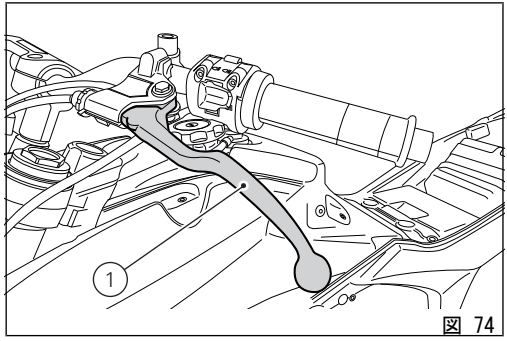


図 74

重要

クラッチレバーを正しく操作することで、トランスミッションの損傷を避け、車両の寿命を延ばすことができます。

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください（この時サイドスタンドは上がっていなければなりません)。

クラッチコントロールの遊びの調整

警告
調整が不適切な場合、クラッチの機能およびその寿命に深刻な影響を与える場合があります。

クラッチは磨耗すると、クラッチケーブルが張る傾向にあります。
車両を使用する前に毎回遊びを点検してください。
点検はエンジンが冷えた状態でおこないます。
クラッチレバーを操作したとき、抵抗力が非常に低い状態からやや高くならなければなりません(作動力)。
遊びは抵抗力が非常に低い場所に相当するレバーのストロークです。
レバーの遊びは、距離"A"が3 - 4 mmとなるように調整します。
遊びを推奨値に持っていくには、遊びがないことを確認します。クラッチコントロール近くのメインアジャスター(2)を操作します。

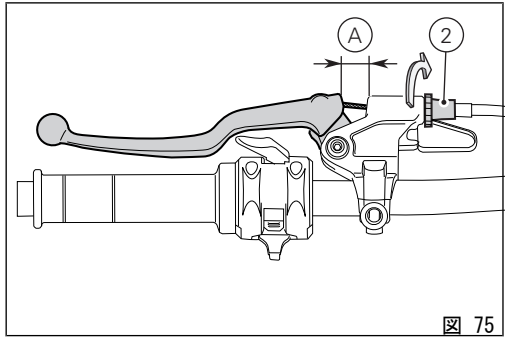


図 75

レバーのアジャスター(2)により、最高11 mm(Q)、標準5 mm(初期設定)に調整することができます。このアジャスターでは不十分な場合、セカンダリーアジャスター(3)を操作します。

警告

磨耗によりクラッチのすべりがある場合、上記のようにレバーのアジャスター(2)は絶対に緩めてはいけません。この場合は閉めなければなりません。すべりが続く場合は、Ducatiオフィシャルディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

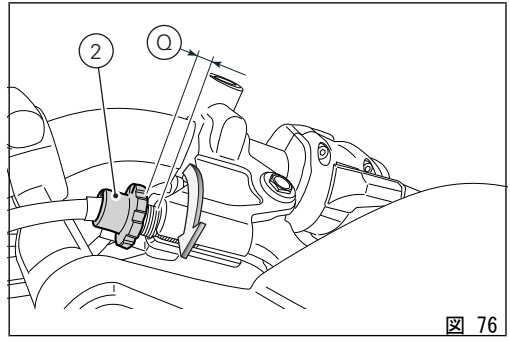


図 76

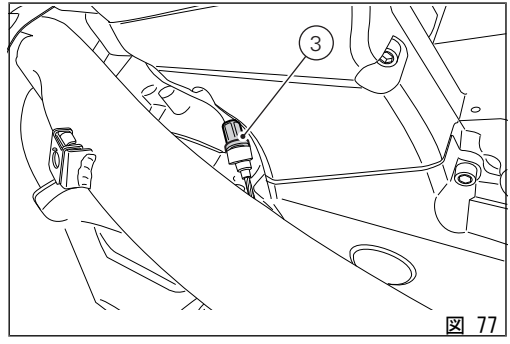


図 77

右側スイッチ

1) 赤スイッチ　ON/OFF
2)黒ボタン　エンジン始動

スイッチ(1)は3ポジションあります。

A) 中央：RUN OFF このポジションではエンジンの起動は不可、全てのエレクトリックデバイスは停止します。
B) 下部に押した場合　：起動/停止 このポジションでシステムの起動(key-on) と停止(key-off)が可能です。
C) 上部に押した場合：RUN ON このポジションのみで、黒ボタン(2)を押しながら、エンジンの起動が可能です。

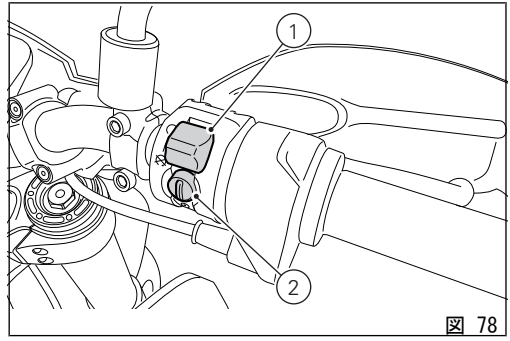


図 78

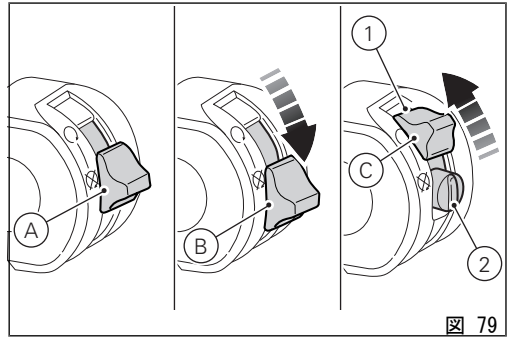


図 79

スロットルグリップ

ハンドルバー右側のスロットルグリップ(1)は、スロットルボディの開閉を操作します。グリップを緩めると、自動的に元の位置(アイドリング状態)に戻ります。

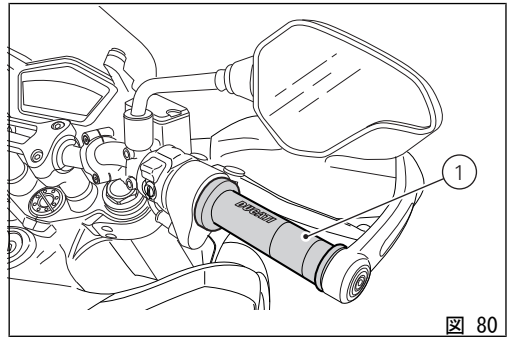


図 80

フロントブレーキレバー

レバー(1)をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。この機種には調整用つまみ(2)が搭載されているため、レバーとグリップとの間隔が調整できます。調整を行うには、レバー(1)を完全にゆるめ、つまみ(2)を5つのポジションのひとつに合わせて回転させます。ポジションn° 1ではレバーとグリップ間の距離が最大になり、ポジションn° 5では距離が最小になります。

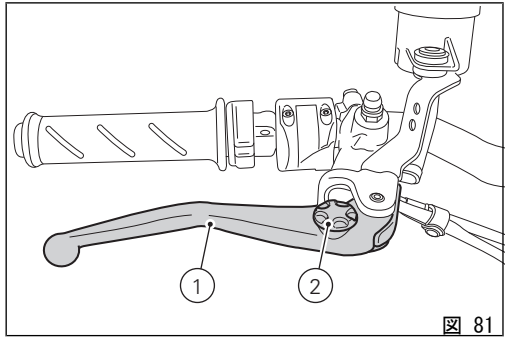


図 81

警告

フロントブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。

リアブレーキペダル

ペダル(1)を下に踏むことで、リアブレーキが機能します。
システムは油圧式で作動します。

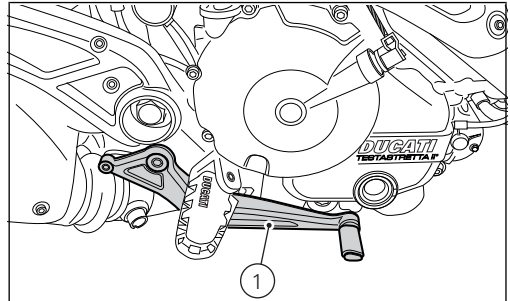


図 82

ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダルは、中央のニュートラルのポジションNに自動的に戻ります。これははインストルメントパネル上のNランプで表示されます。
ペダルは以下のように動かせます：

- 下へ＝シフトダウンおよび1 速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時、インストルメントパネルのNランプが消えます。
- 上へ＝ペダルを上へ上げることで、2 速から順次3、 4、 5、 6 速へとチェンジします。

一回の操作が一速分のチェンジに相当します。

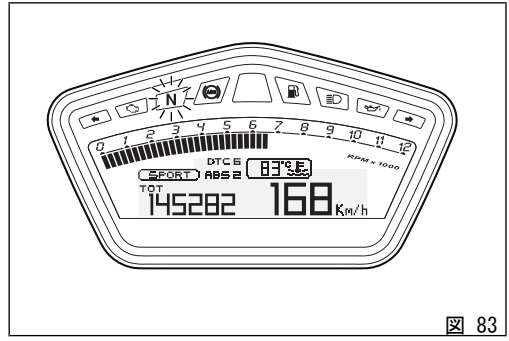


図 83

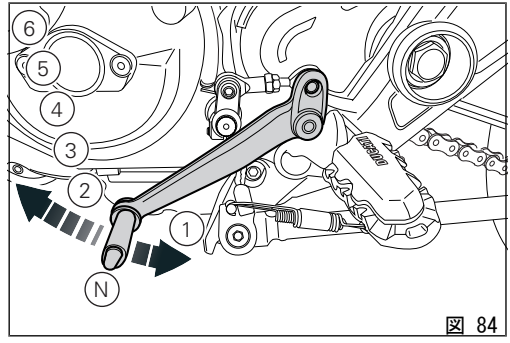


図 84

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの配置調整

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルのポジションは、ライダーのライディングスタイルとフットペグの位置に合わせて調整することができます。
これらの調整は以下の手順で行ってください：

ギアチェンジペダル

オープンエンドレンチを使用してリンケージ(1)をフラット(2)に固定し、ロックナット(3)を緩めます。
リンケージをギアチェンジレバーから取り外すため、スクリュー(4)を緩めます。
リンケージ(5)を回し、ギアチェンジペダルを好みの位置に調整します。
リンケージ(5)にギアチェンジレバーをスクリュー(4)で固定します。
リンケージ(1)をロックナット(3)で締め付けます。

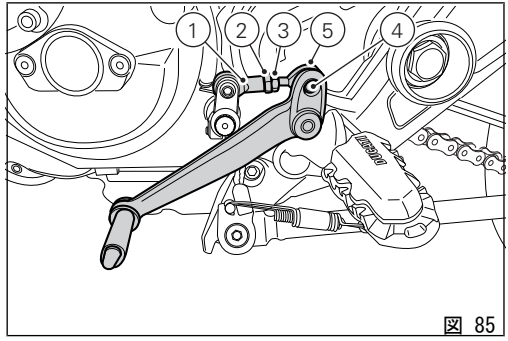


図 85

リアブレーキペダル

ナット(7)を緩めます。
ペダルが好みの位置になるまで、調整スクリュー(6)を回します。ロックナット(7)を締め付けます。
ペダルを手で押しながら、ブレーキがかかり始める前に約1.5～2 mmの遊びがあるかを確認します。もし上記のような遊びが確認できない場合、マスターシリンダーのロッドの長さを次の手順で調整します：
シリンダーのロッド上にあるロックナット(10)を緩めます。
フォーク(9)のロッド(8)の遊びを増やしたい場合は締め、逆に減らしたい場合は緩めます。
ロックナット(10)を締め付け、ペダルの遊びを点検します。

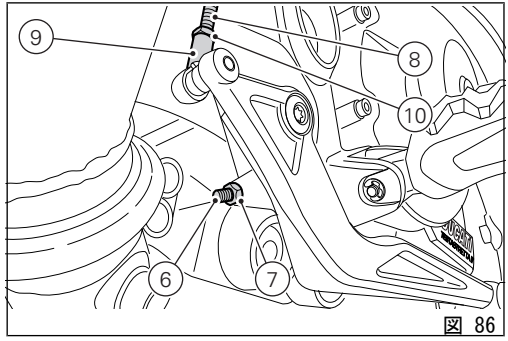


図 86

主要構成部品 / 装備

車両上の配置

1) フィラープラグ
2) シートロック
3) サイドスタンド
4) リアビューミラー
5) フロントフォークアジャスター
6) リアショックアブソーバーアジャスター
7) 触媒
8) エキゾーストサイレンサー

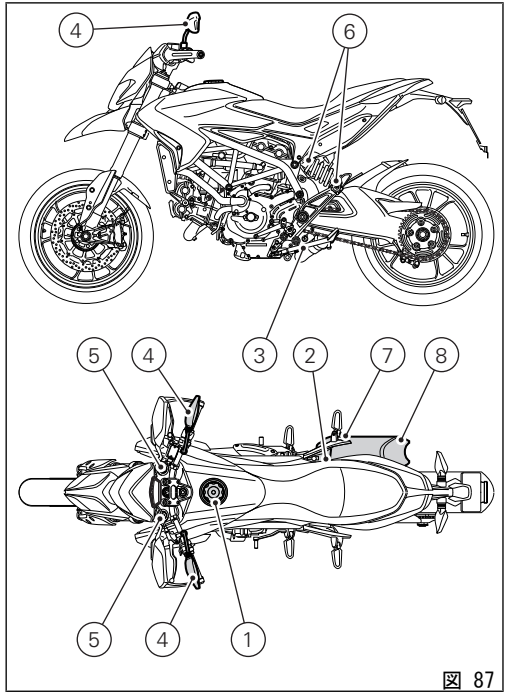


図 87

燃料フィラープラグ

開け方

鍵穴にキーを挿入します。
キーを時計回りに1/4回転してロックを解除します。
キャップ(1)を取り外します。

閉じ方

キーの差し込まれたキャップ(1)を押しながら、
キーを反時計回りに回して、元の位置に戻してから抜き取ります。

参考
キーが挿入された状態でのみキャップを閉めることが可能です。

警告
燃料補給後は、必ずキャップが確実に閉じていることを確認してください。

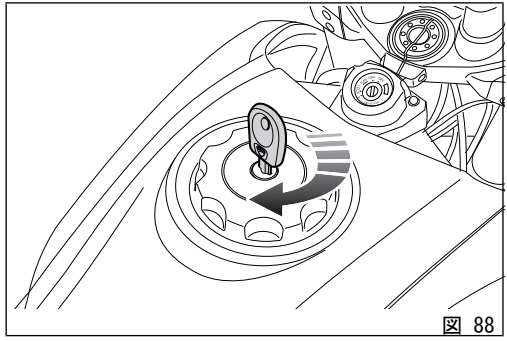


図 88

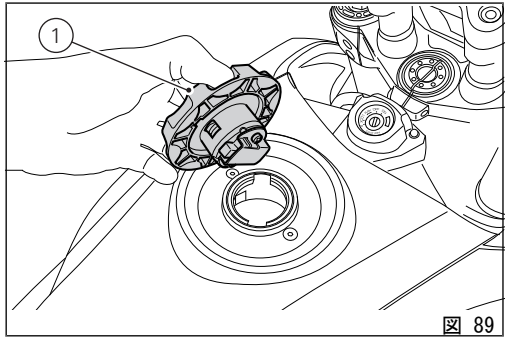


図 89

シートロック

開け方

キー(1)を錠に差し込み時計方向に回しながら同時に掛け金の近くを下方に押し下げてピンを外します。フロントストッパーからシート(2)を後ろ側へ引き出します。

閉じ方

すべてのエレメントが正しい位置にあり、シート下に固定されていることを確認します。
シート下の前方の先端(A)をタンクの所定の位置(B)に挿入します。

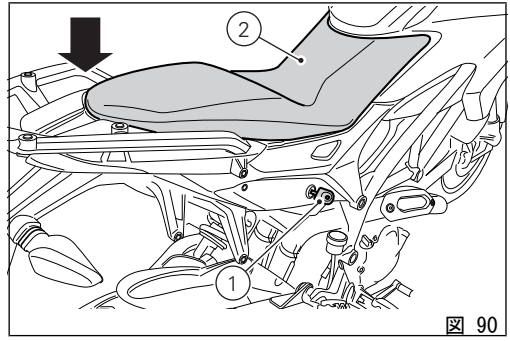


図 90

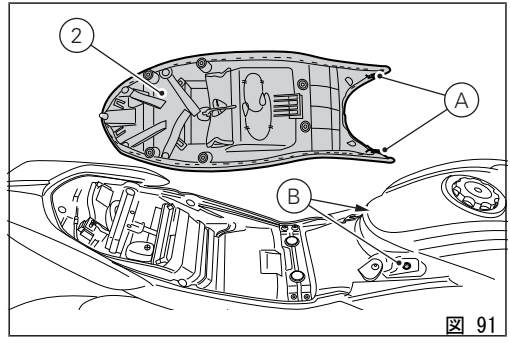


図 91

シート(2)の後部を持ち上げたまま、中央の止め具を上に押して挿入します。
シート(2)の最後部をロックの掛け金がカチッとなるまで押します。
シートがフレームにしっかりと固定されたことを確認し、ロックからキー(1)を抜きます。

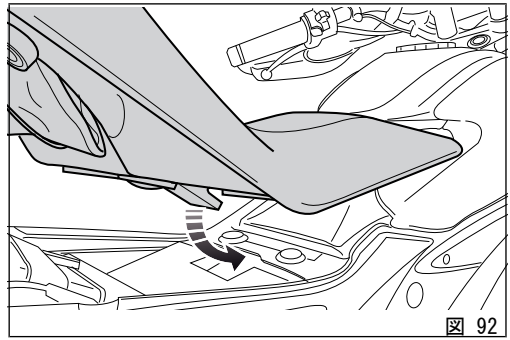


図 92

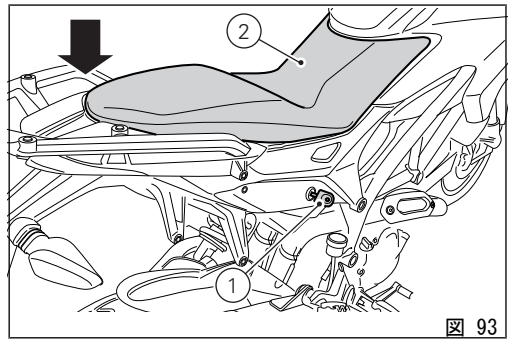


図 93

ヘルメットホルダーケーブル

″シートロック ページ 140″ の章の記載に従い、シートを取り外します。
ケーブル (1) をシートから取り外します。
図のように、ケーブル (1) をヘルメットに通し、ケーブルの端をフレームのピン (2) に挿入します。
ヘルメットを吊るした状態でシートを取り付け、固定します。

警告

本装置は駐車中のヘルメットの盗難予防に使用します。ヘルメットを取り付けた状態で走行しないでください。運転の妨げになるだけでなく、車両のコントロールを失うおそれがあります。

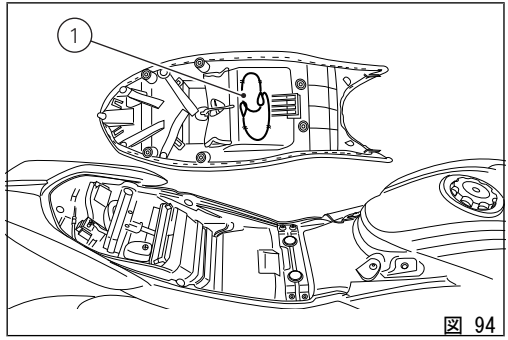


図 94

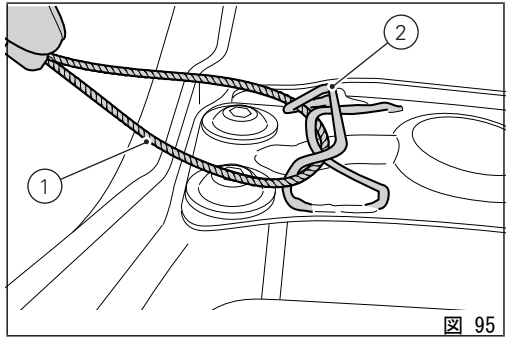


図 95

ケーブル（1）のもう一方の端をピン（2）に挿入します。
ケーブル（1）両端のピン（2）への正しい挿入位置は（図 97）を参照してください。

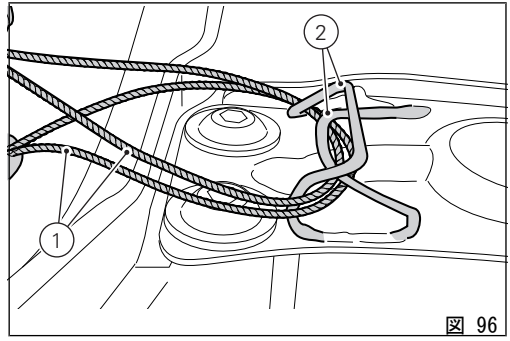


図 96

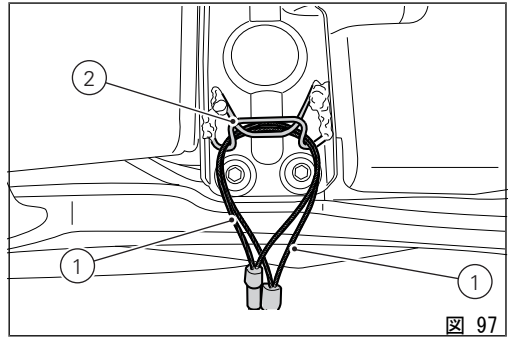


図 97

サイドスタンド

重要

短時間停車する場合に限り、サイドスタンドを使用して車両を支えます。サイドスタンドを使用する前に、地面に十分な固さがあり平らであるかを確かめてください。

柔らかい地面、砂利、日光で柔らかくなったアスファルト等にパーキングすると、車両転倒の原因となります。傾斜面に停車する場合は、常にリアホイールが斜面の低い側になるようにして下さい。
サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で掴み、車体を支えながら、スタンドのフック(1)を足でいっぱいに押します。次に、スタンドがしっかりと路面に着くまで、車体を徐々に傾けていきます。
サイドスタンドを元の位置(水平位置)に戻すには、車両を右側に傾けながら、足でスタンドのアーム(1)を持ち上げます。

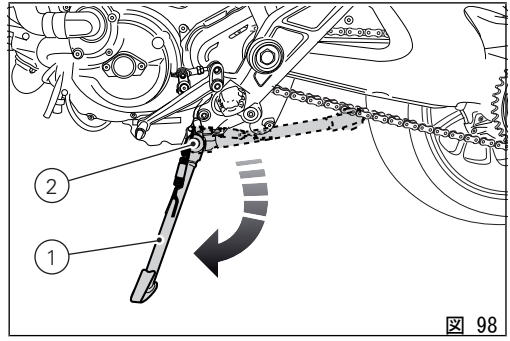


図 98

警告

サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないでください。

参考

定期的にスタンド（内側と外側 2 つのスプリングの状態）と安全センサー（2）の作動を点検することをお勧めします。

フロントフォーク調整

車両のフォークは、リバウンド/コンプレッションダンピング、およびスプリングプリロードの調整が可能です。

調整はスクリュー形のアウターアジャスターでおこないます。

1) 油圧ブレーキのリバウンドダンピングの変更(右レッグ)
2) インナースプリングのプリロードの変更(両レッグ)
3) 油圧ブレーキのコンプレッションダンピングの変更(左レッグ)。

車両をサイドスタンドに安定した状態で停車させます。プラスドライバーで右レッグのアジャスター(1)を回転させ、油圧ブレーキのリバウンドダンピングを変更します。プラスドライバーで左レッグのアジャスター(3)を回転させ、油圧ブレーキのコンプレッションダンピングを変更します。各レッグのインナースプリングのプリロードを調整するには、先端が六角形のアジャスター(2)を22 mmの六角レンチで回転させます。アジャスター(1および3)を回転させるとカチッと音がします。1回音が鳴るごとに減衰の調整がおこなわれます。固定位置までアジャスターを

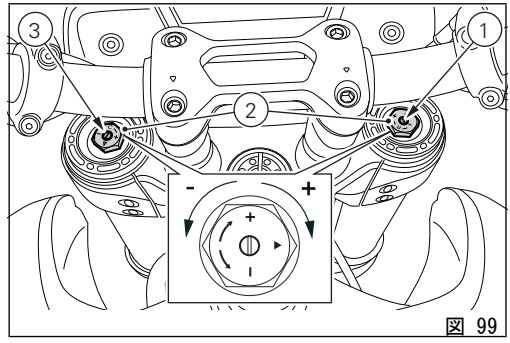


図 99

完全にねじ込むと、ポジションが(0)となり、減衰が最大になります。

この位置から反時計回りに回転させ、位置"1"、"2"...に対応してクリックを数えることができます。

STANDARD調整は以下のとおりです。

- コンプレッション：最大値(完全閉鎖)から14クリック
- リバウンド：最大値(完全閉鎖)から14回転
- スプリングプリロード：最小（プリロードゼロ）から5回転以上。
  1回転はスプリングプリロードの1 mmに相当します（トータル10 mm)。

警告
アジャスターは両方のレッグで同じ位置に調整してください。

リアショックアブソーバー調節

リアショックアブソーバーは荷重に合わせてバランスを調整できるようアジャスターを装備しています。膨張タンクにあるつまみ(1)は、コンプレッションダンピングの段階にある油圧ブレーキを調整します。ショックアブソーバーをスイングアームに固定している部分(上部)にあるつまみ(3)は、リバウンドダンピング(リターン)の段階にある油圧ブレーキを調整します。時計回り方向にアジャスター(1)または(3)を回転させるとダンピングが強くなり、反対方向に回転させると弱くなります。ショックアブソーバー下部にある2つのリングナット(2)で、アウタースプリングプリロードを調整します。スプリングプリロードを変更するには、上部固定リングナットを緩めます。下部リングナットを締める、または緩めることでプリロードの強弱を調整します。

アジャスターを完全に時計回りの方向に締めた状態の標準設定：

- リバウンド：最大値（完全閉鎖）からアジャスター(1)を16クリック緩める
- コンプレッション：最大値（完全閉鎖）からアジャスター(3)を10クリック緩める
- スプリングプリロード：最小から7㎜（プリロードゼロ）から7回転。

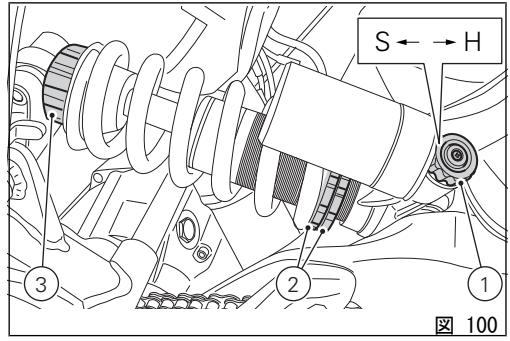


図 100

警告

プリロードアジャスターを回すにはピンレンチを使用します。作動中にリングナットのすき間にレンチのソケット部分が急に落ちた場合に車両の他の部品に手を強くぶつけてケガをしないよう十分注意してください。

警告

ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となる恐れがあります。

希望のプリロードに設定したら、上部固定リングナットを締め付けます。
パッセンジャーと荷物を載せる場合、リアショックアブソーバーのスプリングを最大にプリロードし、車両の動的挙動を改善させ、地面の干渉を避けます。この場合には、リバウンドダンピングの再調整が必要になることがあります。ショックアブソーバー調節は、インストルメントパネルからアブソーバー内部の調節機器に送信されるインパルスで行なわれます。

運転のしかた

慣らし運転の方法

慣らし運転時の最高速度

慣らし運転期間中および通常使用においてのエンジン最大許容回転数：
1) 1,000 kmまで
2) 1,000 km～2,500 kmまで

1,000 kmまで

最初の1000 kmまではタコメーターに注意し、絶対に5,500～6,000 rpm を超えないようにしてください。
最初の数時間は、規定回転数の範囲内でエンジンの負荷と回転数を色々変えることをお勧めします。
エンジン、ブレーキ、サスペンションのより効果的な慣らしには、カーブが多く起伏に富んだ場所を走行することが理想的です。
最初の 100 km は、ブレーキの操作に注意し、急ブレーキや長びいた操作を避けてください。これは、ブレーキディスクに対してパットの摩擦材を適切に慣らすためです。

全ての機械部分を互いに馴染ませるため、また、エンジンの主要部分の寿命に悪影響が出ないよう、急な加速や、特に上り坂での長時間にわたる高速回転は避けて下さい。
定期的にチェーンを点検し、必要であれば潤滑し、調整して下さい。

1,000 km～2,500 kmまで

1,000 km～ 2,500 kmまでは、エンジンからよりパワーを引き出す事は可能ですが、7,000rpm を決して超えないようにしてください。

重要

慣らし運転期間は、保証書に指定されている点検、整備を必ず受けてください。この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

慣らし運転の方法を守ることでエンジンの寿命を延ばし、調整、オーバーホールの回数を抑えることができます。

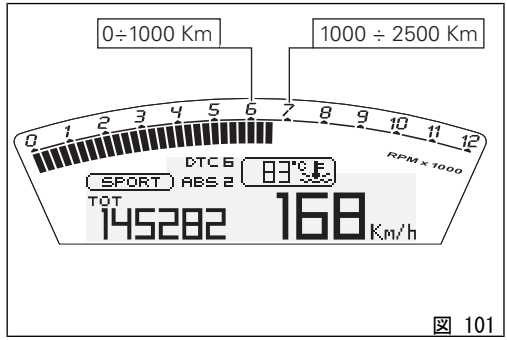


図 101

走行前の点検事項

警告
走行前にこれらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーを危険に晒すおそれがあります。

走行前に以下の点検を実施してください:

- タンク内の燃料量
  タンク内の燃料の残量を確認します。必要であれば給油してください（ページ 161）。
- エンジンオイル量
  エンジンオイル量をクランクケースの点検窓から確認します。必要であれば補充してください（ページ 184）。
- ブレーキフルード
  各リザーバー内のフルードレベルを確認します（ページ 164）。
- クーラント
  クーラントタンクの液量を確認します。必要であれば補充して下さい（ページ 163）。
- タイヤコンディション
  空気圧と摩耗度を点検します（ページ 182）。
- コマンド機能
  ブレーキ、クラッチ、アクセル、トランスミッション等の作動レバーまたはペダルを作動させて機能を確認します。
- ランプ類、インジケーター
  ランプ、インジケーター、ホーンが適切に機能するかを確認します。電球が切れている場合には交換して下さい（ページ 174）。
- ロック類
  フィラープラグ（ページ 139）およびシート（ページ 140）のロック状態を確認します。
- スタンド
  サイドスタンドがスムーズに作動し、適切な位置にあるかをチェックします（ページ 144）。

ABSランプ

key-on後、ABSランプは点灯し続けます。
走行速度が5 km/hを越えた時点で、ABSシステムの正常な機能を示すため、ランプは消灯します。

警告
異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

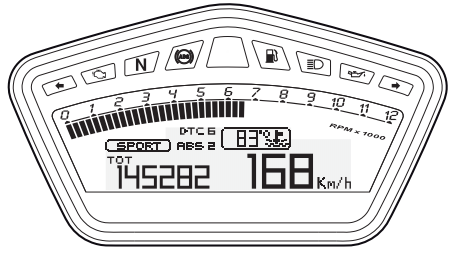


図 102

ABS装置

フロントトーンホイール(1) とリアトーンホイール (2) が汚れていないか確認してください。

警告

汚れなどが付着して読み取り窓が詰まっていると、システムが正常に機能しないおそれがあります。泥道を走行する時には ABS システムがうまく機能しない場合があります。システムを OFF にしておくことをお勧めします。

警告

ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

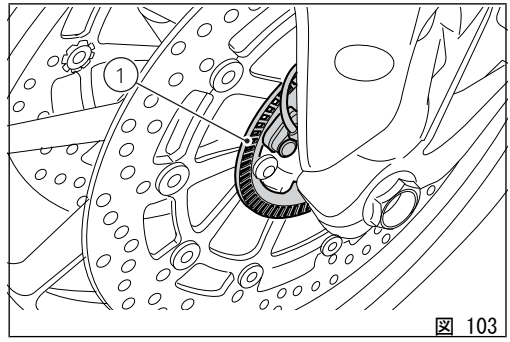


図 103

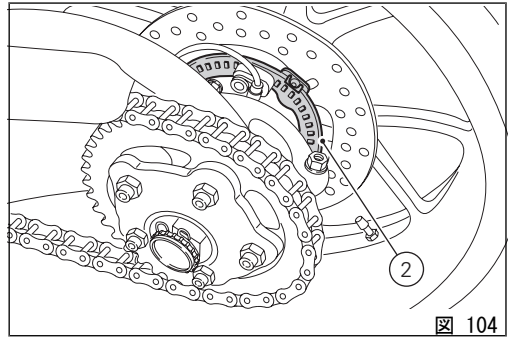


図 104

車両の起動

警告
エンジンを始動する前に、運転に必要なコマンド類の取り扱いに十分慣れておいてください。

警告
屋内では絶対にエンジンをかけないでください。排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

イグニッションスイッチをポジション(1, 図 105)にします。インストルメントパネルの緑色のランプNおよび赤のランプ が点灯していることを確認します。

重要
オイル圧警告ランプはエンジンを始動してから数秒後に消えなければなりません。

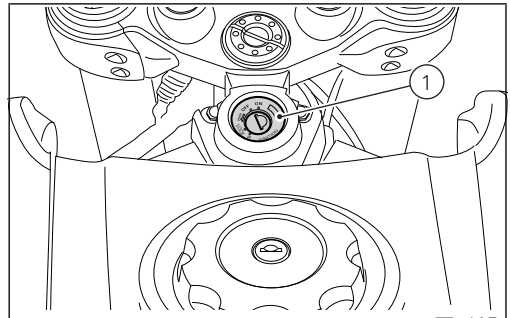


図 105

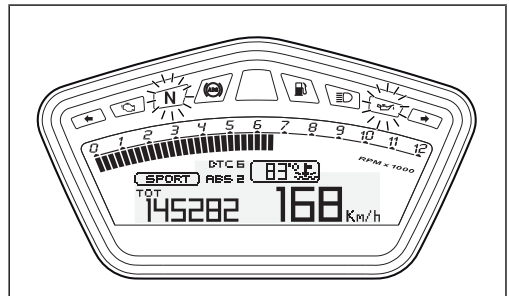


図 106

警告
サイドスタンドが完全に上げられて（水平）いない場合は、安全センサーが作動してエンジンを始動することはできません。

参考
サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。または、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いたままの状態で始動させてください(この時サイドスタンドは上がっていなければなりません)。

エンジンストップスイッチ（2、図 107）が　○　(RUN) の位置になっていることを確認してから、スタートボタン（3、図 107）を押します。
この時、スロットルグリップは回さず、車両が自然に始動するまで待ちます。

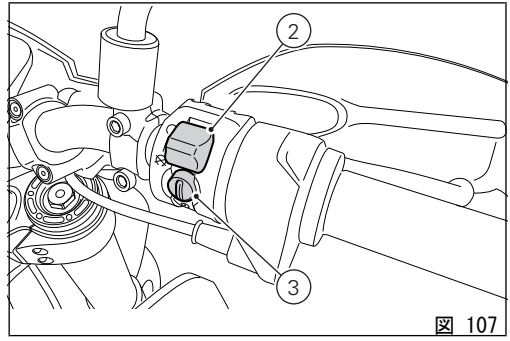


図 107

参考
バッテリーが上がっている場合、システムは自動的にスターターモーターの起動を停止します。

重要
エンジン冷間時は回転数を上げすぎないでください。潤滑が必要なすべての部分にオイルを行き渡らせるために、エンジンが温まるまで待ってください。

車両の発進

1) クラッチレバーを引いてクラッチを切ります。
2) 1速に変速するためにギアチェンジペダルをつま先でしっかり押し下げます。
3) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々につなぐと、車両は発進し始めます。
4) クラッチレバーを完全に放し、エンジンの回転数を上げます。
5) シフトアップするには、エンジン回転を落とすためにスロットルを戻し、クラッチを切り、ギアチェンジペダルを上げ、クラッチをつなぎます。

シフトダウンは以下のように行います。スロットルグリップを放し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチを放します。
これらの作業は適切に素早く操作しなければなりません。上り坂を走行する際には、車速が落ちてきたら直ちにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノッキングを避けて下さい。

警告
急な加速操作は、オーバーフローやトランスミッションのスナッチを招きますので避けて下さい。ギアを変速した後もクラッチレバーを引いたままでいると、機械部分の過熱や摩擦部分の異常な摩耗を引き起こします。

警告
ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

ブレーキ操作

減速するには、最初にスロットルグリップを戻してエンジンブレーキをかけ、それからブレーキングします。急なエンジンストップを防ぐため、車両が停止する前に、クラッチを切ります。

ABSシステム

困難な条件下のブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、牽引力、安定性が減り、車両のコントロールを失います。

アンチブロックブレーキシステム(ABS)は、緊急のブレーキ時、悪道路、悪天候の下でブレーキの性能を最も効率的に使えるように開発されたものです。

ABSは油圧電子システムです。ホイールがロックされそうになると、ホイールにあるセンサーからコントロールユニットに信号が送られ、ブレーキ回路内のプレッシャーが制御されます。

一時的にプレッシャーが下がることで、タイヤが理想的な接地状態を維持したまま、ホイールは回転を続けます。ブレーキ回路内のプレッシャーはすぐにまた上がり始め、ブレーキが作動するようになります。ロックアップのリスクが完全になくなるまでこのサイクルが繰り返されます。

ブレーキが作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダル上に軽い断続的抵抗が感知されます。

フロントとリアブレーキのコントロールシステムはそれぞれ独立していますので、 ABSもフロントとリアブレーキに同時に作動するわけではありません。

このシステムをインストルメントパネルから停止させたい場合は、“ABS設定機能”を使います（ページ71参照）。

警告

ABS システムが解除された状態では、車両のブレーキシステムは標準仕様になります。このため、2つのブレーキコマンドのうち片方だけを使用した場合、車両のブレーキ性能は低下します。急激に過度の力を掛けてブレーキコマンドを操作しないでください。ホイールがロックし、車両のコントロールを失うおそれがあります。雨天時や滑りやすい路面の走行ではブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。規定空気圧に満たないタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

車両の停止

スロットルグリップを緩めると、車両は 徐々にスピードを落とし始めます。
シフトダウンしながらクラッチをつなぎ、最後に1速からニュートラルに入れます。
ブレーキをかけると、車両を完全に停止することができます。
エンジンを停止させるには、キーを(2)ポジションにします。

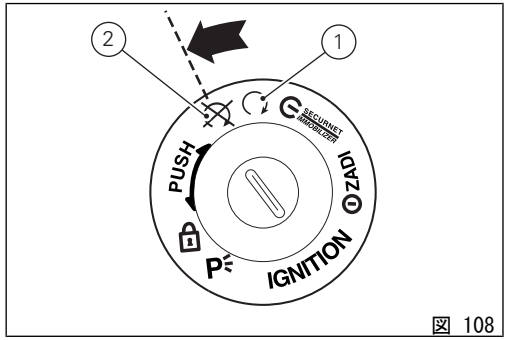


図 108

重要

エレクトリカル部品の破損を防ぐため、エンジンを切った状態でキーを ON、(1) の位置のまま放置しないでください。

パーキング

停止させた車両をサイドスタンドを使い駐車します。盗難防止のため、ハンドルを左に振りきり、キーを(3)にします。車両をガレージ、その他の建物内に駐車する際には、換気が充分され、車両の近くに熱源が無いことを確認して下さい。必要な場合には、車両を認識しやすいようにイグニッションキーを(4)の位置にするとパーキングランプを点灯しておくことができます。

重要

長時間キーを(4)の位置のままにしないでください。バッテリーが上がってしまうおそれがあります。監視できない場所に停車するときは、キーを付けたままにしないでください。

警告

エンジン停止後でもエキゾーストユニットは高温の場合があります。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

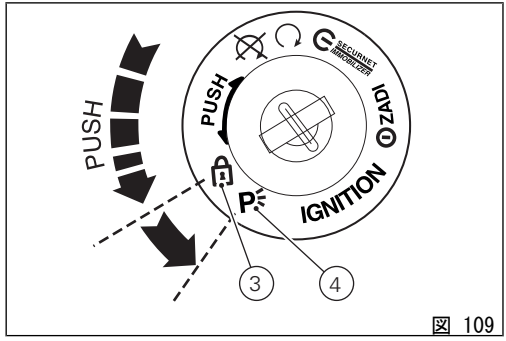


図 109

警告

発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック（ディスクロック、リアスプロケットロック等）は大変危険です。車両の機能だけでなく、ライダーとパッセンジャーの安全をも損なうおそれがあります。

燃料の補給

給油の際、入れすぎないように注意してください。
燃料はプラグ(1)の下縁をこえてはいけません。

警告

燃料は、鉛の含有量が少なく、混合前のオクタン価が95以上のものを使ってください。

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

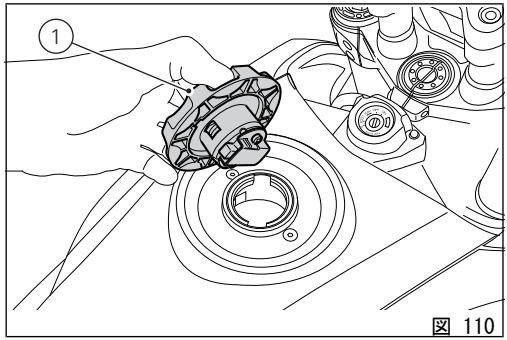


図 110

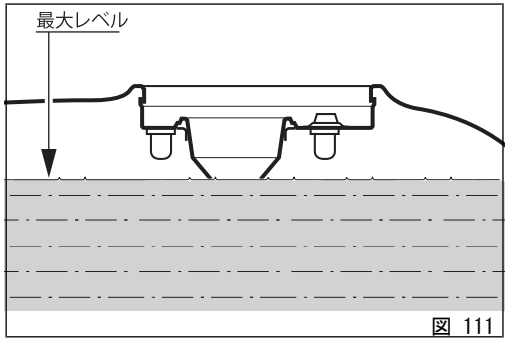


図 111

付属アクセサリー

シート(1)の下にツールキット(2)およびヘルメットの防犯ケーブルがあります。
ツールキットは以下のものからなります。

- ヒューズ用ピンセット
- 8 mm/10 mmスパナ
- ドライバー
- ドライバー用ハンドル
- 14x16 mm ソケットレンチ
- 6 mm リンケージ
- 3 mm 六角レンチ
- 5 mm 六角レンチ
- 6 mm 六角レンチ。

ボックスの作業をおこなうには、シートページ 140 を取り外します。.

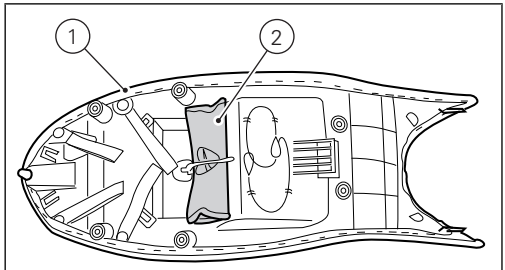


図 112

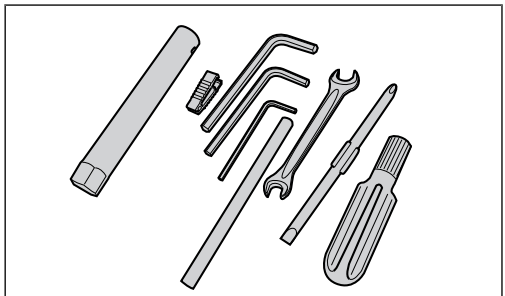


図 113

主な整備作業とメンテナンス

クーラントレベルの点検および補充

ステアリングチューブ右側にあるエキスパンションタンク内のクーラントレベルを点検します。ハンドルを左側にいっぱい切り、エキスパンションタンク脇に見えるMIN からMAX目盛のどのレベルにあるかを確認します。液体レベルがMIN以下の場合は補充します。充填キャップ(1)を緩め、不凍液ENI Agip Permanent Spezialを薄めずにMAXレベルまで充填します。キャップ(1)を再度ねじ込みます。上記に示された混合液を使用することで最良のコンディションを保つ事が出来ます（-20° C/-4° Fから凍結し始めます)。

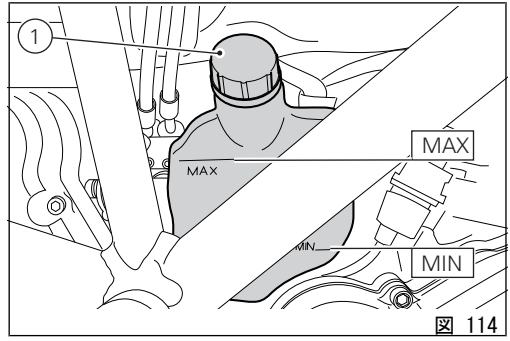


図 114

クーリングシステムの容量：2.3リットル。

警告

この作業はエンジンが冷たい状態でおこないます。エンジンが熱い状態で作業を行うと、クーラントや蒸気が吹き出し深刻なやけどを負うおそれがあります。

ブレーキフルードレベルの点検

ブレーキ、クラッチフルードのレベルは絶対に各リザーバーのMIN 目盛り以下になってはいけません((図 115)はフロントブレーキフルードリザーバーで、(図 116)はリアブレーキフルードリザーバーです)。
液体レベルが下がりすぎると、回路内に空気が混入し、 システム作動に悪影響を及ぼします。
また、定期点検表で指定されているブレーキ/クラッチフルード補充及び交換は、Ducatiディーラーまたはサービスセンターに依頼して下さい。

重要
ブレーキ/クラッチシステムのホース類はすべて 4 年毎に交換してください。

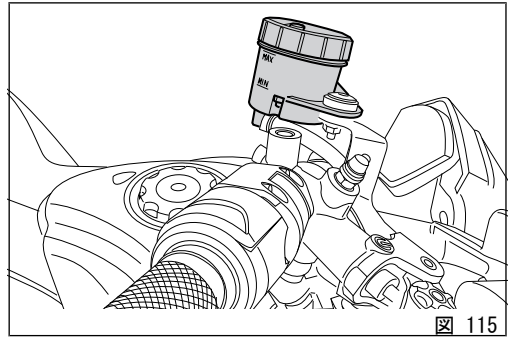


図 115

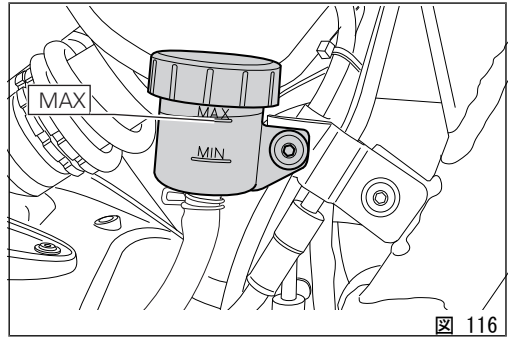


図 116

ブレーキシステム

ブレーキパッドが磨耗していないのに、ブレーキレバー、ブレーキペダルの過度の遊びに気付いた場合には、Ducatiディーラーまたはサービスセンターに連絡し、システムの点検とエア抜きを行って下さい。

警告

ブレーキフルードはプラスチックおよび塗装部分に損傷を与えますので、こぼさないようにして下さい。
フルード類には腐食性があるので、傷損害を与える恐れがあります。異なった品質のオイルを混ぜないで下さい。シールの状態をチェックしてください。

ブレーキパッドの摩耗点検

キャリパー間の開口部を通してパッドの摩耗を点検します。
摩耗剤の厚さが一つでもおよそ1mmならば、両方のパッドを交換します。

警告

パッドが消耗しすぎると、ブレーキディスクと金属製サポートが接触することでブレーキ性能、ディスクの正常な状態、またライダーの安全を損なうおそれがあります。

重要

ブレーキパッドの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

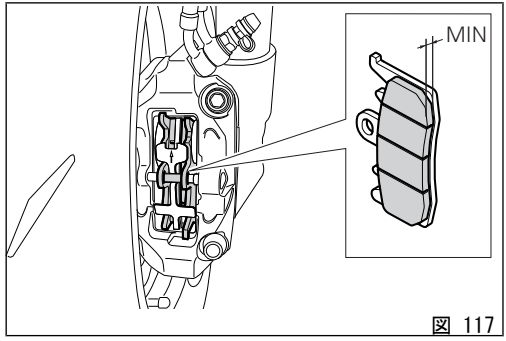


図 117

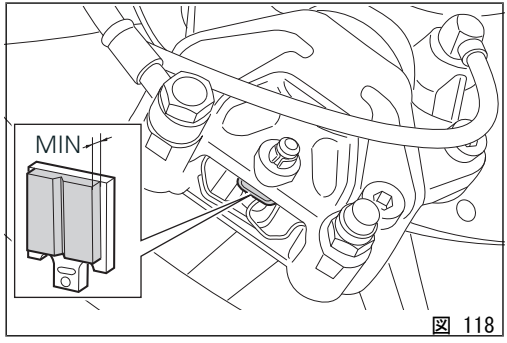


図 118

バッテリーの充電

警告
バッテリーの取り外しは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

バッテリーの作業をおこなうにはシート ページ 140を取り外します。スクリュー(1)を緩め、陽極ケーブル(2)及び陽極ケーブル(ABS) (3)を陽極端子から、陰極ケーブル(4)を陰極端子から取り外します。必ず陰極 (-) から始め、所為の位置からバッテリーを引き抜きます。

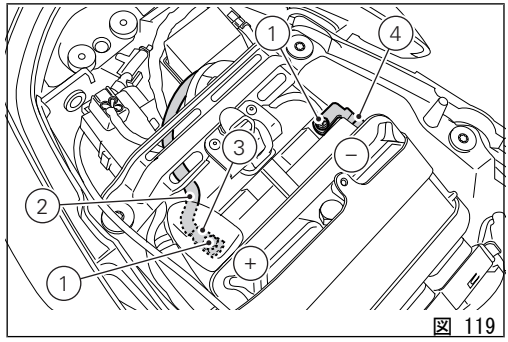


図 119

警告
バッテリーは爆発性ガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

充電は換気のよい場所で行って下さい。
端子に充電機のコンダクターを接続します。赤い端子はプラス(+)、黒い端子はマイナス(-) 。

重要
バッテリーを充電器に接続する前に充電器の電源を入れないでください。接続する際に火花が発生し、セル内の可燃性ガスに引火する恐れがあります。接続は常に赤のプラス (+) 端子から行ってください。

スクリュー(1)にグリースを塗布します。
バッテリーを配置し、陽極ケーブル(2)及びABS陽極ケーブル(3)を陽極端子に、陰極ケーブル(4)をバッテリーの陰極端子に接続します。必ず陽極（+）から初め、スクリュー(1)を差し込みます。

警告
バッテリーはお子様の手の届かないところに置いてください。

バッテリーは0.9Aで5 ～10時間充電します。

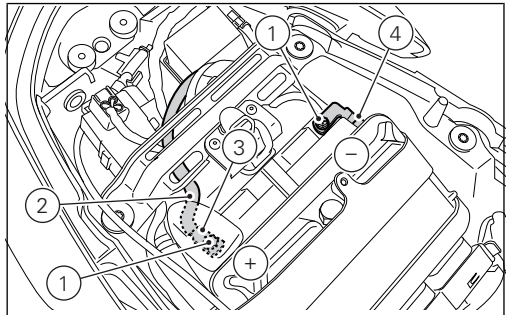


図 120

バッテリー充電および冬季の断熱

車両には所定の充電器(2)(バッテリーメンテナンスキット、部品番号69924601A - 多くの国、バッテリーメンテナーキット、部品番号69924601AX - 日本、中国、オーストラリアのみ)を接続することができるコネクター(1、)がシート下に装備されています。充電機は当社の販売店でお求めできます。

参考

本モデルのエレクトリカルシステムはエンジン停止状態での消費電力を非常に低く抑えるよう設計されています。ただし、バッテリーは自然に放電しており、放電量は使用していない期間や環境条件によって変化します。

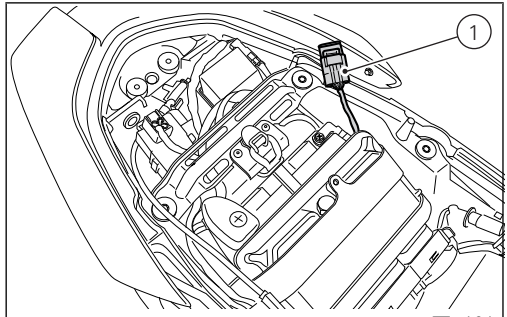


図 121

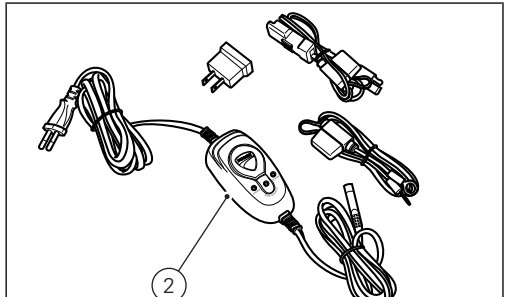


図 122

重要
所定のメンテナーを介してバッテリー電力の最低値が維持されないと、修理が不可能なバッテリーの劣化を招くサルフェーション現象が生じます。

参考
車両を使用しない期間（およそ 30 日以上）、Ducati バッテリーメンテナー（バッテリーメンテナーキット、部品番号：69924601A - 多くの国、バッテリーメンテナーキット、部品番号：69924601AX - 日本、中国、オーストラリアのみ）の使用をお勧めします。電力をモニターする内部エレクトロニクスが搭載されており、充電電流は最大 1.5 A/h です。メンテナーを車両後部にある診断ソケットに接続します。

参考
Ducati が認可していないバッテリーメンテナーを使用すると、車両のエレクトリカルシステムに損傷を与えるおそれがあります。上記の理由でバッテリーが損傷した場合には、不適切なメンテナンスとみなし保証の対象にはなりません。

トランスミッションチェーン張力の点検

重要
チェーン張力の調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

リアホイールを回転させてチェーンが最も張る位置を探します。車両をサイドスタンドに駐車させます。指の力だけでチェーンを測定位置で下方向に押し、放します。チェーンピンの中央およびスイングアームのアルミニウムの間の距離(A)を測定します。次の値でなければなりません。A = 72～74 mm。

重要
ドライブチェーンが張りすぎ、もしくは緩みすぎている場合は、測定値が指定の値になるように調整します。

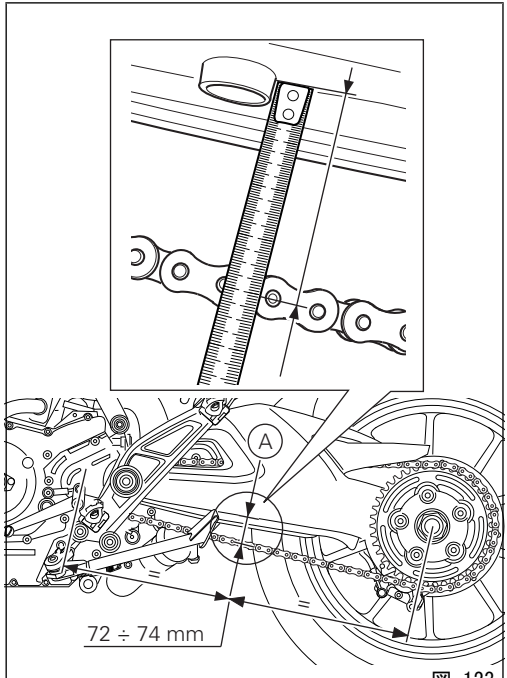


図 123

警告
安全な走行状態を維持するには、スイングアームのスクリュー（1）の正しい締め付けが重要です。

重要
チェーンの張りが不適切だとトランスミッション部品の磨耗を早めます。

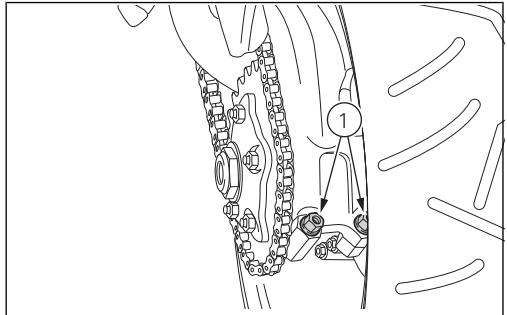


図 124

チェーンの潤滑

この車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑をより保つOリングシールの付いたチェーンが装備されています。
チェーンを洗浄する場合には、シールの損傷を防止するため、専用の溶剤を使用して下さい。ウォッシャー等でスチームや圧力のかかった水で洗浄しないで下さい。
洗浄後は、コンプレッションエアーでチェーンを乾かし、SHELL Advance ChainまたはAdvance Teflon Chainで潤滑します。

重要

規定オイル以外を塗布すると、チェーン、フロント / リアスプロケットに損傷を与える可能性があります。

ヘッドライトの電球の交換

重要
ランプの交換作業が必要な場合は、ディーラーまたはDucatiサービスセンターにご連絡下さい。

警告
雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

切れた電球を交換する前に、新しい電球が"エレクトリカルシステム" ページ 202 の章に記載されている電圧及び電力と同じであることを確認してください。取り外したパーツを再度取り付ける前に、新しく取り付けた電球の機能を点検してください。
スクリュー(1)を緩めます。ヘッドライトマウントを若干上に持ち上げます。

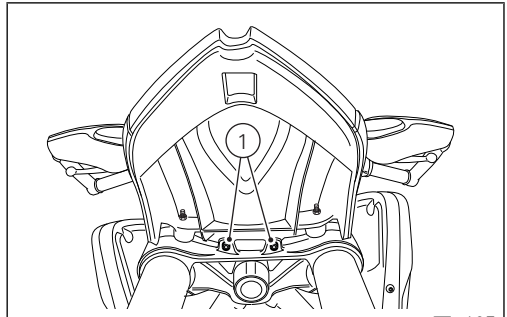


図 125

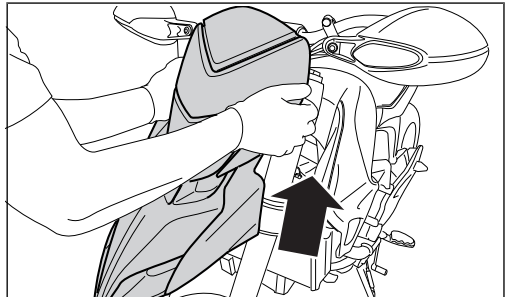


図 126

ヘッドライトマウントを取り付けラバー(A)から外します。
ヘッドランプサポートをグリップ(2)が自由になるまで車体前側に向けて抜きます。
グリップ(2)を反時計回りに回して緩めます。

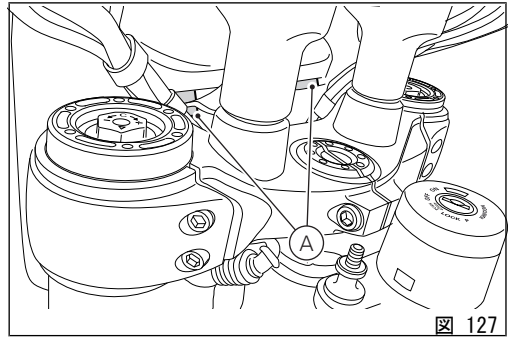


図 127

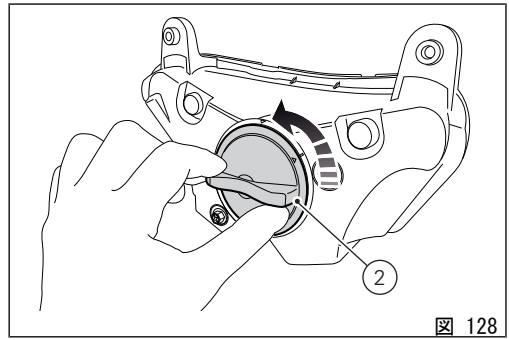


図 128

コネクター(3)を切り離します。
ピン(4)を外します。
電球(5)はバイヨネットベースタイプなので、取り外すには押しながら反時計回りに回します。新しい電球は、押しながら時計回りにカチッという音がするまで回して取り付けます。

参考
レンズの部分は絶対に指で触れないでください。電球の高度が落ちる原因となります。

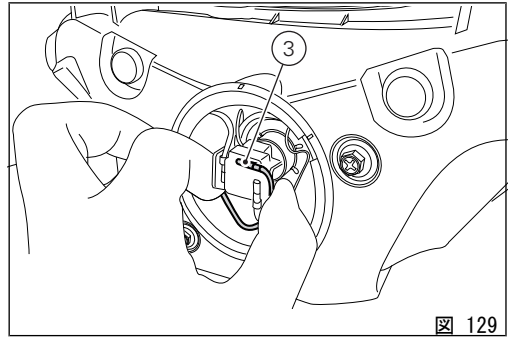


図 129

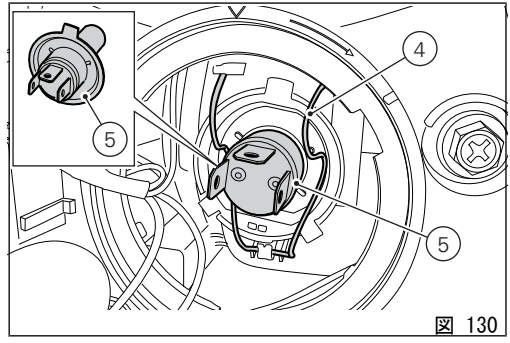


図 130

ターンインジケーターランプの交換

フロント/リアターンインジケーターランプ電球の交換は、スクリュー(1)を緩め、カバー(2)を取り外しておこないます。

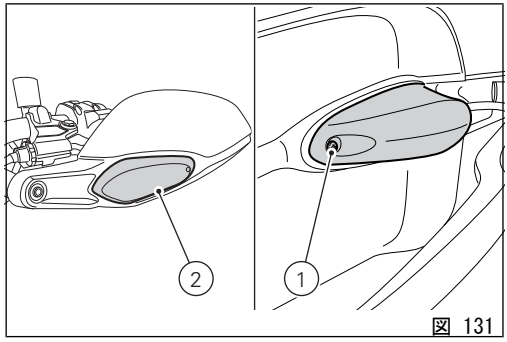


図 131

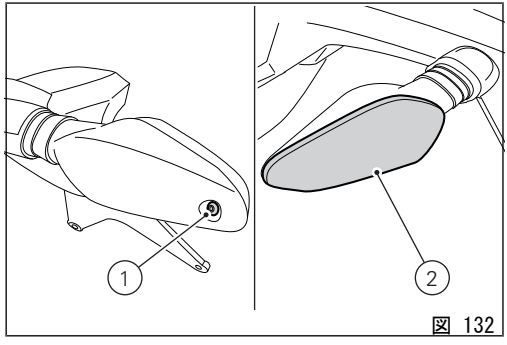


図 132

ナンバープレートランプ

ナンバープレートランプの作業をおこなうには、ナンバープレートランプの小さなふた(1)を開けます。ランプ(2)を抜き取り、新しいものと交換してください。

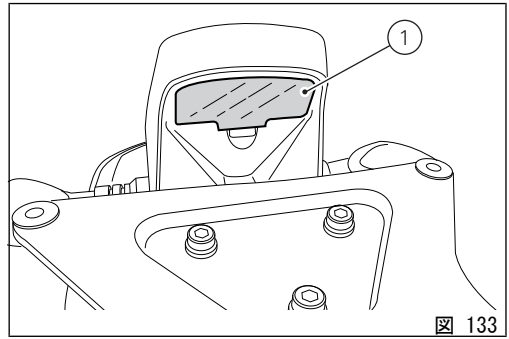


図 133

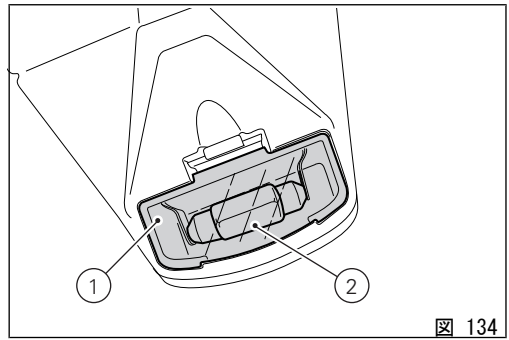


図 134

ヘッドランプの光軸調整

参考
ヘッドライトには右と左の明るさを調整するダブルアジャスターがついてします。

ヘッドランプの光軸をチェックするには、適切な空気圧のタイヤの車両にまたがり、車体を垂直に保ち、縦軸に対して正しい角度を保持します。車両は壁またはスクリーンから10mの距離に配置します。壁にヘッドランプの中心と同じ高さで水平に線を引き、また車体の縦軸に一致する垂直線も引きます。この作業はできれば薄暗い場所で行って下さい。ロービンランプをつけ、左右の光の強さを調整します光の照射範囲の高さが(照射された部分と明るいの部分との境界の上限)、地上からヘッドランプの中心までの高さの9/10以下でなければなりません。

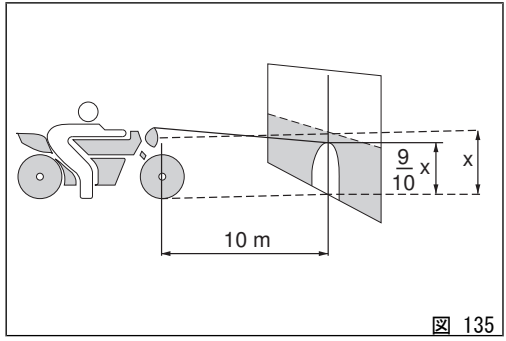


図 135

参考
この方法は、光軸の高さに関するイタリアの規則に準拠したものです。車両を使用する国、地域の法律に従い光軸調整を行ってください。

ヘッドランプの光軸調整

水平方向の光軸調整は、スクリュー(1)を手で操作します。
垂直方向の光軸調整は、スクリュー(2)を手で操作します。

重要
ヘッドランプの調整スクリューは締め付けることができません。

警告
雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

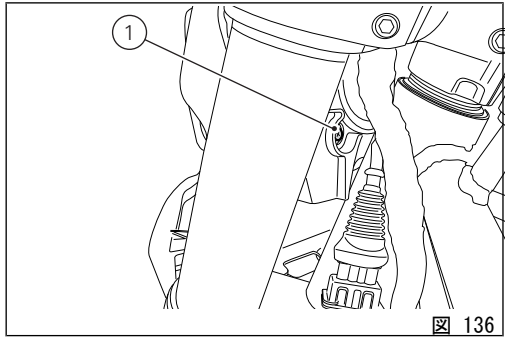


図 136

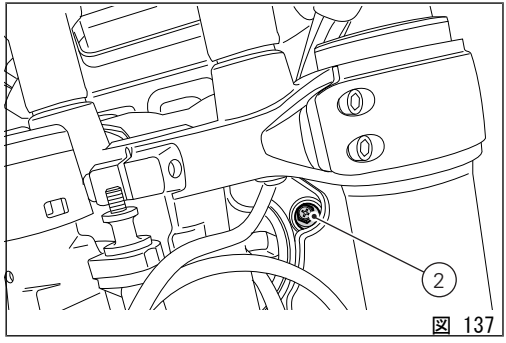


図 137

リアビューミラーの調整

サイドミラー(A)を希望の位置まで手動で調整します。

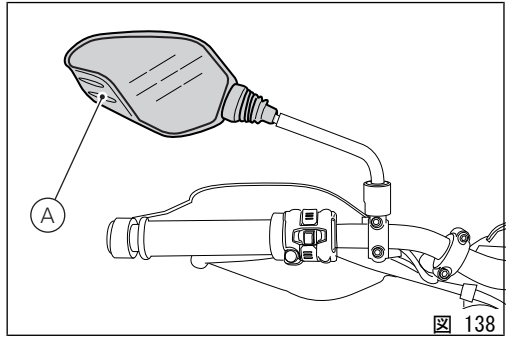


図 138

チューブレスタイヤ

フロントタイヤ空気圧：
2.30 bar（ライダーのみ）- 2.50 bar（最大積載時）。
リアタイヤ空気圧：
2.10 bar（ライダーのみ）- 2.90 bar（最大積載時）。
タイヤの空気圧は外気温や高度によっても変化するので、標高の高い場所や気温差のある場所を走行する場合は、毎回点検と調整を行って下さい。

重要
タイヤの空気圧はタイヤ冷間時に測定してください。フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を 0.2～ 0.3 bar 上げてください。

タイヤの修理、交換(チューブレス)

タイヤに穴が開いた場合、チューブレスタイヤは空気の減り方が遅いため、気付くまでに時間がかかることがあります。タイヤの空気圧が下がってきた場合は、パンクの可能性をチェックします。

警告
パンクしたタイヤは交換してください。交換する際は、標準装備タイヤと同じメーカー、タイプを指定してください。走行中のエア漏れを防ぐため、タイヤのバルブキャップがしっかり締まっていることを確認してください。チューブタイプのタイヤは絶対に装着しないでください。突然タイヤが破裂し、ライダー、パッセンジャーに重大な危険を及ぼすおそれがあります。

タイヤ交換の後には、必ずホイールバランスの点検を行って下さい。

警告
ホイールのバランスウェイトを外したり、移動させたりしないでください。

参考
タイヤの交換ではホイールを正しく着脱することが重要です。タイヤ交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。ホイールにはセンサー、フォニックホイールなどの ABS システム部品が装着されており、特別の調整が必要になります。

タイヤ摩耗の限度

最も磨耗が激しい点のトレッドの最低厚さ(S、図 139)を測定します。2 mm以上で、現地の法律に記載されている厚さ以上でなければなりません。

重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

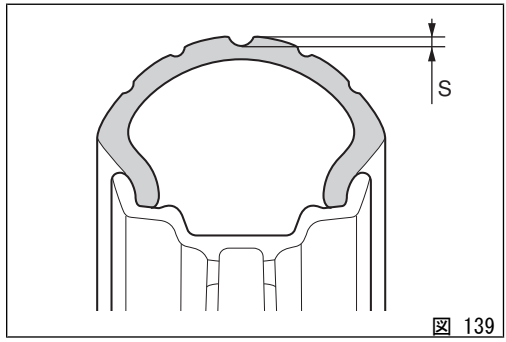


図 139

エンジンオイルレベル点検

エンジンオイルの量は、クラッチカバーにある点検窓(1)から見ることができます。レベルチェックは車体を垂直に配置し、エンジン冷間時に行ってください。オイル液面は、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイル量が不足している場合は、エンジンオイルSHELL Advance 4T Ultraを補充してください。注入口キャップ (2) を外し、指定のオイルを所定のレベルまで補充してください。プラグを取り付けます。

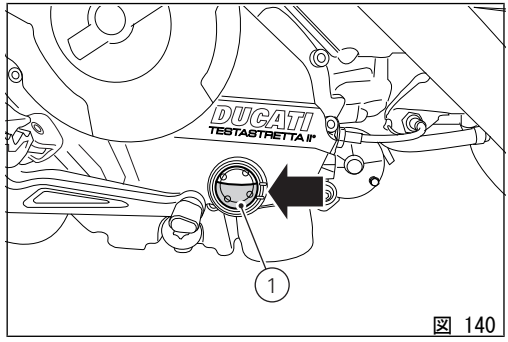


図 140

重要

保証書に記載されている定期点検表に従い、エンジンオイルとオイルフィルターの交換は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

粘度

SAE 15W-50
車両使用環境の気温が表示された規定範囲内であれば、表に示された以外の粘度のオイルも使用できます。

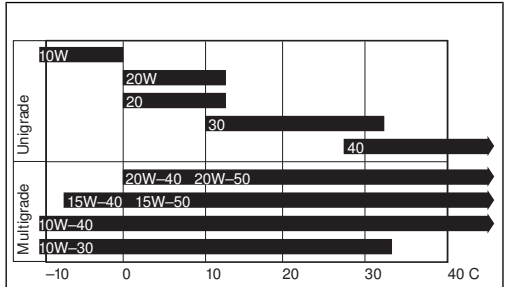


図 141

スパークプラグの清掃と交換

スパークプラグはエンジンの重要な部品ですので、定期的な点検が必要です。
スパークプラグの交換が必要な場合は、Ducatiディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

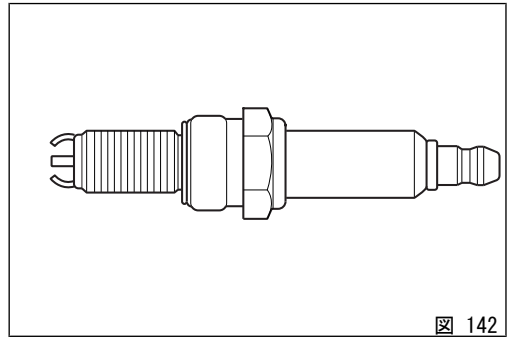


図 142

車両の清掃

塗装部分とメタリック部分の本来の艶を長期間保つため、走行する道路の状態に合わせて、車両を定期的に清掃、洗車しなければなりません。車両に損傷を与えないように、強力な洗剤や溶剤を使用せず、専用の洗剤と水を使って洗車します。
プレキシグラス部分やシートのお手入れには、水と中性洗剤をお使いください。
定期的にアルミニウム製部品を手作業で清掃してください。研磨剤や水酸化ナトリウムが含まれていないアルミニウム専用洗剤を使用してください。

参考

研磨剤付きスポンジやスチールウールは使用せず、柔らかい布のみを使用してください。

十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象になりません。

重要

走行後のボディがまだ暖かい間は、水染み等を防ぐためすぐには洗車をしないで下さい。
高温や、ウォッシャー等の圧力のかかった水で洗浄しないで下さい。
ウオッシャー等の使用は、フォークやホイールベアリング、電装部分、ランプ内部の結露(くもり)、フォークシール、エアー吸入口、エキゾーストサイレンサーの磨耗や変形をもたらし、車両の安全を損ねるおそれがあります。
エンジンにひどく汚れた部分や油脂汚れなどがある時は、油取り用洗剤を使って、トランスミッション系統(チェーン、ギア、リム等)に洗剤がかからない様に洗浄します。

水道水で良くすすぎ、車体全表面部をセーム革で拭きます。

警告

洗車後は、ブレーキ能力が落ちることがあります。ブレーキディスクには絶対に、グリースやその他のいかなるオイルを付けないで下さい。ブレーキ能力が失われます。ディスクは非油性の溶剤で清掃してください。

警告

洗浄、雨、結露などにより、ヘッドランプレンズにくもりが生じることがあります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

ABSシステムが効率よく作動するように、フォニックホイールを入念に清掃してください。ホイールやセンサーをいためますので、強い洗剤、溶剤の使用は避けてください。

長期間の保管

車両を長期間使用しない場合は、保管する前に以下の作業を行うようお薦めします：

- 車両を清掃します。
- 燃料タンクを空にします。
- スパークプラグの穴からシリンダーの中に数滴のエンジンオイルを注入し、エンジンを手で数回転させてシリンダー内壁に保護膜を形成させます。
- 車両をスタンドに立てかけて停車します。
- ケーブルを外し、バッテリーを取り外します。

1ヶ月以上車両を使用しなかった場合には、バッテリーの点検と充電、交換を行う必要があります。
結露を防止し塗装を保護するため、車体はカバーで覆います。

車体カバーはDucatiパフォーマンスにて取り扱っています。

重要注意事項

国によっては(フランス、ドイツ、イギリス、スイス等)排気ガス、騒音規制の基準を設けている場合があります。
法規に義務付けられた定期点検を行う他、規制に適さない部品がある場合は、適合するDucatiオリジナルパーツと取り替えて下さい。

メンテナンスプログラム

メンテナンスプログラム：ディーラーで行うメンテナンス

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル毎、または経過時間*)	Km x1000 マイルx1000	1 0.6	15 9	30 18	45 27	60 36	期間(月)
DDSによる故障メモリーの読み取り、及びコントロールユニットへのソフトウェアのバージョンアップの確認		●	●	●	●	●	12
テクニカルアップデート及びリコールの有無の確認		●	●	●	●	●	12
エンジンオイル及びフィルターの交換		●	●	●	●	●	12
クラッチレバーケーブルバレルに潤滑剤を塗布します		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルインテークフィルター清掃		●					-
バルブクリアランスの点検と調整				●		●	-
タイミングベルトの交換				●		●	-
スパークプラグの交換			●	●	●	●	-
エアフィルターの交換				●		●	-
ブレーキオイルレベル点検		●	●	●	●	●	12
ブレーキオイルの交換							36
ブレーキパッドとディスクの消耗度点検。必要な場合は交換		●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル毎、または経過時間*)	Km x1000 マイルx1000	1 0.6	15 9	30 18	45 27	60 36	期間(月)
安全部品の締め付け点検(ブレーキディスクフランジスクリュー、ブレーキキャリパースクリュー、フロントホイール及びリアホイールのナット、スプロケット及びセカンダリートランスミッションスプロケットのナット)		●	●	●	●	●	12
リアホイールシャフトの点検と潤滑				●		●	-
チェーン張力の点検と潤滑		●	●	●	●	●	12
ファイナルドライブ(チェーン、フロントスプロケット、スプロケット)及びチェーンシューの磨耗点検			●	●	●	●	12
フロントフォーク及びリアショックアブソーバーのシーリング部品の目視点検		●	●	●	●	●	12
フロントフォークオイルの交換					●		-
サイドおよびセンタースタンドの動作及び締め付け点検(装備している場合)		●	●	●	●	●	12
フレキシブルケーブルと配線ケーブルの摩擦部分、遊びと動作、取り付け位置の目視点検		●	●	●	●	●	12
クーラントレベルのチェック		●	●	●	●	●	12
クーラントの交換					●		48
電動ファンの作動点検		●	●	●	●	●	12
タイヤ圧、磨耗点検		●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル毎、または経過時間*)	Km x1000 マイルx1000	1 0.6	15 9	30 18	45 27	60 36	期間(月)
バッテリーチャージレベルの点検		●	●	●	●	●	12
アイドリング点検		●	●	●	●	●	12
セキュリティー電気装置の作動点検（サンドスタンドセンサー、フロント及びリアブレーキスイッチ、エンジン停止スイッチ、ギア/ニュートラルセンサー）		●	●	●	●	●	12
ランプ、インジケーターの点検		●	●	●	●	●	12
DDSを介したサービスインジケーターのリセット		●	●	●	●	●	-
セキュリティーデバイス(例、ABS及びDTC)テストを兼ねた道路上の試運転		●	●	●	●	●	12
車両のソフトクリーニング		●	●	●	●	●	12
定期点検実施の車内資料(サービスブック)への記入		●	●	●	●	●	12

メンテナンスプログラム：お客様が行うメンテナンス

メンテナンス項目/作業内容(km/マイル毎、もしくは経過時間 *)	Km x1000	1
	マイルx1000	0.6
	月	6
エンジンオイルレベル点検		●
ブレーキオイルレベル点検		●
タイヤ圧、磨耗点検		●
チェーン張力の点検と潤滑		●
ブレーキパッドの点検。 必要であれば、ディーラーにて交換して下さい。		●

テクニカルデータ

重量

総重量(燃料-93/93/CEを90%入れた状態の走行時): 194 kg。
総重量 (液体及びバッテリーを含まない): 171 kg。
最大許容重量(最大負荷): 406 kg。

警告
重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

寸法

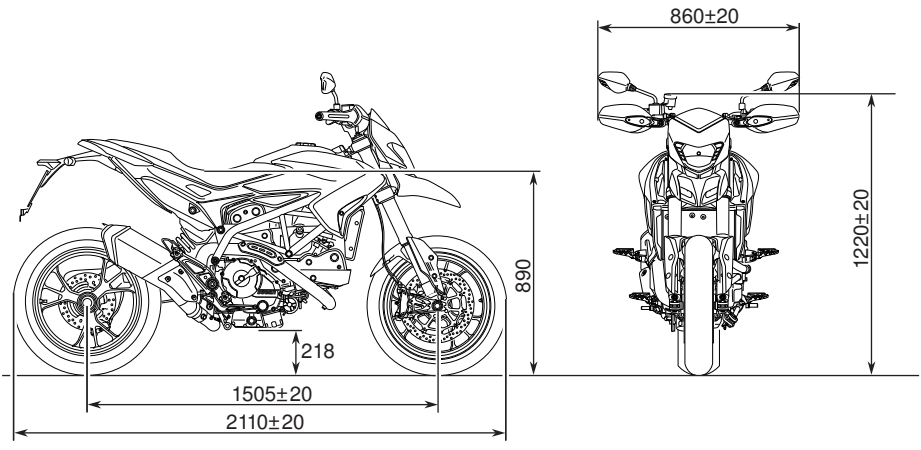


図 143

給油

補給	タイプ	
燃料タンク、リザーブ4リットルを含む	オクタン価95以上の無鉛ガソリン。	16 リットル
潤滑回路	SHELL - Advance 4T Ultra	3.3 リットル
フロント/リアブレーキシステム、クラッチ	SHELL Advance Brake DOT 4	-
電極保護液	SHELL Advance Contact Cleaner	-
フロントフォーク	SHELL Advance Fork 7.5 または Donax TA	230 cc

重要
燃料、潤滑液等には絶対に添加剤を加えないでくださいこうした燃料を使用すると、エンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。

警告
この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

エンジン

90° L型、2気筒4ストローク。

ボア mm：

88.

ストローク mm：

67.5.

総排気量、cm^3：

821.1.

コンプレッション比：

12.8±0.5:1

タイミングシステム

DESMODROMICA、シリンダーあたり4バルブ、8ロッカーアームによる制御、2オーバーヘッドカムシャフト。スパーギア、ベルトローラー/ コグドベルトで駆動されるクランクシャフトによって制御。

デスモドロミックタイミングシステム

1) オープニング(アッパー)ロッカーアーム
2) オープニングロッカーシム
3) クロージング(またはロア) ロッカーアームシム
4) ロッカーアームリターンスプリング
5) クロージング(またはロア) ロッカーアーム
6) カムシャフト
7) バルブ。

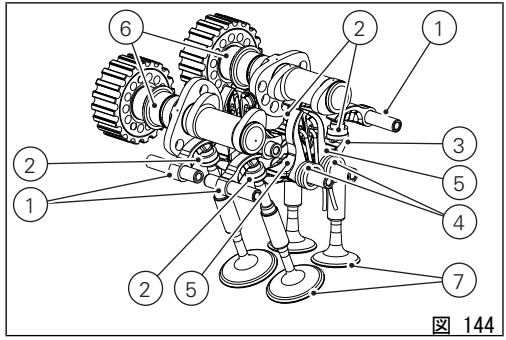


図 144

性能データ

各ギアにおける最高速度は、決められた慣らし期間を正しく行い、適切な定期点検整備を受けた場合にのみ出すことができるようになります。

重要

これは保証の必須条件で、この条件が守られなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮について、Ducatiモーターホールディング社はいかなる責任を負うものではありません。

スパークプラグ

メーカー：
NGK
タイプ：
MAR9A-J

燃料供給

MARELLI製間接式エレクトロニックインジェクションシステム。
径52 mmの円形断面スロットルボディ、フルライドバイワイヤシステム付き。
インジェクター(各シリンダー)：1。
インジェクター口径：4。
ガソリン燃料：95-98 RON。

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁止されています。このような燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用すると保証の対象外になります。

ブレーキ

各ブレーキのアンチブロックシステムは、両タイヤに搭載されたホール効果センサーで制御されます。
ABS解除が可能。

フロント
穴付きセミフローティングダブルディスク。
ブレーキシュー材質：ステンレス。
ハウジング材質：黒色ステンレス。
ディスク径：320 mm。
右側ハンドルレバーによる油圧コントロール。
ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO。
タイプ：M4.3ピストン。
摩擦材：TT 2182 FF。
ポンプタイプ：PR 18/18。

リア
穴付き固定ディスク、スチール製。

ディスク径：245 mm。
車体右側ペダルによる油圧コントロール。
メーカー：BREMBO
タイプ：P34e。
ブレーキパッド材質：FERIT I/D 450 FF。
ポンプタイプ：PR 11。

警告
ブレーキフルードは腐食性があります。
万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

トランスミッション

湿式多板クラッチメカニカルコマンド付き、左側ハンドルバレバーによる操作。サーボアシストおよびアンチホッピングシステム。
エンジンとギアボックスメインシャフト間の駆動伝達。
エンジンスプロケット/クラッチスプロケット比：33/61
6速コンスタントギア、車体左側ペダルによる操作。

ギアスプロケット/リアスプロケット比：15/45
変速比：
1速　15/37
2速　17/30
3速　20/28
4速　22/26
5速　23/24
6速　24/23

トランスミッションチェーン。
メーカー：DID
タイプ：252 VAZ
サイズ：5/8” x 1/16”
リンク数：108

重要
上記のギア比は認可時の値ですので、いかなることがあっても変更してはいけません。

この車両を競技用に仕様変更する場合には、Ducatiモーターホールディング社から特別なギア比に関する情報を提供いたしますので、オフィシャルディーラー又はDucatiサービスセンターにお問い合わせ下さい。

警告
リアスプロケットの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。
この部品の誤った交換は、ライダーおよびパッセンジャーの安全に深刻な危険をもたらし、車両に修復不能な損傷を与える恐れがあります。

フレーム
スチール製パイプトレーリスフレーム。
アルミニウム代キャスト製リアサブフレーム。
ステアリングヘッドアングル：25.5° 。

ホイール
フロント
鍛造軽合金3本スポークホイール。
寸法：MT3.50x17"

リアサスペンション
鍛造軽合金3本スポークホイール。
サイズ：MT5.50x17"

ホイールは両方ともシャフト取り外し可。

タイヤ
フロント
"チューブレス"ラジアルタイヤ。
寸法：120/70-ZR17

リアサスペンション
"チューブレス"ラジアルタイヤ。
寸法：180/55-ZR17

サスペンション
フロント
硬質酸化アルミニウム合金製フルアジャスタブル倒立与圧フォーク。
スタンションチューブ径：
50 mm。
ホイールトラベル：185 mm。

リアサスペンション
プログレッシブタイプ。ショックアブソーバーはリバウンドダンピング、コンプレッションダンピング、スプリングプリロードの調整が可能で、アブソーバー下部が基点となり、ピボットポイントは、アルミニウムダイキャスト製シングルアームスイングアームに接続されています。 このシステムは車両に高い安定性をもたらします。
ショックアブソーバーストローク：61.5 mm。
リアホイールトラベル：175 mm。

エキゾーストシステム

ステンレス製吸収性モノサイレンサー。
排気筒上に2個のラムダセンサーを備えたマフラー内の集積触媒システム。

カラーバリエーション

ベース（ブラック2 Kベース)、部品番号：873.A002 (PALINAL)
ベース（ブラックステルス - ブラック94)、部品番：929.R223 (PALINAL)
ベース（トリコローレホワイト)、部品番号：929.D398 (PALINAL)
クリアー、部品番号：923M1598 (PALINAL)
マーキュリーグレーサブフレーム（マーキュリーグレーパウダー)、部品番号：79086 (INVER)
レッドフレーム（ドゥカティレッド)、部品番号：81784 (INVER)
ブラックホイール。

エレクトリカルシステム

主要構成部品は以下の通りです。
ヘッドランプ：
ロービーム/ハイビームランプ：H4 blue visionランプ（12V - 60/55W）
ポジションランプ：LED8個
ハンドル上スイッチ。
ターンインジケーター:
フロント：ランプGE 2641A 12VRY10W
リア：ランプGE 2641A 12VRY10W.
警告ホーン。
ストップランプスイッチ。
バッテリー、12V-10 Ah、ドライ。
ジェネレーター、14V-490W。
電子レギュレーター、リアヒューズボックス
(C, 図 147)近くの30Aのヒューズで保護されています。
スターターモーター：12V-0.7 kW.
テールライト
ポジションランプ：LED（0.27W/-13.5W)6個
ストップランプ：LED（2.43W-13.5V)6個。
ナンバープレートランプ
ランプ：C5W（12-5W)。

参考

電球の交換は、"ハイ/ロービーム電球の交換"を参照してください。

ヒューズ

エレクトリックコンポーネントプロテクトはフロントおよびリアヒューズボックス内に13、スターターコンタクター上に1つあります。それぞれのボックス内に補給ヒューズがあります。
用途およびアンペア値については表を参照してください。

フロントヒューズボックス(A, 図 145)は左側にあり、作業するには左フロントフェアリングを取り外します。ヒューズの交換には、各ヒューズの配置と定格が表記された保護カバーを外してください。
リアヒューズボックス(B, 図 146)はシート下、ABSコントロールユニットの脇にあります。リアヒューズボックスの作業をおこなうにはシートを取り外します ページ 140を参照してください。ヒューズの交換には、各ヒューズの配置と定格が表記された保護カバーを外してください。

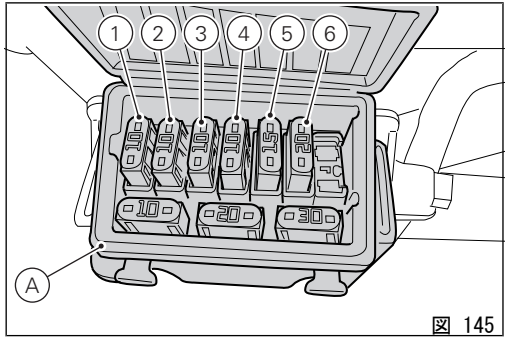


図 145

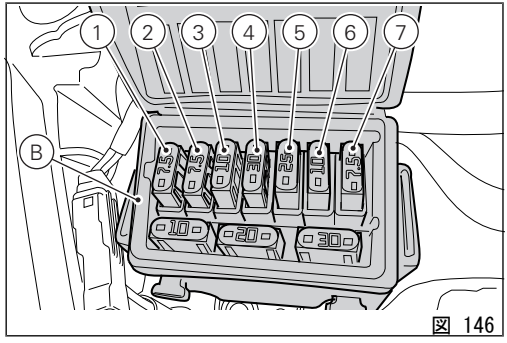


図 146

フロントヒューズボックス凡例		
配置	内容	数値
1	ランプ	10 A
2	インストルメントパネル	10 A
3	キー-1	15 A
4	キー-2	10 A
5	キー-7SM	15 A
6	インジェクション	20 A
7	-	-

リアヒューズボックス凡例		
配置	内容	数値
1	Key-sense	7.5 A
2	診断	7.5 A
3	Black Boxシステム (BBS)	10 A
4	ABS 1	30 A
5	ABS 2	25 A
6	アラーム	10 A

リアヒューズボックス凡例		
7	エンジンコントロールユニット	7.5 A

メインヒューズ(C)は、スターターコンタクター(D)上、リアヒューズボックスの近くに位置しています。交換の際は保護キャップ(E)を取り外して下さい。切れたヒューズは、インナーフィラメントが溶断していることで確認できます(F)。

重要

回路のショートを防止するために、ヒューズ交換の前にイグニッションキーを OFF にしてください。

警告

表示されている規定以外のヒューズは決して使用しないでください。上記事項を守らなかった場合、エレクトリカルシステムの損傷や火災を引き起こすおそれがあります。

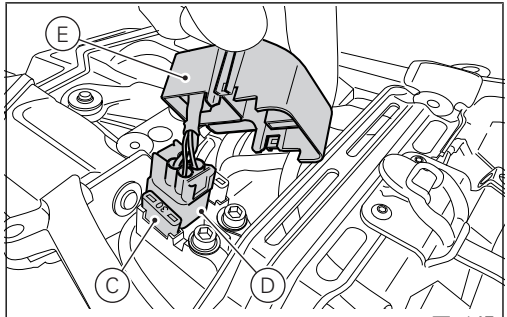


図 147

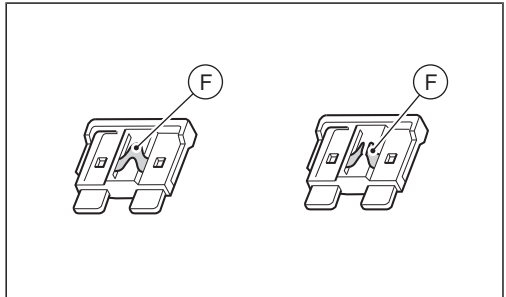


図 148

インジェクション/エレクトリカルシステム配線図凡例

1) 右側スイッチ
2) イグニッションシステム(キーブロック)
3) メインリレー
4) レギュレーター
5) ジェネレーター
6) ナビゲーター
7) フロントヒューズボックス
8) スターターモーター
9) ヒューズコンタクター
10) バッテリー
11) アース配線
12) データの獲得/ 診断
13) リアヒューズボックス
14) ABSコントロールユニット
15) ABS診断
16) フロントスピードセンサー
17) リアスピードセンサー
18) 右ファン
19) 左ファン
20) リアライト
21) 右リアターンインジケーター
22) 後部配線
23) 左リアターンインジケーター
24) エキゾーストバルブモーター
25) 車両コントロールユニット(BBS)
26) 防犯アラーム
27) オイルプレッシャースイッチ
28) ギアセンサー
29) サイドスタンドスイッチ
30) クラッチスイッチ
31) エンジン回転作動センサー
32) バーチカルMAPセンサー
33) ホリゾンタルMAPセンサー
34) エンジン温度
35) バーチカルラムダセンサー
36) ホリゾンタルラムダセンサー
37) ガスグリップポジションセンサー(APS)
38) ポテンシオメーター/ ホリゾンタルライドバイワイヤ (TPS/ETV)
39) ポテンシオメーター/ バーチカルライドバイワイヤ (TPS/ETV)
40) バーチカルコイル
41) ホリゾンタルコイル
42) ホリゾンタルメインインジェクター
43) バーチカルメインインジェクター
44) セカンダリーエアアクチュエーター
45) フューエルポンプ
46) 燃料ポンプリレー
47) コントロールユニット - フレームコネクター

48) コントロールユニット - エンジンコネクター
49) 左側スイッチ
50) 左フロントターンインジケーター
51) 警告ホーン
52) 気温センサー
53) ヒートグリップ
54) インストルメントパネル
55) リアストップ
56) フロントストップ
57) 右フロントターンインジケーター
58) ヘッドランプ
59) シリアルライン
60) イモビライザー

配線カラー表

B 青
W 白
V 紫
Bk 黒
Y 黄
R 赤
Lb ライトブルー
Gr グレー
G 緑
Bn 茶
O オレンジ
P ピンク

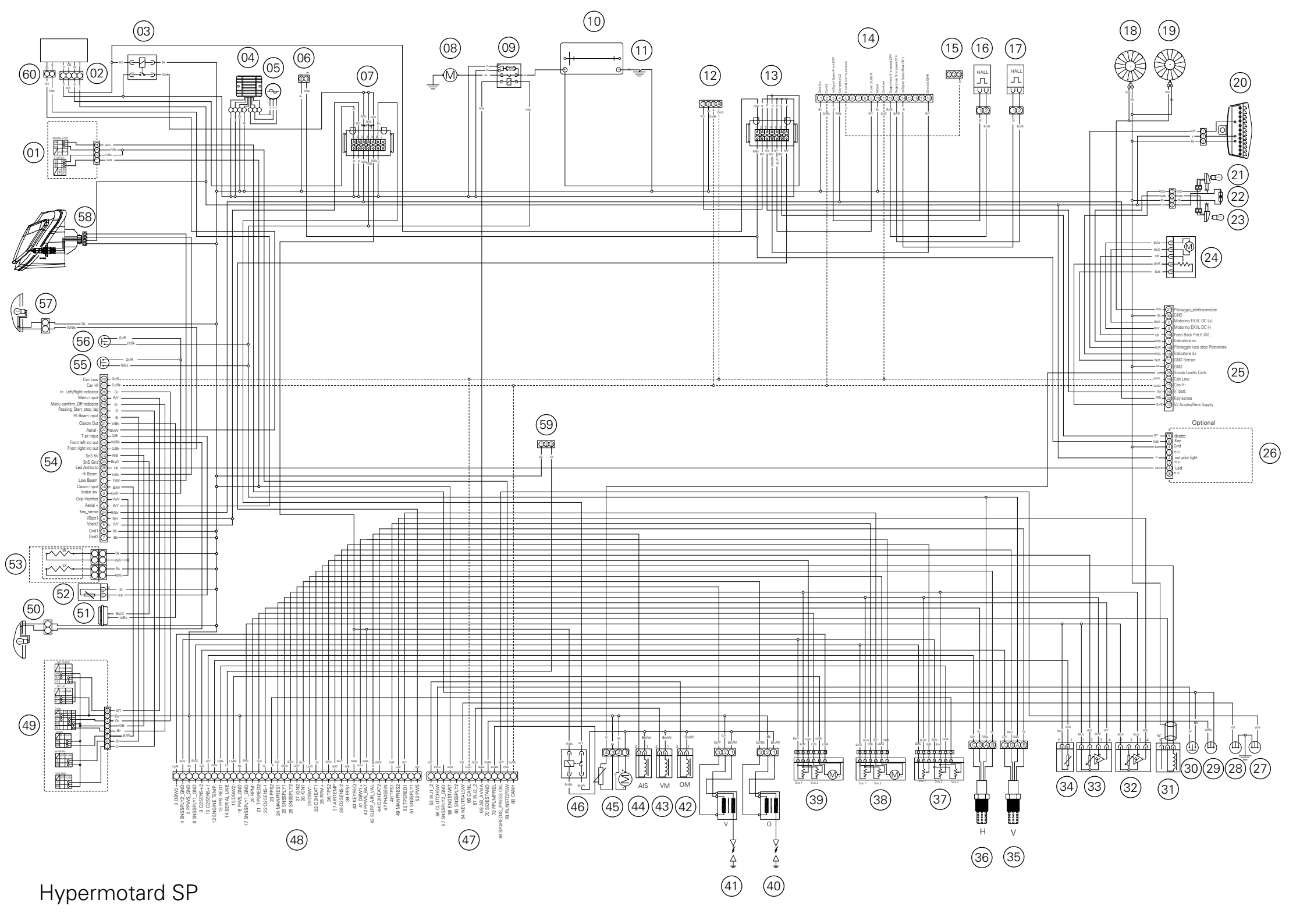
参考
配線図はマニュアルの最後部にあります。

定期点検メモ

定期点検メモ

KM	DUCATI サービスセンター名	走行距離	実施日
1000			
15000			
30000			
45000			
60000			

Stampato 07/2014 Cod. 913.7.256.1B



Hypermotard SP

cod. 913.7256.1B

Ducati Motor Holding spa
www.ducati.com

Via Cavalieri Ducati, 3
40132 Bologna, Italy
Ph. +39 051 6413111
Fax +39 051 406580

Società a Socio Unico
soggetta all'attività di Direzione
e Coordinamento di AUDI AG

A Sole Shareholder Company
subject to the Management and
Coordination activities of AUDI AG